

EPSON

Endeavor ST170E



ユーザーズマニュアル

Windows 7

ご使用前に

- コンピューターをご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みの上、正しくお使いください。

情報マップ (知りたい情報はどこにある?)

本機に関する情報は、次の場所で見ることができます。

購入時

使いはじめ

使いこなしたいとき

困ったとき

故障したとき

やりたいこと

- 本機の添付品を知りたい
- Windowsをセットアップしたい

- 本機を設置したい

- インターネット/メールをしたい
- Windowsの操作方法を知りたい
- 用語を調べたい

- ソフトウェアの操作方法を知りたい
- 周辺機器(プリンター、デジタルカメラなど)を使いたい

- オプション製品(キーボード、マウス、ソフトウェアなど)を使いたい

- 光ディスクメディアを使いたい
(機器搭載時) **p.42**



- 無線LANに接続したい(オプション)
p.70



- セキュリティー設定をしたい **p.92**



- 装置を増設・交換したい **p.105**



- サウンドの設定をしたい **p.61**

- Bluetooth機器を使いたい(オプション)
p.87

- 添付ソフトを知りたい **p.21**

- USB機器を接続したい **p.50**

- UEFIの設定を変更したい **p.119**

- RAIDを構成したい **p.34**

- HDD領域を変更したい **p.182**

- 再インストール(リカバリー)をしたい
p.143

- 省電力で使いたい **p.98**

- 本機の仕様を知りたい **p.189**

- トラブルを解決したい **p.159**

- システム診断をしたい **p.176**

- サポート・サービス情報を知りたい

- 修理を依頼したい



紙マニュアル

紙で添付されている情報です。



PC お役立ちナビ

コンピューターの画面で見る電子の情報です。

情報の場所



『スタートアップガイド』



【お役立ち】



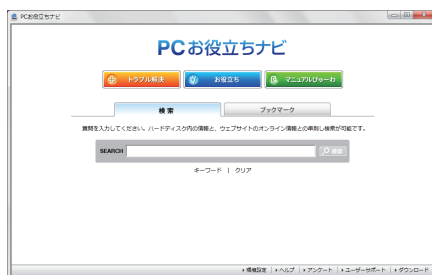
オプション製品のマニュアル



ユーザーズマニュアル(本書)



PCお役立ちナビ p.4



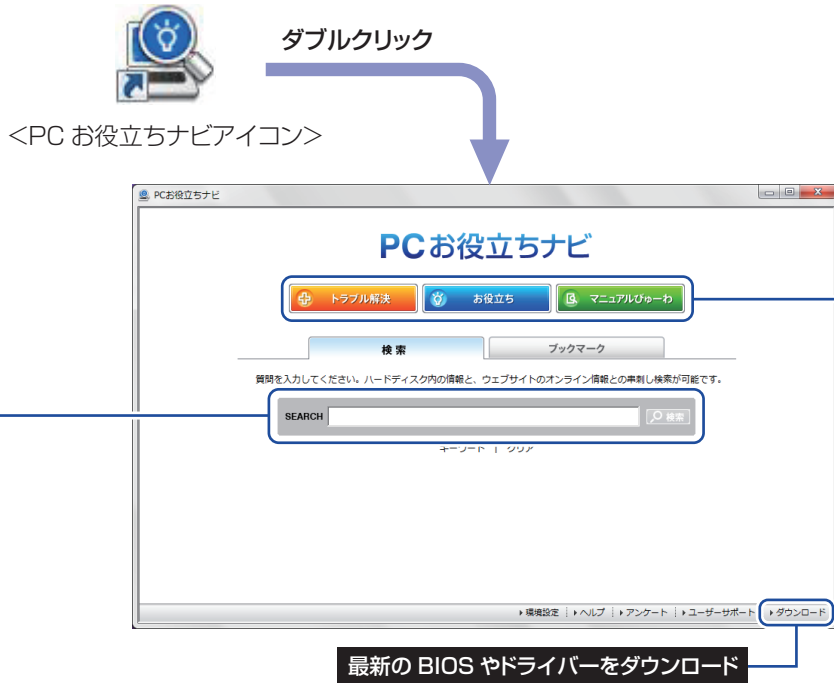
【トラブル解決】



『サポート・サービスのご案内』

知りたい情報はこれで検索！ PC お役立ちナビ

本機には、知りたい情報を簡単に検索できるサポートツール「PC お役立ちナビ」が搭載されています。困ったときや、役立つ情報を知りたいときなどにお使いください。最新のUEFI やドライバーもダウンロードできます。

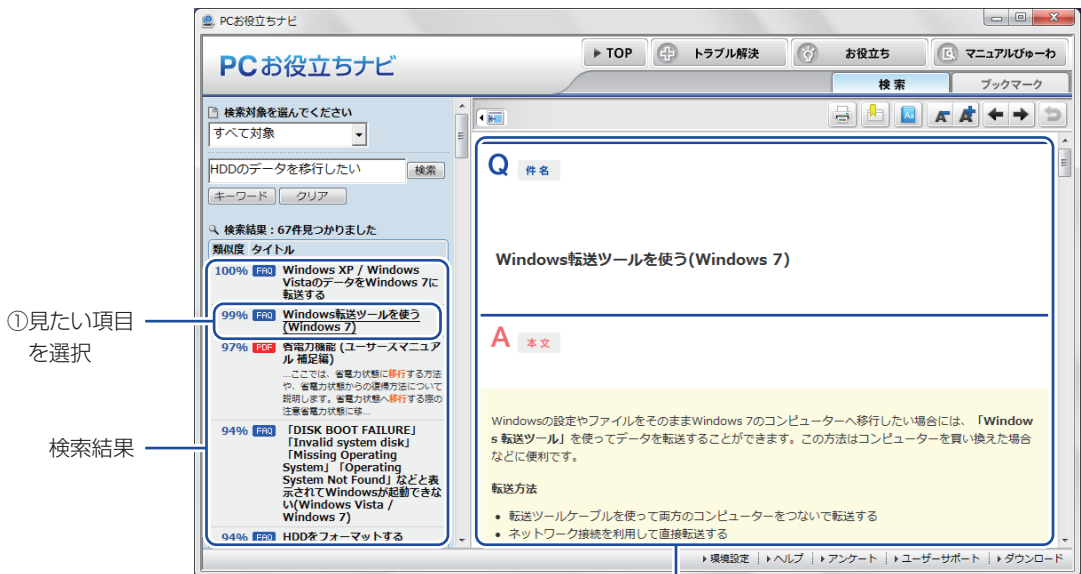


① 検索をする

TOPページから
検索実行

本機に収録されている情報+ユーザーサポート
ページのオンライン情報を一度に検索

※本機に収録されている情報 = サポートコンテンツ・マニュアル (PDF)・ヘルプなど
※インターネットに接続していない場合は、本機に収録されている情報のみを検索します。



②内容が表示される

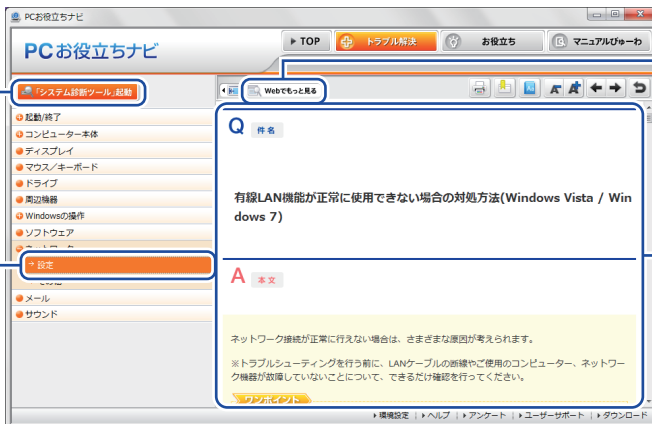
② おすすめコンテンツ・マニュアルを見る

トラブル解決

トラブル解決に役立つ情報や、システム診断ツールを収録しています。

システム診断
を実行

①トラブルの種類
を選択



もっと情報が見たい
とき→Webへ

②内容が表示される

お役立ち

コンピューターの便利な使い方や、役立つ情報を収録しています。

①情報の分類を
選択

②見たい項目を
選択



もっと情報が見たい
とき→Webへ

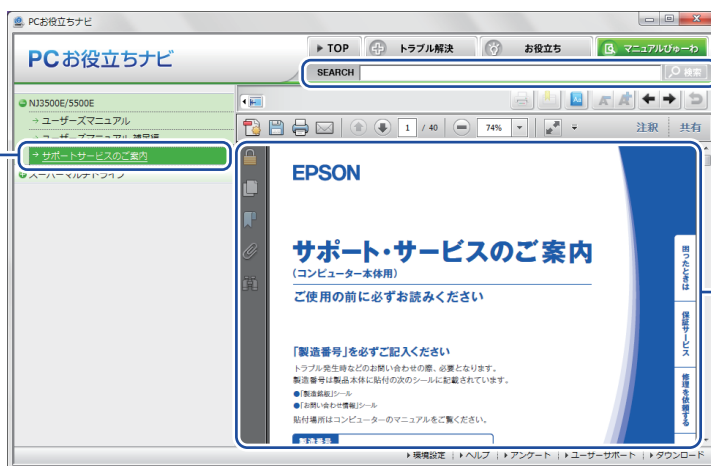
[お役立ち]内の
情報を検索

③内容が表示される

マニュアルびゅーわ

本機に添付されているマニュアルのPDFデータを収録しています。

①見たいマニュアル
を選択



[マニュアルびゅーわ]
内の情報を検索

②マニュアル(PDF)
が表示される

<イメージ>

目次

ご使用の前に

製品保護上の注意.....	10
無線 LAN 使用時のセキュリティに関する注意.....	13
マニュアルの読み方.....	14
各部の名称.....	19
添付されているソフトウェア.....	21

1 コンピューターの基本操作

Windows 操作のヒント.....	24
マウスを使う.....	28
キーボードを使う.....	29
HDD の概要.....	32
RAID 機能.....	34
光ディスクメディアを使う.....	42
USB 機器を使う.....	50
画面表示機能.....	52
サウンド機能.....	61
ネットワーク機能 (有線 LAN).....	66
無線 LAN 機能 (オプション).....	70
Bluetooth 機能 (オプション).....	87
インターネットを使用する際のセキュリティ対策... ..	92
省電力機能.....	98
そのほかの機能.....	103

2 装置の増設・交換

増設・交換できる装置.....	106
作業時の注意.....	107
メモリーの装着.....	108
HDD の交換.....	113

3

UEFI の設定

UEFI の設定を始める前に.....	120
UEFI Setup ユーティリティの操作.....	121
UEFI Setup ユーティリティの設定項目.....	133

4

ソフトウェアの再インストール

再インストールの前に.....	144
Windows のインストール.....	147
ドライバー / ソフトウェアのインストール.....	153
再インストール後の作業.....	156

5

困ったときは

トラブルが発生したら.....	160
起動・画面表示できないときは.....	162
トラブル時に効果的な対処方法.....	167

付録

お手入れ.....	180
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化... ..	181
HDD 領域の変更.....	182
コンピューターを廃棄するときは.....	186
機能仕様一覧.....	189



ご使用前に

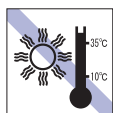
本機を使い始める前に知っておいていただきたい事項や、取り扱い上の注意などを説明します。

製品保護上の注意.....	10
無線 LAN 使用時のセキュリティに関する注意...	13
マニュアルの読み方.....	14
各部の名称.....	19
添付されているソフトウェア.....	21

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

コンピューター（本機）は精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。

故障、誤動作の原因となります。適切な温度の目安は 10℃～35℃です。



直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。

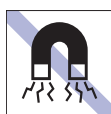
故障、誤動作の原因となります。また、直射日光などの紫外線は、変色の原因となります。



温度が低い場所から温度が高い場所へ本機を急に移動させると、結露が発生する場合があります。

結露したまま本機を使用すると、故障、誤動作の原因となります。

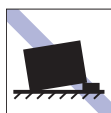
結露が発生した場合は、本機が室温と同じくらいの温度になるのを待ってから、使用してください。



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。誤動作やデータ破損の原因となることがあります。逆に、本機の影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



ホコリの多い所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。



不安定な所には設置しないでください。落下したり、振動したり、倒れたりすると、本機が壊れ、故障することがあります。



他の機械の振動が伝わる所など、振動しやすい場所には置かないでください。故障、誤動作の原因となります。

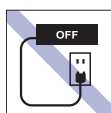


本機の上には重い物を載せないでください（本機を横置きで使用する場合は、7kgまでのディスプレイを載せることができます）。重圧により、故障や誤動作の原因となります。



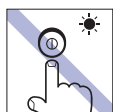
電源コードが抜けやすい所（コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など）に本機を置かないでください。

電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリー上から消えてしまいます。



コンセントに電源プラグを接続したまま、本体カバーを外して作業しないでください。

電源を切っても、本機内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



アクセスランプ点灯・点滅中は、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。

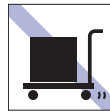


移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。

内蔵の周辺機器（HDD、光ディスクドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



本機の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を適度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



本機を梱包しない状態で、遠隔地への輸送や保管をしないでください。衝撃や振動、ホコリなどから本機を守るため、専用の梱包箱に入れてください。



輸送や保管をするときは、付属物をセットしたままにしないでください。配線ケーブルはすべて取り外し、光ディスクメディアなどは取り出してください。



ACアダプターはコードを持って抜き差ししないでください。コードの断線や接触不良の原因となります。



無停電電源装置（UPS）を使用する場合は、正弦波出力のUPSを使用してください。正弦波出力以外のUPSを使用すると、本機が起動できなくなったり、動作が不安定になったりする場合があります。



ACアダプターの上に乗ったり、踏みついたり、重い物を載せるなどして、ケースを破損しないでください。

光ディスクメディア

光ディスクメディアは、次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、光ディスクメディアに収録されているデータが破損するおそれがあります。



直射日光が当たる所、発熱器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



ゴミやホコリの多い所では、使用したり保管したりしないでください。



上に物を載せないでください。



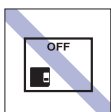
キズを付けないでください。



クリップで挟む、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。



使用後は、本機にセットしたままにしたり、ケースに入れずに放置したりしないでください。



温度差の激しい場所に置かないでください。結露する可能性があります。



信号面（文字などが印刷されていない面）に触れないでください。



信号面（文字などが印刷されていない面）に文字などを書き込まないでください。



シールを貼らないでください。



レコードのように回転させて拭かないでください。
内側から外側に向かって拭いてください。



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD 専用クリーナーを使ってください。



光ディスクドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングする CD は使わないでください。

マウス

マウスは精密な機械です。次の注意事項を確認して正しく取り扱ってください。取り扱いを誤ると、故障や誤動作の原因となります。



ゴミやホコリの多いところで使用したり、保管したりしないでください。レンズにゴミやホコリが付いたまま使用すると、誤動作の原因になります。



レンズ部分に触れないでください。



落としたり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



持ち運びの際はマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。

無線 LAN 使用時の セキュリティに関する注意

お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。無線 LAN を使用する前に、必ずお読みください。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報

- メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）

- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）

- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）

- コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。


本来、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

したがって、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN や無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

※ セキュリティ対策を施さず、または、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

マニュアルの読み方

本製品の仕様とカスタマイズ

本製品は、ご購入時にお客様が選択されたオプションによって、仕様がカスタマイズされています。CPU の種類・メモリー容量・光ディスクドライブなど、選択された仕様に合わせて、お客様オリジナルのコンピューターとして組み立て、納品されています。

本書で記載しているコンピューターの製品仕様

本書では特に記載がない限り、下記の製品仕様で説明を行っています。お客様が購入された製品の仕様が下記と異なる場合、それらの使用方法やドライバーのインストール方法などは、購入時に選択された各装置のマニュアルを参照してください。

メモリー	: 1 組 (2 枚)
HDD	: 1 台
光ディスクドライブ	: なし
ディスプレイ機能	: CPU の機能を使用
ネットワーク機能	: マザーボードの機能を使用
サウンド機能	: マザーボードの機能を使用

仕様によって必要なマニュアル

本製品の操作に必要なマニュアルは、お客様が選択された仕様によって、「ユーザーズマニュアル」(本書)とは別に提供されている場合があります。



お使いになる仕様によって必要となるマニュアルは、下記のとおり別冊や電子マニュアルなどの形式で提供されていますので、ご確認ください。

- 本製品に同梱されている別冊マニュアル
- CD-ROM などに収録されている電子マニュアル (PDF ファイルなど)
- 「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 に収録されている電子マニュアル

マニュアル中の表記










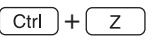


安全に関する記号

本書では次のような記号を使用しています。

	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。




一般情報に関する記号

本書では、次のような一般情報に関する記号を使用しています。

	制限事項です。 機能または操作上の制限事項を記載しています。
	参考事項です。 覚えておくと便利なことを記載しています。
	操作手順です。 ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。
	手順が次ページに続くことを示します。
	 で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。  は Enter キーを表します。また、  は  のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、キートップに印字された文字とは異なる場合があります。
	+の前のキーを押したまま+の後のキーを押します。 この例では、  を押したまま  を押します。

参照先に関する記号

本書では、次のような参照先に関する記号を使用しています。

	本書内の参照ページを示します。
	別冊子を示します。
「 」	冊子の名称を示します。 例) 『サポート・サービスのご案内』
	サポートツール「PC お役立ちナビ」を示します。

名称の表記

本書では、本機で使用する製品の名称を次のように表記しています。

HDD	ハードディスクドライブ
光ディスクメディア	CD メディア、DVD メディア、Blu-ray Disc メディアなど
光ディスクドライブ	光ディスクメディアを使用するためのドライブの総称

オペレーティングシステム (OS) に関する表記

本書では、オペレーティングシステム (OS) の名称を次のように略して表記します。

Windows 7 32bit 版	Windows [®] 7 Professional 32bit 版 Windows [®] 7 Home Premium 32bit 版
Windows 7 64bit 版	Windows [®] 7 Professional 64bit 版 Windows [®] 7 Home Premium 64bit 版

HDD 容量の記載

本書では、HDD 容量を 1GB (ギガバイト) =1000MB として記載しています。

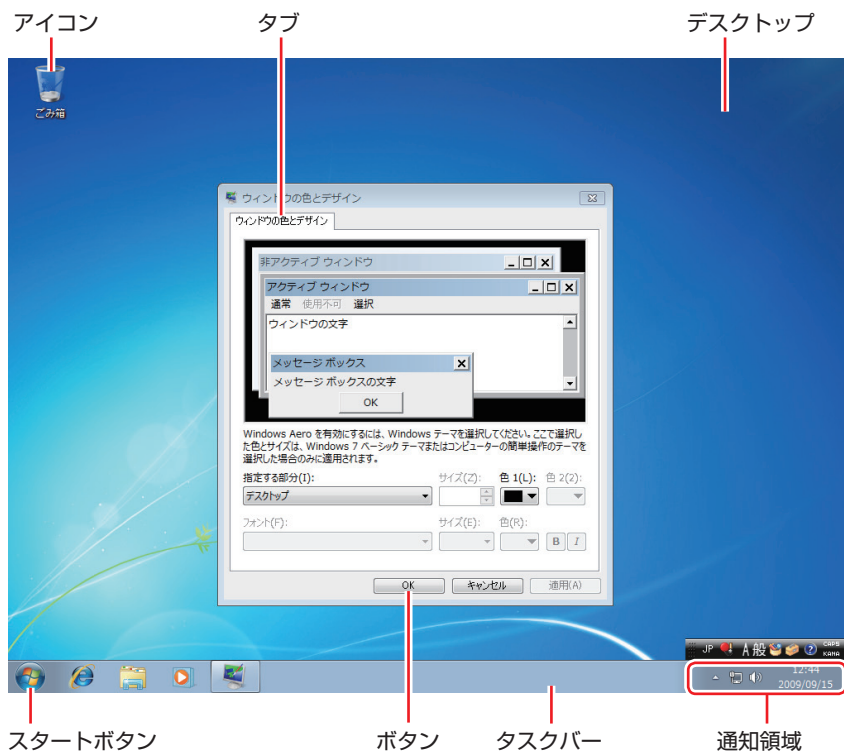
メモリー容量の記載

本書では、メモリー容量を 1GB (ギガバイト) =1024MB として記載しています。

Windows の画面表示に関する記載方法

デスクトップ画面

本書では、Windows の画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタン

ボタンは [] で囲んで記載しています。

例)  : [OK]

スタートメニュー

スタートメニューのボタン類は、次のように記載します。



画面操作

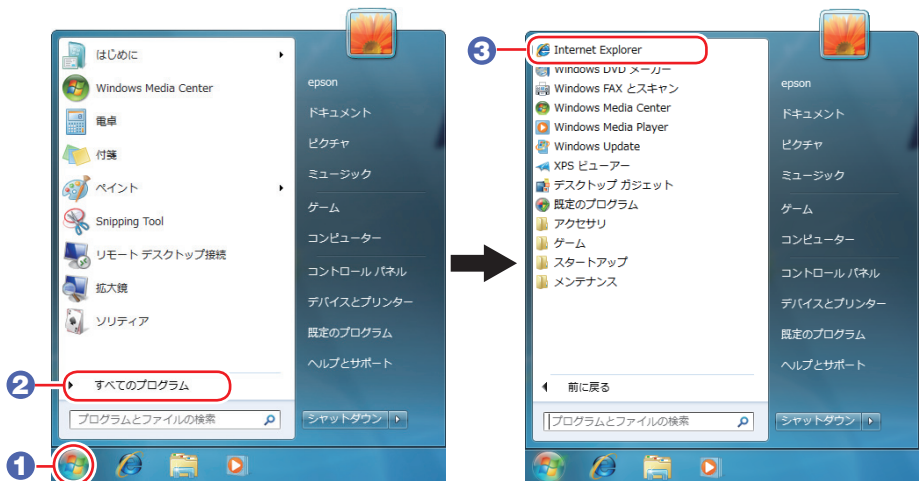
本書では、Windows の画面上で行う操作手順を次のように記載します。

●記載例

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」 をクリックします。

●実際の操作

- 1 [スタート] をクリックします。
- 2 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。
- 3 表示されたメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



※表示される項目は、システム構成によって異なります。

コントロールパネル

本書では、コントロールパネルの表示が、「カテゴリ」であることを前提に記載しています。

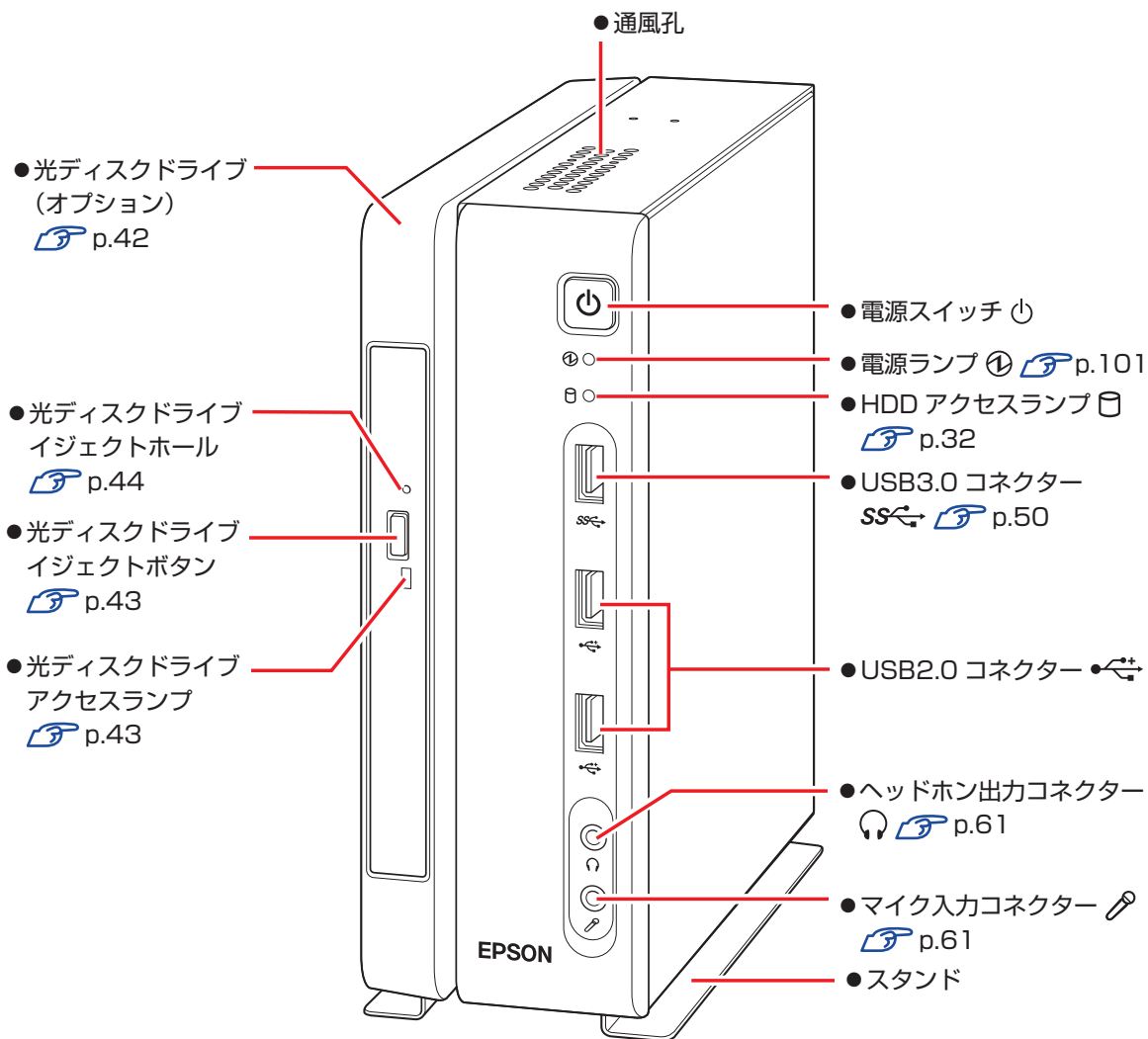


<表示方法：カテゴリ>

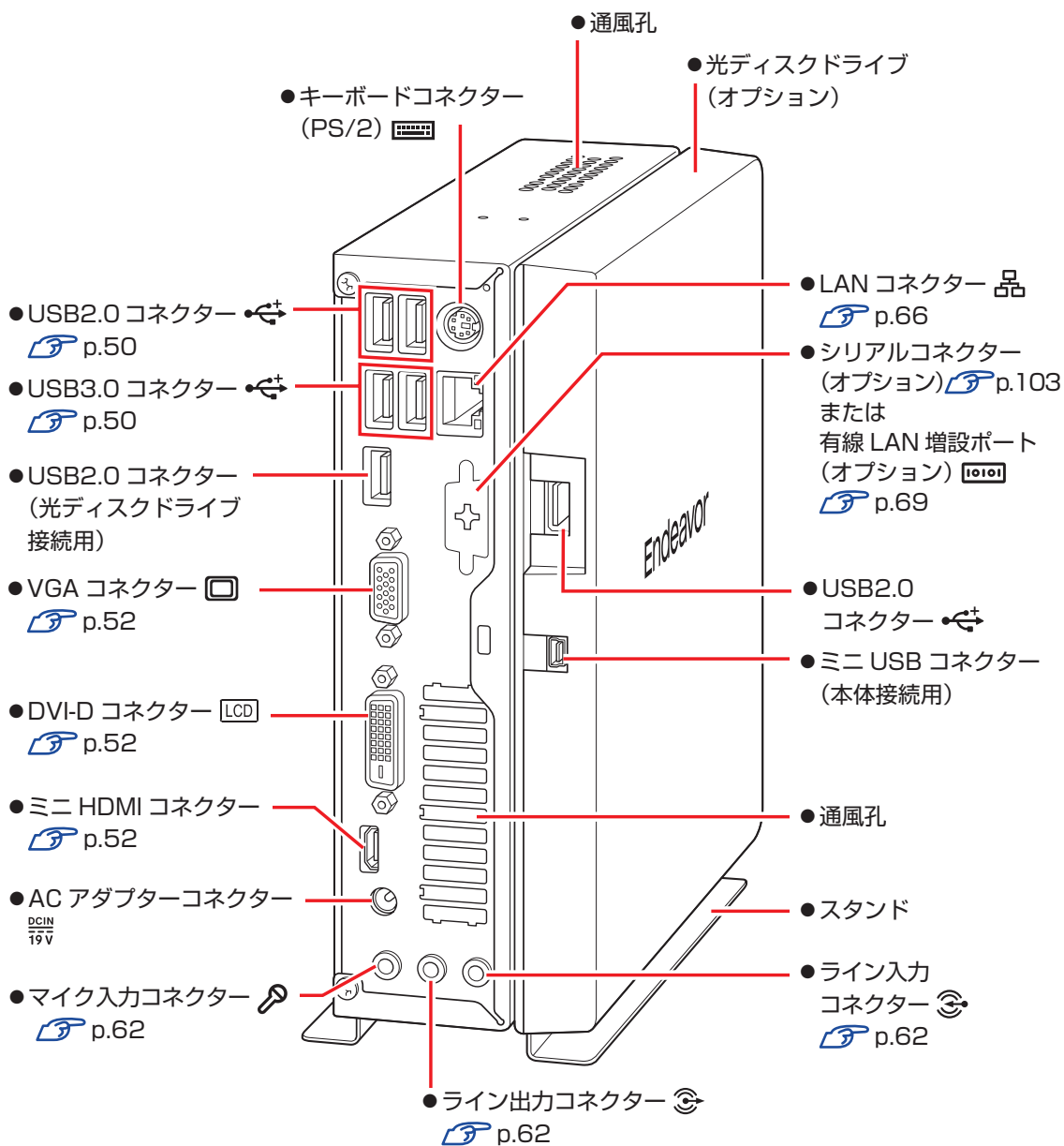
各部の名称

本機の各部の名称を記載します。

本体前面



本体背面













添付されているソフトウェア

本機に添付されているソフトウェアについて説明します。

本機にインストールされているソフトウェア


次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされています。

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
<ul style="list-style-type: none">●Windows 7 本機のおペレーティングシステム (OS) です。	 Windows 7 リカバリー DVD
<ul style="list-style-type: none">●Windows XP Mode (Windows 7 Professional のみ)  p.27 Windows 7 上で Windows XP を起動し、Windows XP のアプリケーションを動作させるための機能です。	
<ul style="list-style-type: none">●本体ドライバー<ul style="list-style-type: none">•チップセットドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。•Intel Management Engine ドライバー マザーボード上のデバイスを使用するためのドライバーです。•Intel Rapid Storage Technology Windows 上で HDD の状態を確認するためのユーティリティです。•ビデオドライバー CPU のビデオ機能を使用するためのドライバーです。•サウンドドライバー マザーボード上のサウンド機能を使用するためのドライバーです。•ネットワークドライバー マザーボード上のネットワーク機能を使用するためのドライバーです。•有線 LAN 増設ポートドライバー (有線 LAN 増設ポート搭載時) 有線 LAN 増設ポートを使用するためのドライバーです。•無線 LAN ドライバー (無線 LAN 機能内蔵時) 無線 LAN を使用するためのドライバーです。•Bluetooth ドライバー (Bluetooth 機能内蔵時) Bluetooth を使用するためのドライバーです。•USB3.0 ドライバー USB3.0 を使用するためのドライバーです。•Microsoft .Net Framework 4.0 .Net Framework 4.0 で作成されたアプリケーションなどを使用するためのプログラムです。	 ドライバー DVD
<ul style="list-style-type: none">●PC お役立ちナビ  p.4, p.160 コンピューターの情報を簡単に検索できるサポートツールです。 システム診断ツールも含まれています。	
<ul style="list-style-type: none">●Adobe Reader PDF (Portable Document Format) 形式のファイルを表示したり、印刷したりするためのソフトウェアです。	
<ul style="list-style-type: none">●Windows Essentials  p.26 「Windows Live メール」など、複数のソフトウェアを含むパッケージです。	

本機にインストールされているソフトウェア	インストール用データの収録場所
● Skype インターネット経由で通話やチャットができるアプリです。	 ドライバー DVD
● Internet Explorer 11 Web ページを閲覧するためのソフトウェアです。	
● WinDVD または PowerDVD (光ディスクドライブ搭載時)  p.45 DVD VIDEO を再生するためのソフトウェアです。	 WinDVD CD-ROM
● Nero 12 Essentials  p.49 (書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時) 光ディスクメディアに書き込みを行うためのソフトウェアです。	 Nero 12 Essentials CD-ROM

必要に応じてインストールするソフトウェア



次のソフトウェアは、購入時、本機にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

必要に応じてインストールするソフトウェア	インストール用データの収録場所
● マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日間限定版 *  p.93 ウイルス駆除機能、不正アクセス防止機能などを備えたセキュリティソフトウェアです。危険なサイトへのアクセスを防ぐ Web セーフティーツール「マカフィー・サイトアドバイザー ライブ」も含まれています。	 ドライバー DVD
● i-フィルター 6 30 日版 *  p.97 インターネット上の有害な Web ページへのアクセスを制限する Web フィルタリングソフトウェアです。	
● Endeavor 電源プラン設定ツール *  p.102 本機に節電設定を行うためのソフトウェアです。	
● インテル WiDi ソフトウェア  p.58 (無線機能内蔵時) インテル WiDi (ワイヤレス・ディスプレイ) を使用するためのユーティリティです。	
● セキュリティチップユーティリティ  p.181 セキュリティチップ (TPM) の設定を行うためのユーティリティです。	
● ATOK 無償試用版 (30 日間) * 日本語変換に優れた、日本語入力システムです。	

* 購入時は、「初期設定ツール」からインストールすることができます。

DVD から起動するソフトウェア

次のソフトウェアは、DVD から起動して実行します。インストールは必要ありません。

DVD から起動するソフトウェア	ソフトウェアの収録場所
● システム診断ツール  p.176, p.187 本機の調子が悪いときにシステム診断を行うためのツールです。HDD 内のデータを消去することもできます。	 ドライバー DVD

1

コンピューターの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について説明します。

Windows 操作のヒント.....	24
マウスを使う	28
キーボードを使う.....	29
HDD の概要.....	32
RAID 機能.....	34
光ディスクメディアを使う	42
USB 機器を使う	50
画面表示機能	52
サウンド機能	61
ネットワーク機能（有線 LAN）.....	66
無線 LAN 機能（オプション）.....	70
Bluetooth 機能（オプション）.....	87
インターネットを使用する際のセキュリティー対策...	92
省電力機能	98
そのほかの機能.....	103

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。

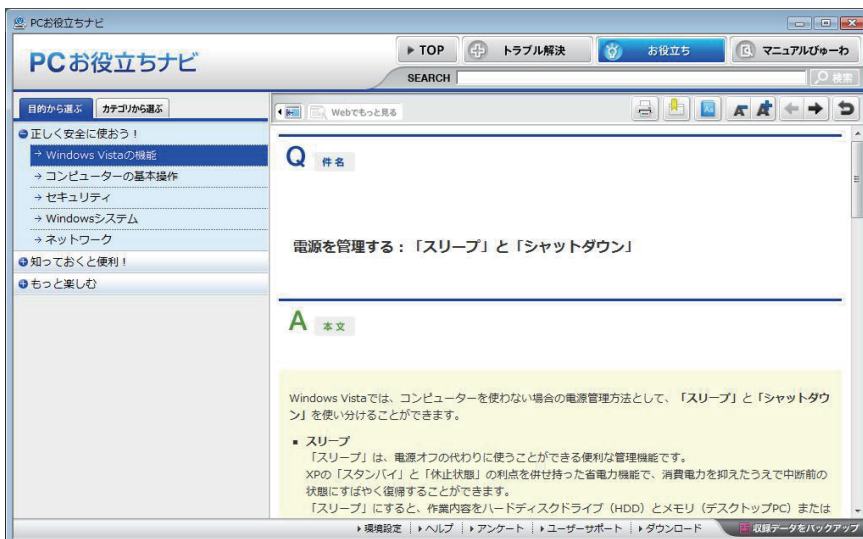
● ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」

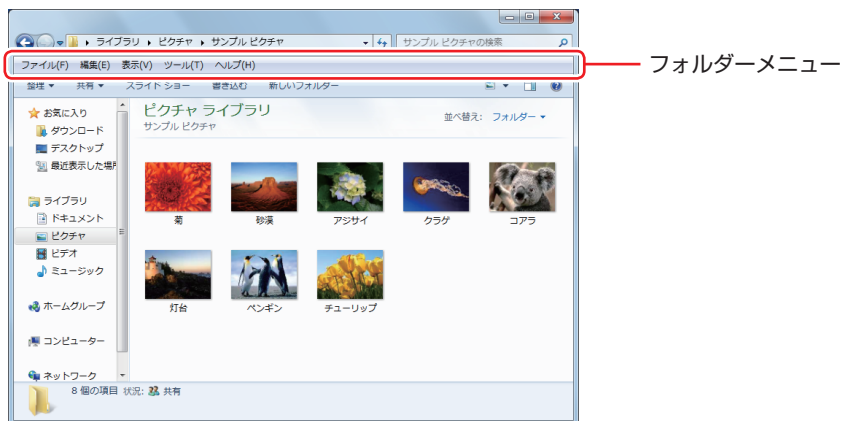


● 「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の場所で設定します。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[デスクトップのカスタマイズ]** - **[フォルダーオプション]** - **[表示]** タブ - **[常にメニューを表示する]**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]** - **[ユーザーアカウント]** - **[別のアカウントの管理]** - **[新しいアカウントの作成]**

※ユーザー名は半角英数字を入力してください。

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

●管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

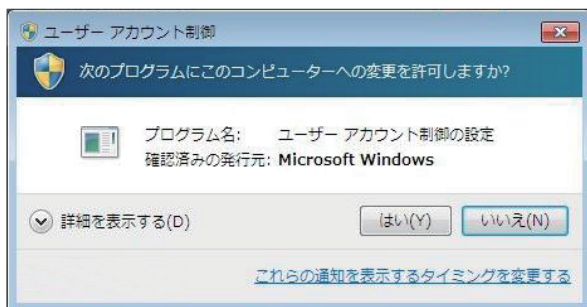
購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名(アカウント)は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Essentials

本機には、Windows Essentials の以下のソフトウェアがインストールされています。

- フォトギャラリー
- ムービーメーカー
- Windows Live メール
- Windows Live Writer
- OneDrive

起動方法

Windows Essentials の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- Windows Essentials のヘルプと使い方

<http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows-live/essentials-help-center>

Windows Live ID を作成する

Windows Essentials を使用するには、Windows Live ID (Microsoft アカウント) が必要になります。

サポートについて

Windows Live のサポートは、マイクロソフト社で行っています。
サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

Windows XP Mode(Windows 7 Professionalのみ)

Windows XP Mode を使用すると、Windows 7 上で Windows XP を起動し、Windows XP のアプリケーションを動作させることができます。

起動方法

Windows XP Mode は、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Virtual PC」 - 「Windows XP Mode」

※ 初回起動時はセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。詳しいセットアップ手順は次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下「ユーザーサポート」 - FAQ 番号 : 29149

マウスを使う

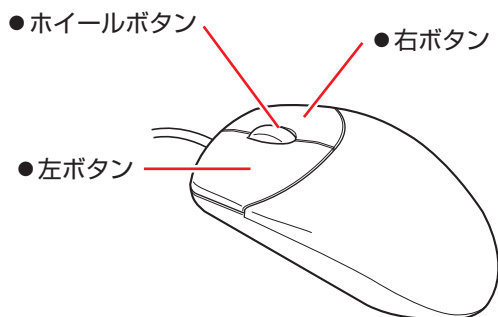
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスのマニュアル（冊子または PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。
- 本機が省電力状態や電源を切った状態であっても、マウスによっては底面のランプが光り続けます。これは、お使いのマウスの仕様です。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 1 回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 2 回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを 1 回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 「コントロールパネル」 - 「ハードウェアとサウンド」 - 「マウス」

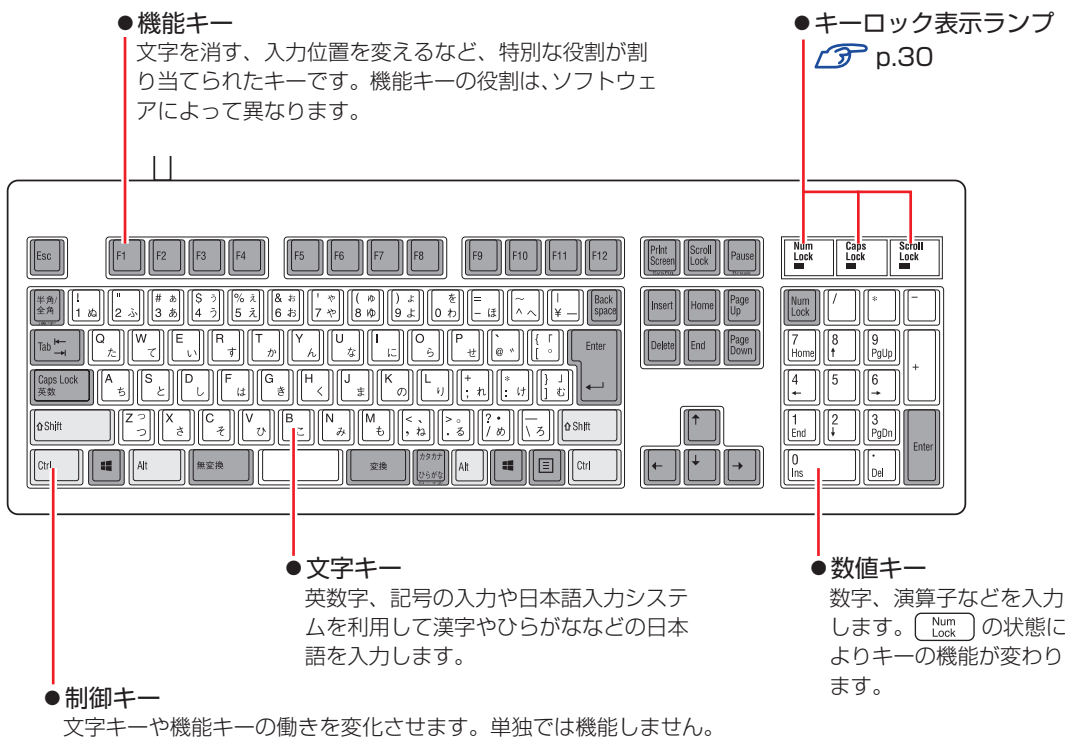
キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。

キーボードのマニュアル（冊子または PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角 を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。


日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。
本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。
ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。



● **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

● **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。








● **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の 3 つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。

PS/2キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、設定したキーを押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.101 「省電力状態からの復帰方法」

制限

- この機能は、USB 接続やコードレスのキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。
- 一度電源コードを抜いて接続しなおした場合、キーボード操作による起動ができなくなることがあります。

購入時、本機は  キー*で起動できるように設定されています。

 +  で起動する場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目で設定変更してください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」－「Power On By PS/2 Keyboard」

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.136 「Power メニュー画面」

* 106 PS/2 コンパクトキーボード（ホットキー付）にのみ搭載されています。

HDD の概要

本機には、記憶装置として HDD（ハードディスクドライブ）が搭載されています。

！ 制限

- HDD アクセスランプ点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【お役立ち】－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」

購入時の HDD 領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。

※ RAID モデルの場合は、2 台の HDD で 1 台目の状態が設定されています。

※すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

通常

HDD	ドライブ（領域）	容量
1 台目	消去禁止領域	約 500MB
	C ドライブ	残り
2 台目 (オプション)	D ドライブ	2 台目すべて

HDD 設定変更サービスを選択された場合

HDD	ドライブ（領域）	容量
1 台目	消去禁止領域	約 500MB
	C ドライブ	購入時に選択された容量
	D ドライブ	残り
2 台目 (オプション)	E ドライブ	2 台目すべて



参考

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

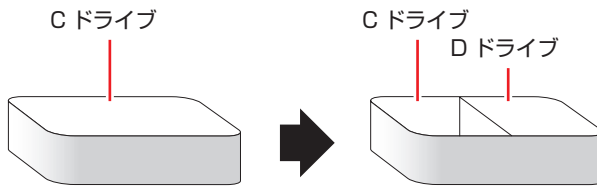
「消去禁止領域」には、「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。

 p.174 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

HDDを分割して使用する

1 台の HDD をいくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例：1 つの HDD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。



詳しくは、 p.182 「HDD 領域の変更」をご覧ください。

RAID 機能

RAID とは、同一容量の HDD を複数台組み合わせて使用するシステムのことです。ここでは、RAID の種類や RAID の構成・削除方法などについて説明します。
本機では、次の場合に RAID 機能を使用することができます。

- 購入時、RAID キットを選択された場合
搭載の HDD であらかじめ RAID が構成されています。
- 同一容量の HDD を 2 台装着している場合
RAID を構成して使用することができます。

RAID の種類

本機で使用できる RAID は RAID1 (ミラーリング) です。

種類	別名	HDD 必要台数	特徴
RAID1	ミラーリング	2 台	2 台の HDD に同時に同じデータを書き込む。 一方の HDD が破損しても、もう一方の HDD からデータを復旧することができる。

RAID の構成・削除・修復

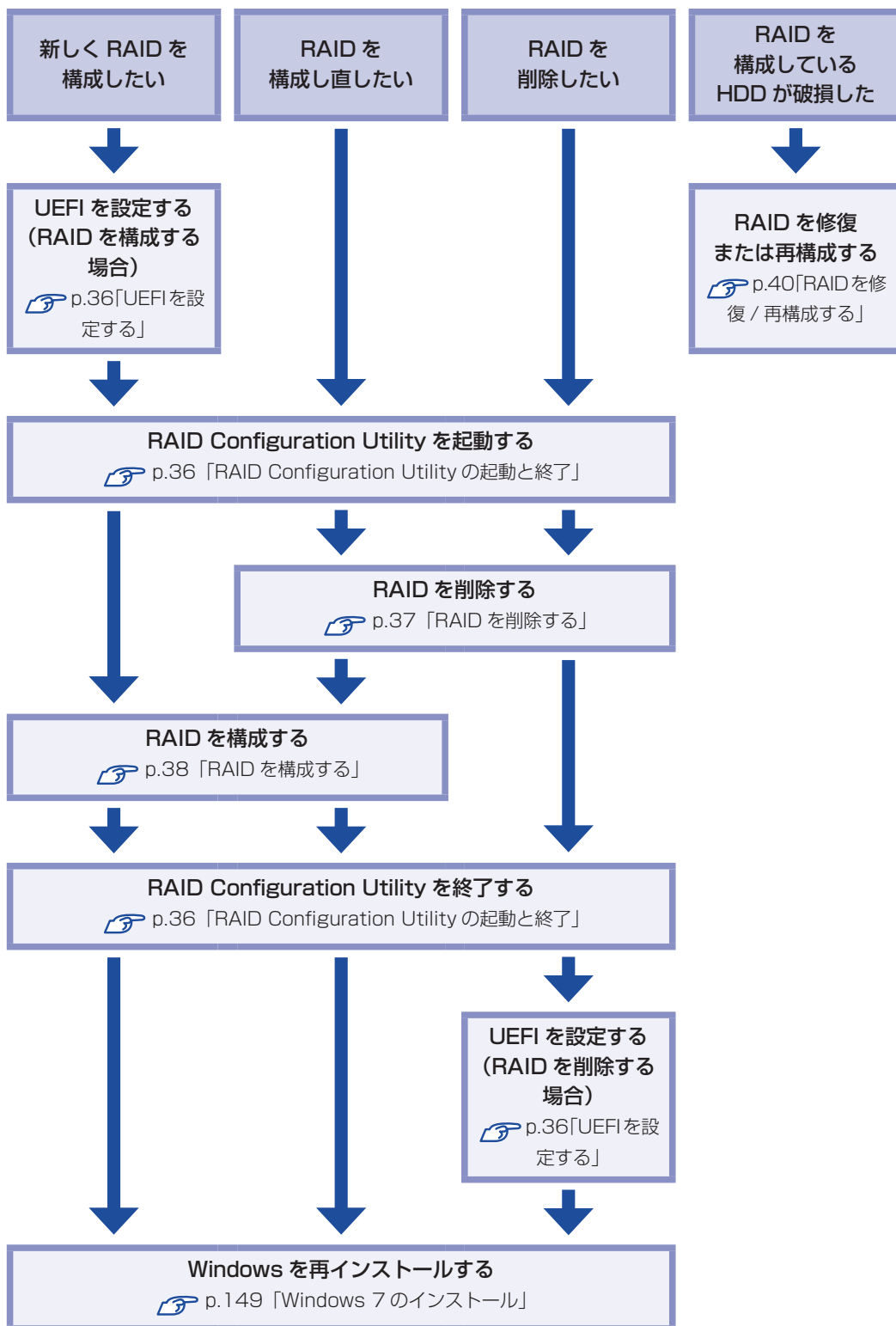
RAID の構成・削除・修復方法を説明します。



RAID の構成・削除をすると、HDD に収録されているデータはすべて消失します。
RAID の構成・削除をする前に、重要なデータをバックアップしてください。

RAID の構成・削除・修復の流れ

次の流れに従って、RAID の構成・削除・修復を行ってください。



UEFI を設定する

RAID を構成・削除する場合は、UEFI の設定が必要です。

RAID を構成する場合

RAID を構成する場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更してください。購入時に RAID キットを選択された場合は、あらかじめ「RAID」に設定されています。

「Main」メニュー画面 - 「SATA Configuration」

「Configure SATA As」: [RAID]

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.133 「Main メニュー画面」

RAID を削除した場合

RAID を削除した後、RAID 機能を使用しない場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定値を次のように変更します。

「Main」メニュー画面 - 「SATA Configuration」

「Configure SATA As」: [AHCI]

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.133 「Main メニュー画面」

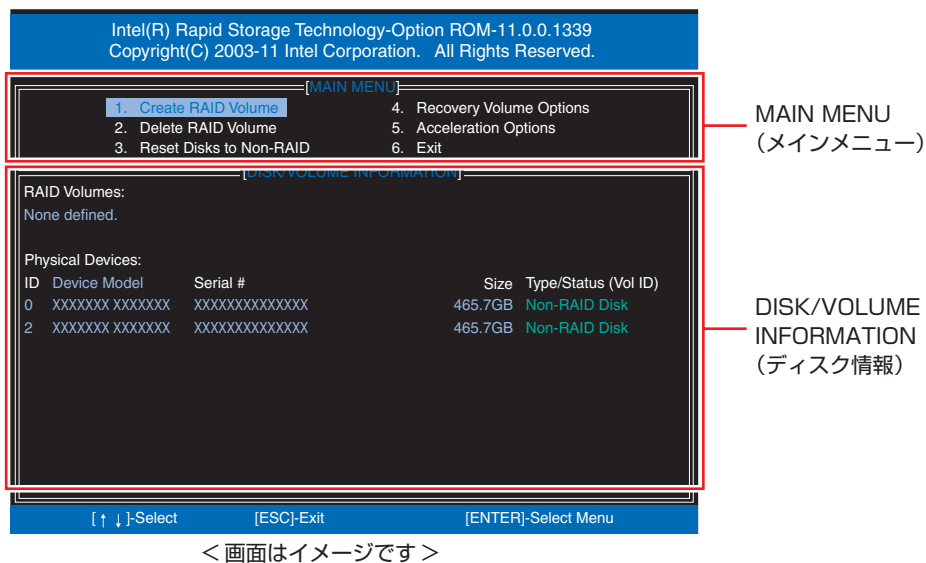
RAID Configuration Utility の起動と終了

RAID Configuration Utility の起動、終了方法は次のとおりです。

起動

- 1** キーボードの **Ctrl** と **I** の位置を確認します。
3 では、「Press < CTRL-I > to…」のメッセージが表示されている間に、すばやく **Ctrl** + **I** を押す必要があります。
- 2** 本機の電源を入れます。
すでに電源が入っている場合は、再起動します。

- 3** 画面に「EPSON」と表示された直後に「Press < CTRL-I > to enter Configuration…」と表示されたら、すぐに **Ctrl** + **I** を押します。
- RAID Configuration Utility が起動します。
- Windows が起動してしまった場合は、再起動してやりなおしてください。



終了

- 1** 「MAIN MENU」項目で「6.Exit」を選択し、**Enter** を押します。
- 項目の移動は **Up** **Down** で行います。
- 2** 次の確認メッセージが表示されたら、**Y** を押します。
- Are you sure you want to exit ? (Y/N)
- RAID Configuration Utility が終了します。

RAID を削除する

RAID を構成しなす場合や、RAID 機能を使用しない場合は、RAID を削除します。

RAID を削除する手順は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。
-  p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」
- 2** 「MAIN MENU」画面で「2.Delete RAID Volume」を選択し、**Enter** を押します。
- 3** 「DELETE VOLUME MENU」画面で、削除したい RAID を選択し、**Delete** を押します。



4 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。

Are you sure you want to delete "XXX" ? (Y/N)

RAID が削除され、「MAIN MENU」画面が表示されます。「DISK/VOLUME INFORMATION」の「RAID Volumes:」で RAID が削除されたことを確認します。

5 RAID Configuration Utility を終了します。

 p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

これで、RAID の削除は完了です。

続いて RAID を構成しない場合は、UEFI の設定値を変更し、Windows のインストールを行ってください。

 p.36 「UEFI を設定する」

 p.149 「Windows 7 のインストール」

RAID を構成する

本機で構成できる RAID は RAID1（ミラーリング）です。

RAID を構成する手順は、次のとおりです。



RAID を構成すると、HDD に収録されているデータはすべて消失します。
RAID を構成する前に、重要なデータをバックアップしてください。

1 RAID Configuration Utility を起動します。

 p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

2 「MAIN MENU」画面で「1.Create RAID Volume」を選択し、 を押します。

3 「CREATE VOLUME MENU」画面が表示されたら、[Name] に任意の名前を入力し、 を押します。

RAID の名前を変更しない場合は、そのまま を押します。

4 「RAID Level」で「RAID1 (Mirror)」を選択し、 を押します。

5 「Capacity」で を押します。

6 「Create Volume」が選択されている状態で を押します。

7 次の確認メッセージが表示されたら、 を押します。

Are you sure you want to create this volume ? (Y/N)

RAID が構成され、「MAIN MENU」画面が表示されます。構成した RAID の情報を「DISK/VOLUME INFORMATION」で確認することができます。

8 RAID Configuration Utility を終了します。

 p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

- 9** 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動し、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で、「Boot Device」が **3** で設定した名前になっていることを確認します。

 p.121 「UEFI Setup ユーティリティの起動」

- 10** **F10** を押して **[OK]** を選択し、「UEFI Setup ユーティリティ」を終了します。

これで RAID の構成は完了です。

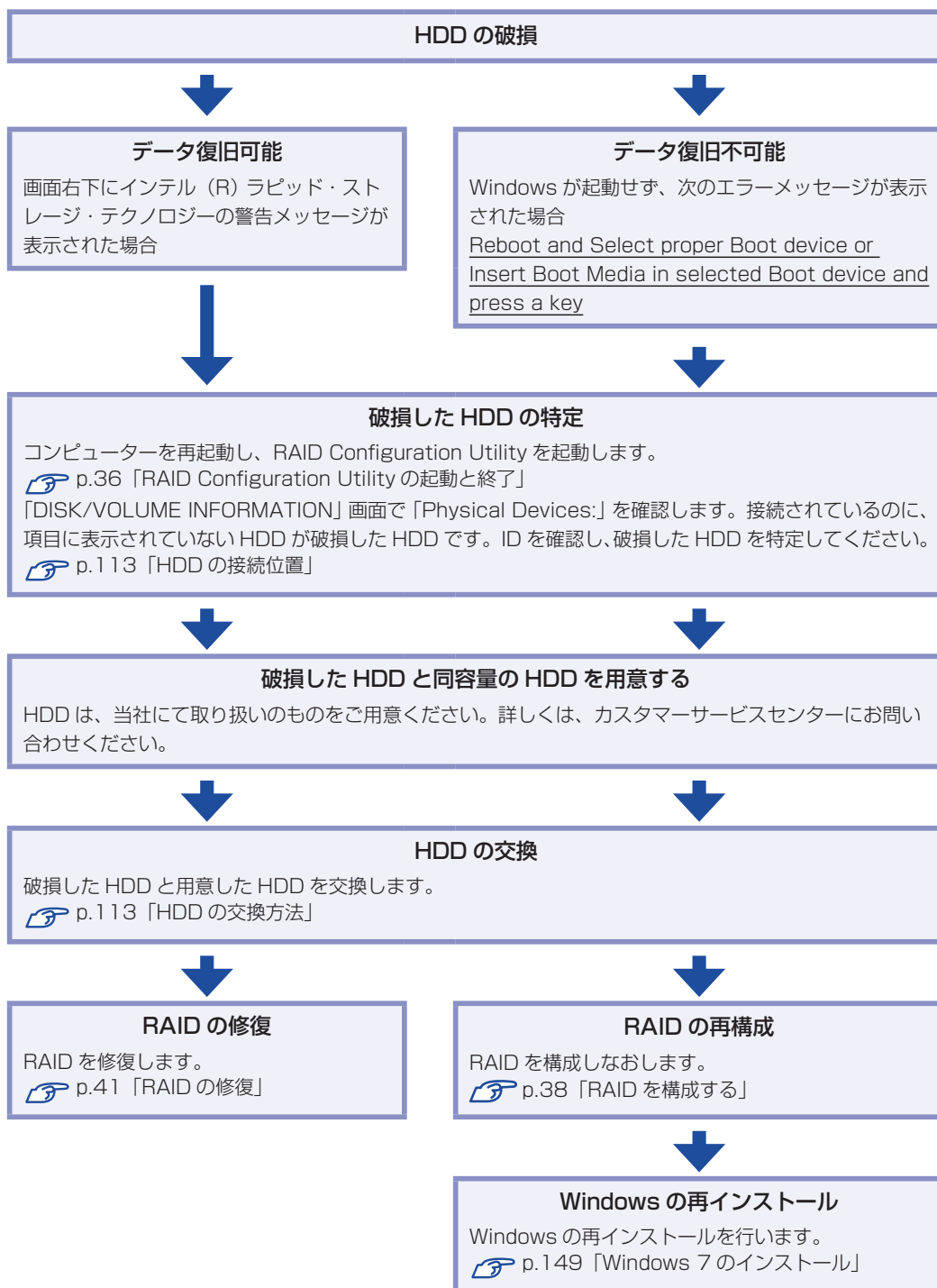
続いて Windows のインストールを行います。

 p.149 「Windows 7 のインストール」

RAID を修復 / 再構成する




RAID 構成時に HDD が破損した場合は、データの状況によって RAID の修復または再構成が必要です。

次の流れに従って、RAID を修復または再構成してください。



RAID の修復

RAID の修復は、RAID Configuration Utility で行います。
RAID の修復方法は、次のとおりです。

- 1** RAID Configuration Utility を起動します。
 p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」
- 2** 「DEGRADED VOLUME DETECTED」画面が表示されたら、新しく接続した HDD を選択し、 を押します。
- 3** 「DISK/VOLUME INFORMATION」項目で、「RAID Volumes :」の「Status」項目が「Rebuild」になっていることを確認します。
- 4** RAID Configuration Utility を終了します。
 p.36 「RAID Configuration Utility の起動と終了」

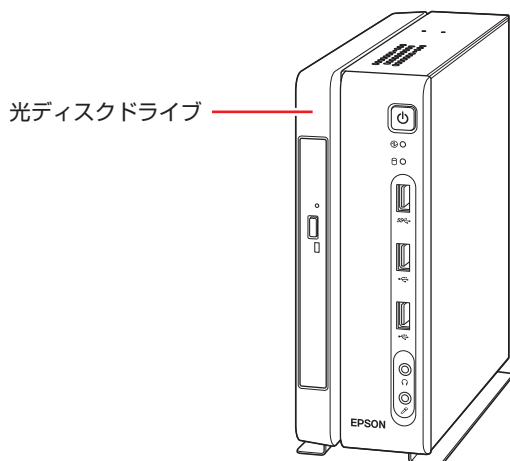
これで、RAID の修復は完了です。

光ディスクメディアを使う

光ディスクドライブ搭載時

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。
※ 光ディスクドライブなしを選択された場合は、搭載されていません。

光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。
ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。
飛び散って、けがをする危険があります。



本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－ [マニュアルびゅーわ] － 「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－ [お役立ち]

光ディスクメディアのセットと取り出し

光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

- アクセスランプ点滅中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1** イジェクトボタンを押します。
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2** ディスクトレイを静かに引き出します。
光学レンズに触れたり、傷付けたりしないでください。
メディアのデータが読めなくなります。
- 3** 印刷面を表にして、光ディスクメディアをディスクトレイにセットします。
ディスクトレイを手で支えながらセットしてください。
- 4** ディスクトレイを手で押して、静かに閉じます。

取り出し方法

- 1** アクセスランプが点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2** ディスクトレイを静かに引き出します。
- 3** 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。
- 4** ディスクトレイを手で押して、静かに閉じます。

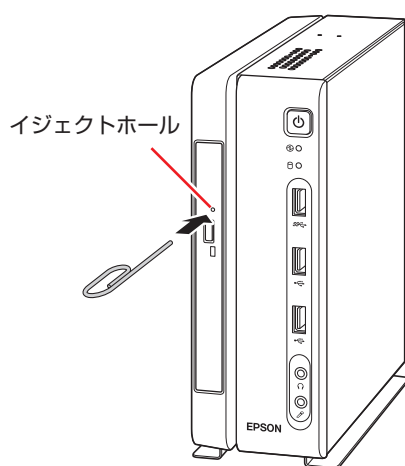
強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。
- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。



- 3** 光ディスクメディアを取り出します。
ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出して光ディスクメディアを取り出します。

CDメディアの読み込み・再生



光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、次のソフトウェアを使用します。

- PowerDVD (Blu-ray ドライブ搭載時)  p.45
- WinDVD (Blu-ray ドライブ以外の光ディスクドライブ搭載時)  p.46

PowerDVDを使う

Blu-ray ドライブ搭載時

PowerDVD では、ビデオ CD や DVD/BD VIDEO、動画ファイル、音楽ファイルを再生することができます。

PowerDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「CyberLink PowerDVD10」 - 「CyberLink PowerDVD10」

PowerDVD の詳細は、起動した画面の「ヘルプ」をご覧ください。

CPRM で著作権保護された DVD メディアを再生するには

PowerDVD は CPRM で著作権保護された DVD メディアの再生に対応していますが、初回の再生時にインターネットへの接続が必要です。

初めて CPRM で著作権保護された DVD メディアを再生する際にメッセージが表示されるので、インターネットに接続してください。以降は、CPRM で著作権保護されたメディアの再生が可能になります。

デジタル出力時の制限事項

デジタル出力する場合、HDCP 規格に対応していないデジタルディスプレイには再生画像を表示できません。

BD メディアを再生するには

Blu-ray Disc (BD) は、著作権保護技術として AACS を採用しており、随時更新されています。PowerDVD にも AACS キーが内蔵されており、定期的に AACS キーを更新しないと BD メディアを再生できない場合があります。

PowerDVD の使用時に次のようなメッセージが表示されたら、内容をご確認の上、CyberLink Web サイトに接続して PowerDVD のアップデートバージョンをダウンロードし、AACS キーの更新を行ってください。

- ・「引き続きこのコンテンツを再生するには、CyberLink PowerDVD をアップデートする必要があります。」

※ AACS キーを更新する際は、インターネットに接続してください。

再生時の制限事項

BD メディアの再生には、次の制限事項があります。

- 次のディスプレイには、再生画像を表示できません。
 - ・アナログディスプレイ
 - ・ HDCP に対応していないデジタルディスプレイ
- 2つのディスプレイに同じ画面を表示するクローン表示はサポートしていません。

PowerDVD サポート窓口

PowerDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

電話番号：0570-080-110（ナビダイヤル）

ナビダイヤルがご使用できない場合は下記番号をご利用ください。
03-5205-7670

営業時間：10:00～13:00、14:00～17:00（土・日・祝日・休業日を除く）

カスタマーサポートページ：<http://support.jp.cyberlink.com/>

WinDVDを使う

Blu-ray ドライブ以外の光ディスクドライブ搭載時

WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】－「すべてのプログラム」－「sMedio」－「sMedio WinDVD」

WinDVD の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。 **[F1]** を押すとヘルプが表示されます。



HDCP 非対応ディスプレイにデジタル接続した場合、DVD VIDEO の再生はできません。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。

DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

p.54 「表示に関する各種設定」

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

WinDVD は CPRM で著作権保護されたメディア再生に対応していますが、再生時に必要な「CPRM Pack」がインストールされていません。
インターネットに接続後、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。
「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「sMedio」 - 「sMedio WinDVD」をクリックし、WinDVD を起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「このディスクには CPRM著作権保護のかかったタイトルが含まれています・・・」と表示されたら、内容を確認して[OK] をクリックします。
- 4** 「コーレル CPRM Pack ダウンロード用登録ページへようこそ」と表示されたら、画面に従って登録を行います。
登録が完了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。
インストールが完了すると、CPRM で著作権保護されたメディアの再生が可能になります。



制限

CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンしてください。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。
※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

sMedio テクニカルサポート、WinDVD サポート窓口

電話 : 03-5299-0030

メール : support@smedio.co.jp

営業時間 : 月曜日～金曜日 10:00～12:00、13:30～17:30
(祝日、年末年始および sMedio 社指定休業日を除く)

サポートページ : <http://www.smedio.co.jp/support/>

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」



制限

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero 12 Essentials」が添付されています。

 p.49 「Nero 12 Essentials を使う」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.101 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅーわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero 12 Essentialsを使う

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero 12 Essentials」を使用すると、光ディスクメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



「Nero 12 Essentials」と Windows 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

書き込みは「Nero Express」で行います。
Nero Express は次の場所から起動します。

[スタート] - [すべてのプログラム] - [Nero] - [Nero 12] - [Nero Express]

Nero Express の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。

Nero 12 Essentials ユーザーサポート情報

Nero 12 Essentials のサポートについて説明します。

Nero 12 Essentials の操作などでお困りの場合は、以下のホームページのサポート情報をご覧ください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ: <http://www.nero.com/jpn/support/contact>

E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、コンピューターの機種名をお知らせいただく必要があります。

USB 機器を使う

本機には次の USB コネクタが搭載されています。

- USB2.0 コネクタ (前面× 2、背面× 3)
- USB3.0 コネクタ (前面× 1、背面× 2)

※ 転送速度は、本機のコネクタと接続する USB 装置の組み合わせによります。

！ 制限

- USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続している状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。
USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「UEFI Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。
[👉 p.131 「起動 \(Boot\) デバイスの順番を変更する」](#)
- 接続した USB 機器によっては、本機の電源を切った状態でも、ランプが光り続けます。これは、お使いの USB 機器の仕様です。

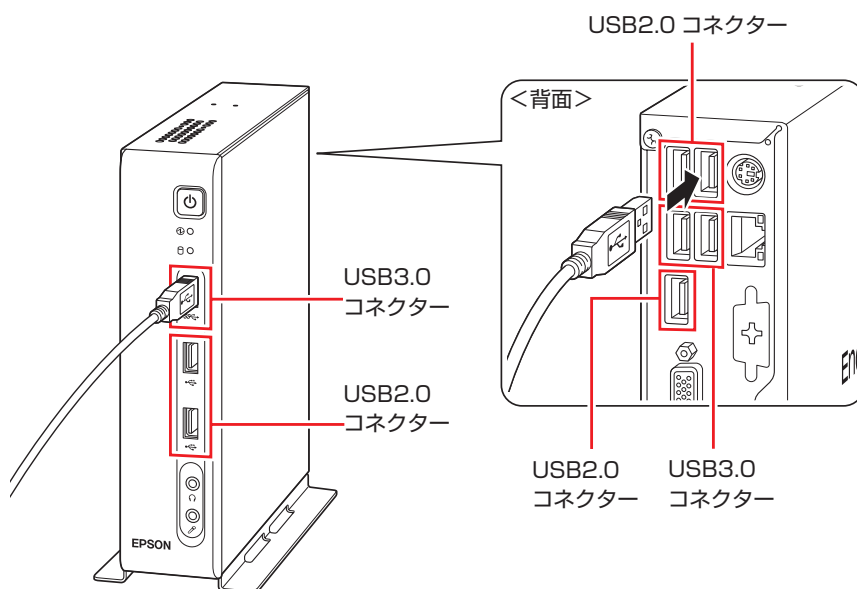
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

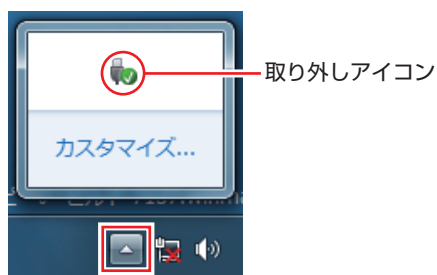
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1** USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタに接続します。



- 2** USB 機器によっては、「通知領域」 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

取り外し

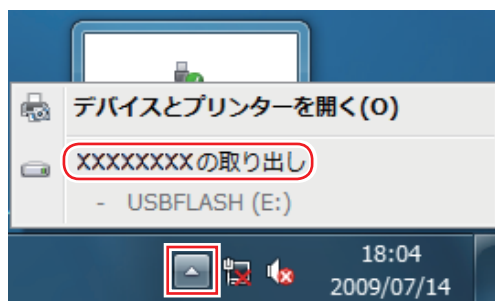
USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

- そのまま取り外す
通知領域 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。
- USB 機器の終了処理をして取り外す
通知領域 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

- 1** 「通知領域」 - [△] - 「取り外し」アイコン - 「(取り外したい USB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



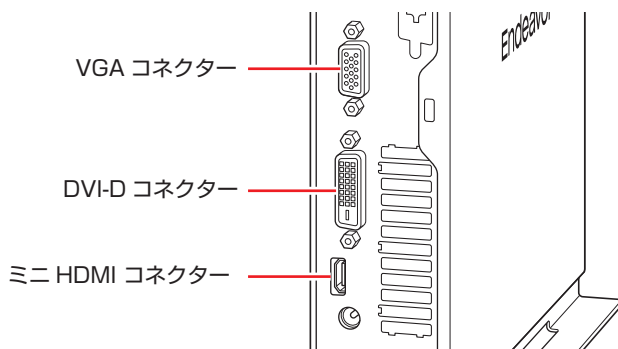
- 2** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

画面表示機能

本機には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、接続できるディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

ディスプレイの接続

本機には、ミニ HDMI コネクタ、DVI-D コネクタ、VGA コネクタが搭載されており、ディスプレイを 3 台接続することができます。



接続方法の種類

ディスプレイの接続方法には、次の 2 つがあります。

接続方法	コネクタ	
デジタル接続	HDMI 接続 (画像+音声)	ミニ HDMI コネクタ
	DVI-D 接続	DVI-D コネクタ
アナログ接続	VGA コネクタ	

ディスプレイの接続

ディスプレイの接続方法は、[別冊](#)『スタートアップガイド』 - 「コンピューターを設置する」をご覧ください。



参考

HDMI 接続時の設定

HDMI 接続のディスプレイから音声を出力するには、音声出力先の機器設定が必要な場合があります。

[手](#) p.65 「音声出力先の設定」

表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

●解像度 ピクセル（横×縦）

800 × 600

1024 × 768

1280 × 720 *

1280 × 768 *

1280 × 1024

1360 × 768 *

1366 × 768 *

1400 × 1050

1440 × 900 *

1600 × 1200

1680 × 1050 *

1920 × 1080 *

1920 × 1200 *

* ワイド表示

●表示色

中（16ビット） / 最高（32ビット）

！ 制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- ディスプレイを2台接続してクローン（ミラー）表示した場合、実際に表示できる最大解像度は、コンピューター側の最大解像度と接続するディスプレイの最大解像度のうち、どちらか低い方になります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック→「画面の解像度」



画面表示の種類

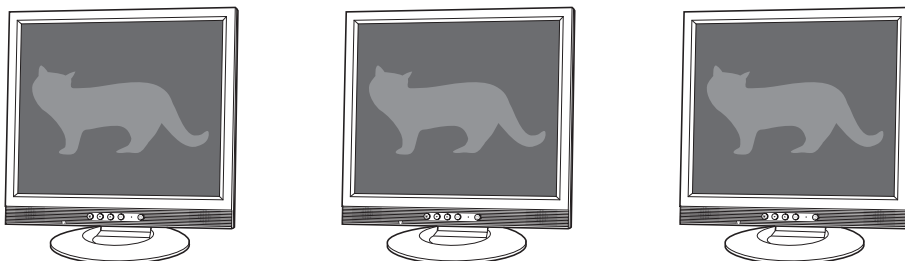
本機では、次のような画面の組み合わせで表示ができます。

- シングルディスプレイ

1つのディスプレイに表示します。

- クローン

最大3つのディスプレイに同じ画面を表示します。プレゼンテーションを行う場合などに便利です。

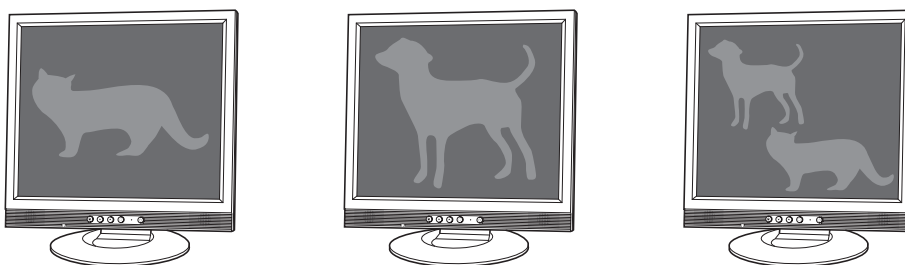


制限

クローン表示での DVD/BD メディアの再生はサポートしていません。

- 拡張デスクトップ

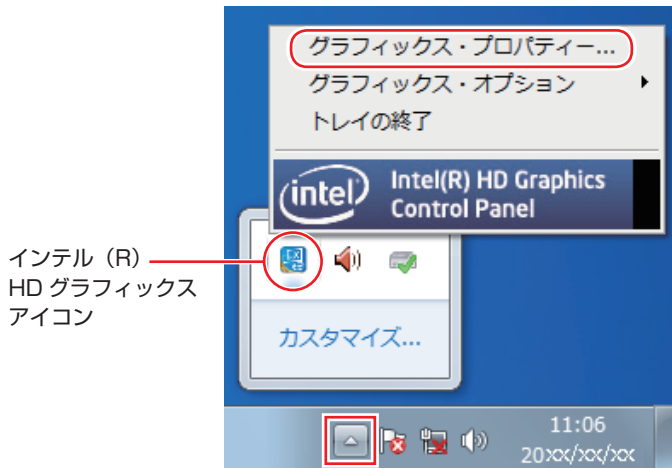
最大3つのディスプレイに対して、個別に設定をすることができます。複数の画面をコンピューター上に表示する場合に便利です。



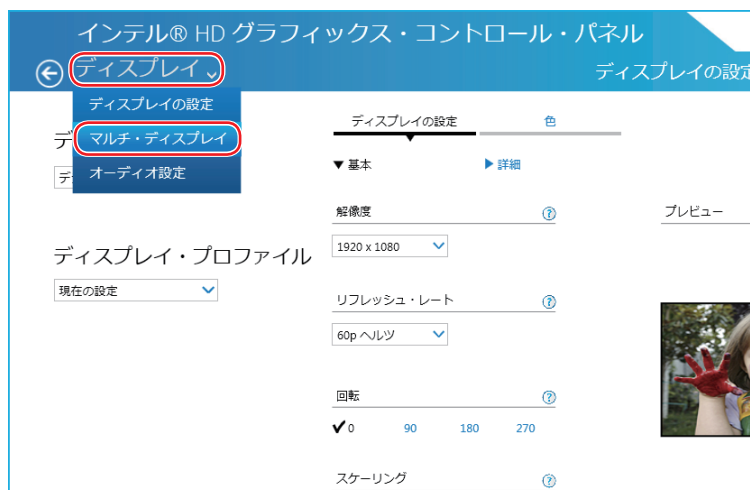
画面表示の切り替え方法

ディスプレイの表示を切り替える方法は、次のとおりです。

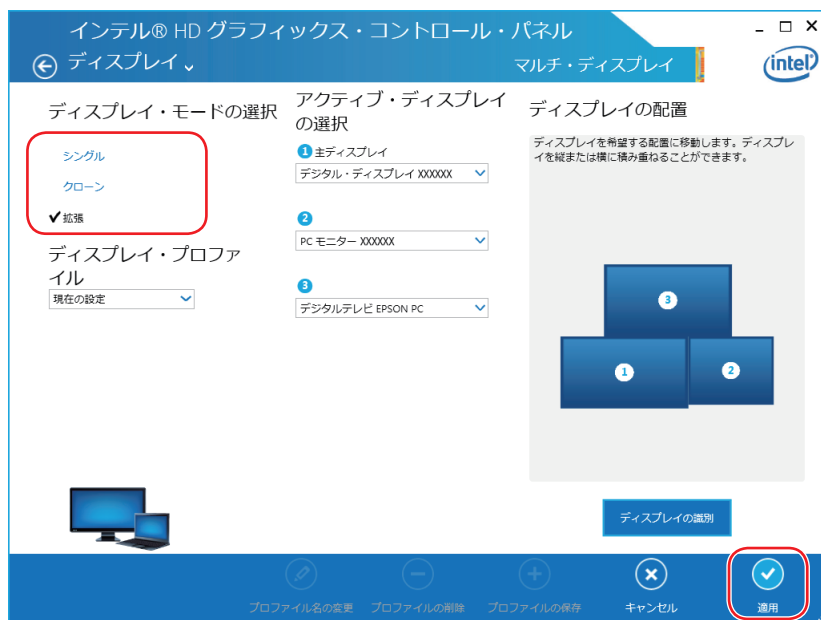
- 1 デスクトップ通知領域の [△] – 「インテル (R) HD グラフィックス」 アイコンをクリックし、「グラフィックス・プロパティ…」を選択します。



- 2 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」画面が表示されたら、ディスプレイを選択します。
- 3 「ディスプレイ」タブをクリックして、表示された一覧から「マルチ・ディスプレイ」を選択します。



- 4** 「ディスプレイ・モードの選択」でモードを選択し、「適用」をクリックします。
「拡張」を選択した場合は、「①主ディスプレイ」や「②」、「③」のディスプレイを設定します。
主ディスプレイに「スタート」メニューやタスクバーが表示されます。



- 5** 「新しい設定が適用されました。これらの設定を保持しますか？」と表示されたら、
[OK] をクリックします。
これで画面の切り替えは完了です。

- 6** 設定した内容をディスプレイ・プロファイルとして保存する場合は、「プロファイル
の保存」をクリックして、表示された画面にプロファイル名を入力し、[OK] をクリッ
クします。



参考

グラフィックオプションから設定する

ディスプレイの表示の切り替えは、次の場所からも行えます。

「通知領域」－ [△] － 「インテル (R) HD グラフィックス」アイコンを
クリック－ 「グラフィックオプション」－ 「出力先」

インテル WiDi (オプション)

購入時に無線 LAN をオプション選択された場合、本機は、インテル WiDi (ワイヤレス・ディスプレイ) に対応しています。

インテル WiDi では、本機の画面や動画などを、無線 LAN 機能を利用して、ディスプレイやテレビに表示することができます。

注意事項

インテル WiDi を使用するために必要な機器や注意事項について記載します。

必要な機器

インテル WiDi をご使用になるには、次の機器が必要です。

- インテル WiDi 用アダプター
- HDMI 入力端子を装備したディスプレイ (テレビを含む)



インテル WiDi 用アダプターとディスプレイは、HDMI で接続してください。HDMI 以外で接続した場合、本機の画面をディスプレイに表示できません。

表示に関する注意

表示に関する注意事項は、次のとおりです。

- 同時に使用できる表示装置は、有線接続のディスプレイと、インテル WiDi で接続しているディスプレイの 2 つまでです。
- UEFI Setup ユーティリティ、Windows 起動中の画面、省電力モードからの復帰中の画面、およびシャットダウン中の画面は WiDi 接続したディスプレイには表示できません。
- インテル WiDi で接続すると、音声は WiDi 接続したディスプレイからの出力に切り替わります。
- インテル WiDi で表示した画面では、マウスポインターやウィンドウの移動、入力した文字などの表示に遅延が生じます。

使用に関する注意

使用時の注意事項は、次のとおりです。

- インテル WiDi は無線 LAN 機能を使用するため、ご利用環境によっては、通信速度の低下や通信不能が原因で、テレビやディスプレイに画面が表示されない場合や、画面 (画像) が乱れる場合があります。画質は、接続したテレビやディスプレイの仕様により異なります。
- インテル WiDi は無線 LAN 機能を使用しますが、ホームページの閲覧など、通常のインターネット接続も同時に使用できます。
- インテル WiDi と無線 LAN で、同時にインターネット接続して使用する場合は、無線 LAN アクセスポイントとの接続が完了してから、インテル WiDi の接続を行ってください。
- 無線 LAN 機能が OFF の場合は、インテル WiDi を使用できません。
- インテル WiDi は、インテル My WiFi テクノロジーを使用しています。インテル My WiFi テクノロジーの設定を変更したり、削除したりしないでください。

インテル WiDi ソフトウェアのインストール

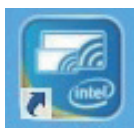
インテル WiDi を使うには、インテル WiDi ソフトウェアのインストールが必要です。

インテル WiDi ソフトウェアのインストール手順は、次のとおりです。

※ 有線接続のディスプレイを使用してインストール作業を行ってください。

- 1** 「ドライバー DVD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「EDCInst.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON_DVD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 4** 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、一覧から「インテル WiDi ソフトウェア」を選択して [インストール] をクリックします。
以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

インストールが完了すると、デスクトップに「Intel(R) WiDi」アイコンが表示されます。



< Intel(R) WiDi アイコン >

インテル WiDi の詳細は、ヘルプをご覧ください。ヘルプは、「Intel(R) WiDi」アイコンをダブルクリックして表示される画面から閲覧できます。


インテル WiDi で接続する

インテル WiDi 用アダプターと HDMI で接続したディスプレイに本機の画像を表示するには、インテル WiDi を使って、本機とインテル WiDi 用アダプターを接続します。

インテル WiDi 用アダプターとディスプレイの接続方法は、アダプターに添付のマニュアルをご覧ください。

アダプターと本機を接続する手順は、次のとおりです。

※ 有線接続のディスプレイを使用して接続作業を行ってください。

- 1** インテル WiDi 用アダプターとディスプレイの電源を入れます。
ディスプレイに入力切替がある場合は、HDMI 入力になっていることを確認してください。
- 2** 本機の無線 LAN 機能を ON にします。
 p.72 「無線 LAN 機能のオン / オフ方法」
- 3** デスクトップの「Intel(R) WiDi」アイコンをダブルクリックします。
- 4** 「Intel(R) WiDi ソフトウェア使用許諾契約」と表示されたら、内容を確認して、[この使用許諾の条件に同意する] をクリックします。



- 5** 「Intel(R) WiDi」画面が表示され、しばらくして「検出されたワイヤレス・ディスプレイ」項目にお使いのインテル WiDi 用アダプターが表示されたら、[接続] をクリックします。

アダプターが検出されない場合は、アダプターの電源や本機との距離を確認してください。



初めて接続する場合は、以降の作業が必要です。

- 6** WiDi 接続したディスプレイに「コンピューターまたはモバイルデバイスで次のセキュリティー・コードを入力してください。」と表示されたら、有線接続しているディスプレイの画面に表示されている PIN コードの入力欄に PIN コードを入力し、[続行] をクリックします。

- 7** WiDi 接続したディスプレイに本機の画面が表示され、「接続完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。

接続を終了する

インテル WiDi の接続を終了する場合は、「Intel(R) WiDi」を起動し、[切断] をクリックします。



サウンド機能

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。

オーディオ機器の接続

本機には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。

各コネクタの位置は、次のとおりです。



注意

ヘッドホンやスピーカーは、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

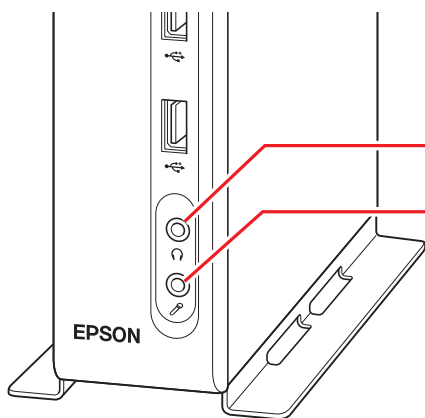




参考

使用できるマイク

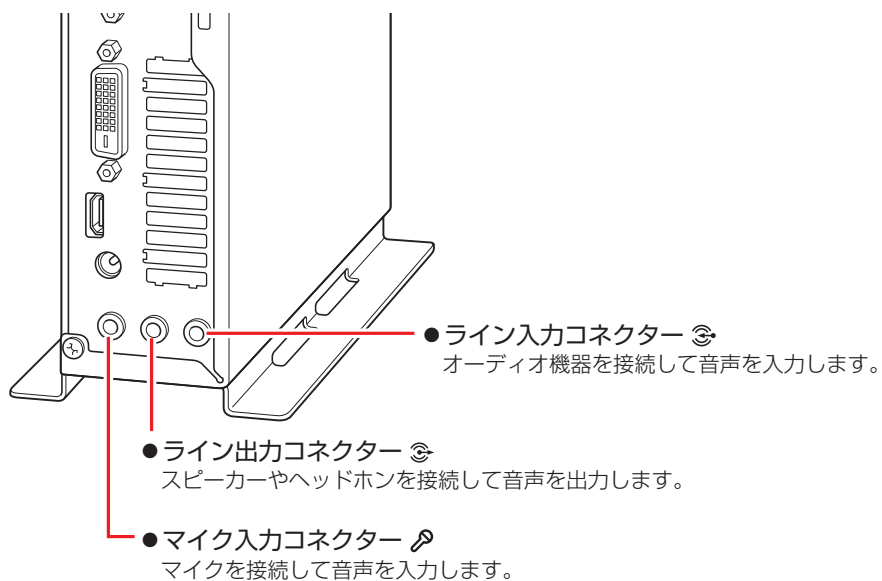
マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

前面側



- **ヘッドホン出力コネクタ** 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。
- **マイク入力コネクタ** 
マイクを接続して音声を入力します。

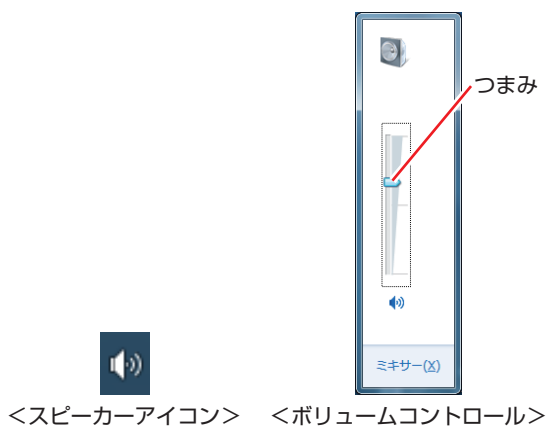
背面側



音量の調節

スピーカーを接続していて、Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



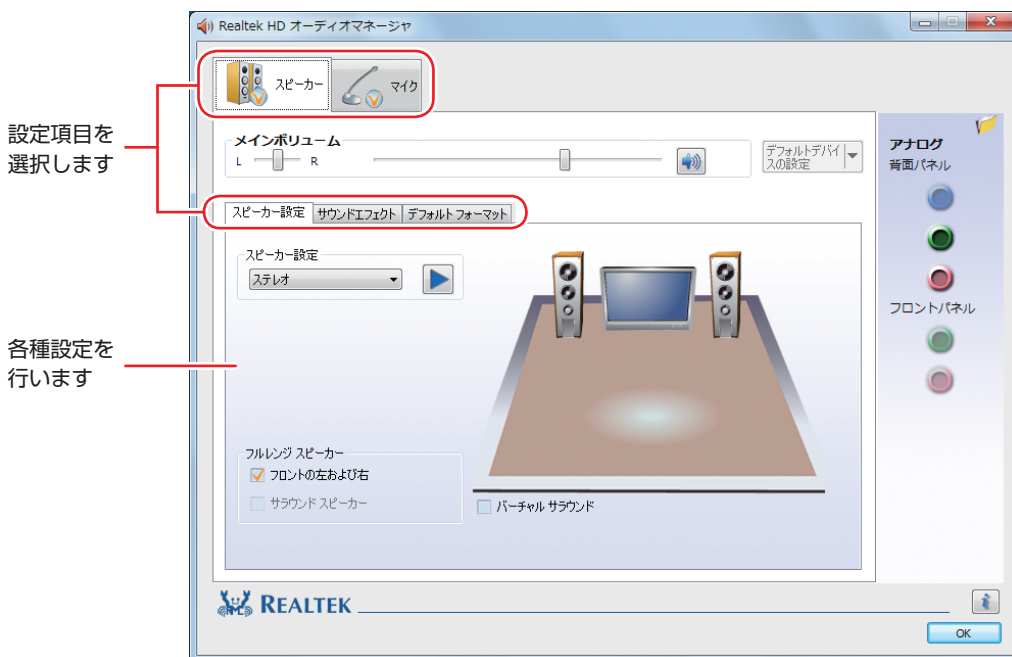
サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 - [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン（赤色）をダブルクリックします。



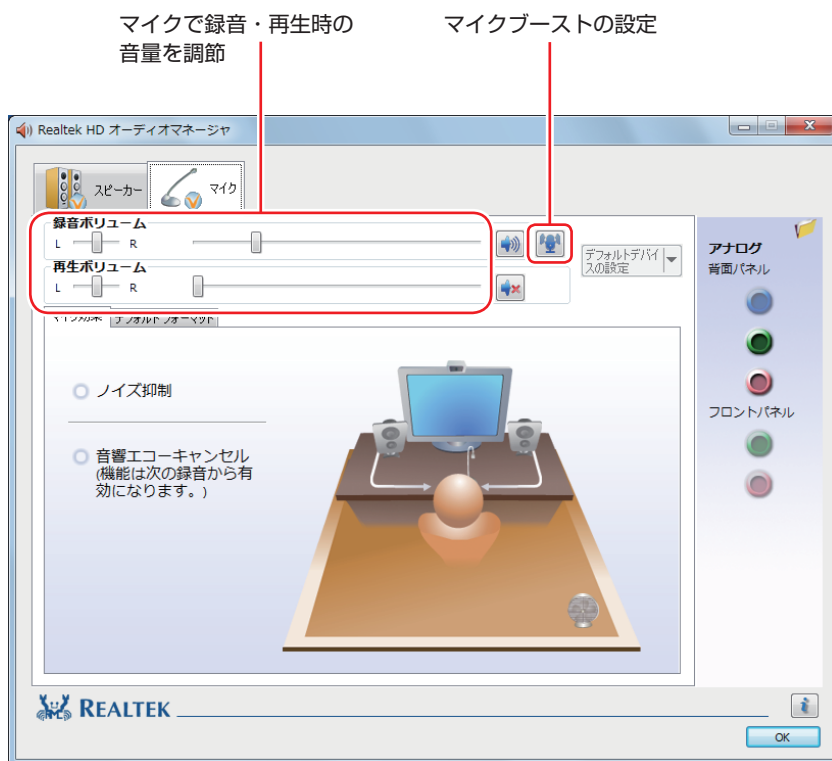
次の画面が表示されます。



※「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



※「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

音声出力先の設定

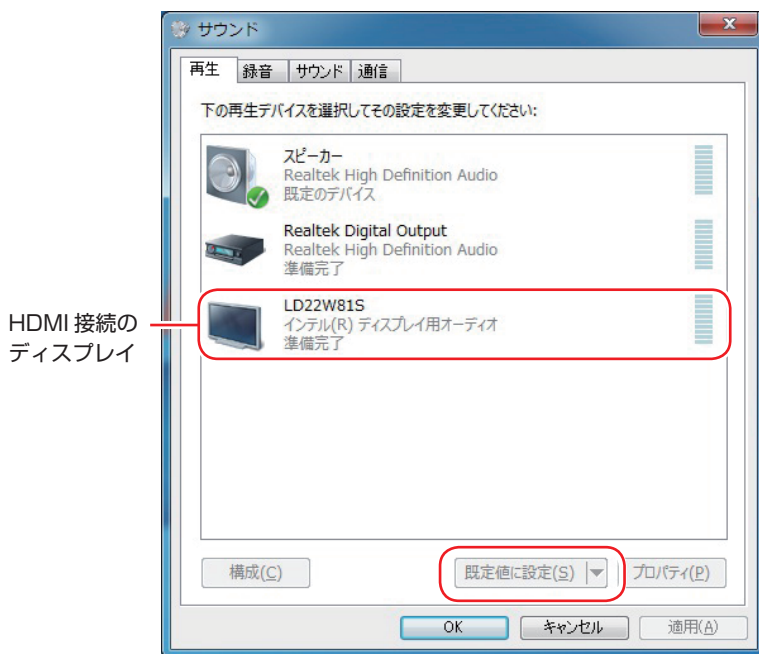
本機にスピーカーは内蔵されていませんが、スピーカーを接続すると、音声出力先はスピーカーに設定されます。

スピーカーを接続している状態で HDMI 接続のディスプレイから音声を出力するには、音声出力先の変更が必要な場合があります。

HDMI 接続のディスプレイ使用時

音声出力先の変更手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「ハードウェアとサウンド」 – 「サウンド」をクリックします。
- 2 「サウンド」画面が出力されたら、「再生」タブで HDMI 接続のディスプレイを選択し、[既定値に設定] をクリックします。



音声出力先に設定されると、デバイスにチェックが付きます。

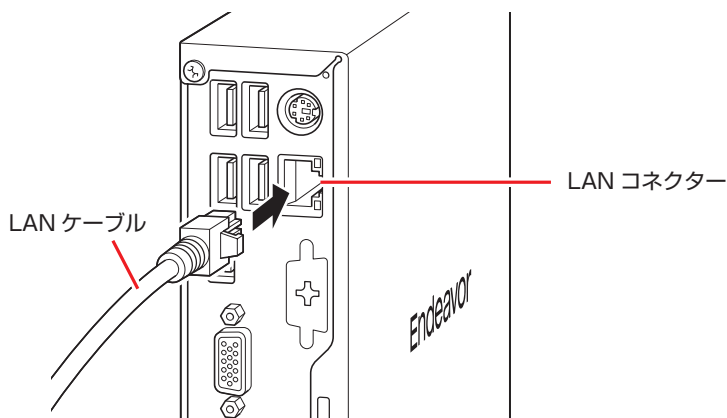
- 3 [OK] をクリックします。
これで設定は完了です。HDMI 接続のディスプレイから音声が出力されます。

ネットワーク機能（有線 LAN）

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（有線 LAN）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクタ（品）に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.101 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は、プロバイダーから提供されたマニュアルを参照して行ってください。

その他の機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次の機能を使用できます。

- Wakeup On LAN
- リモートブート

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。

シャットダウン状態から起動させる



シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。

- UEFI の設定変更
- ネットワークアダプターの設定変更

UEFI の設定変更

「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」：[Enabled]（有効）

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.136 「Power メニュー画面」

ネットワークアダプターの設定変更

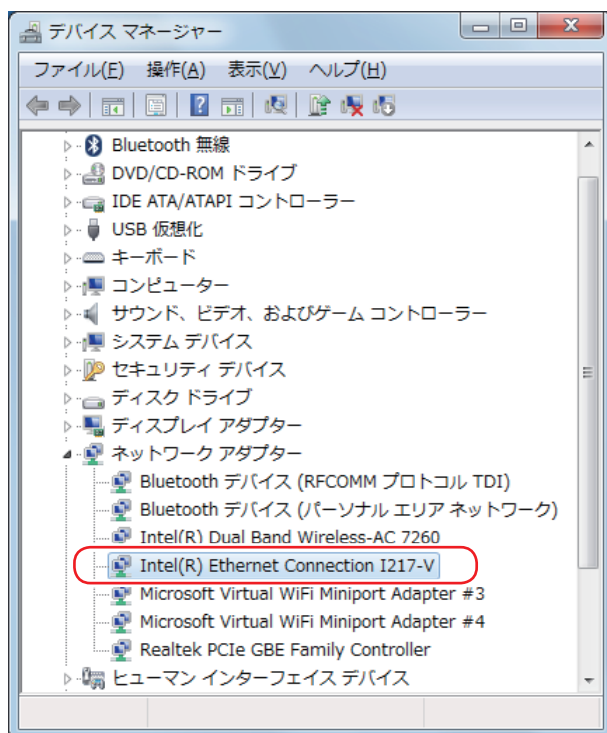
ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

1

「スタート」－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。

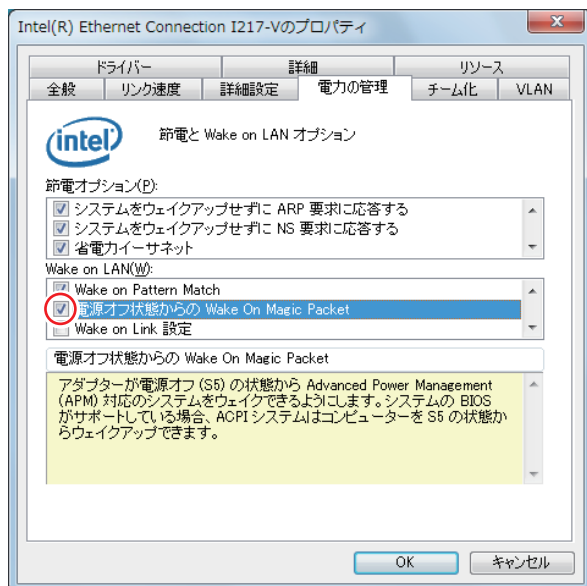


- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel (R) Ethernet Connection I217-V」をダブルクリックします。



- 3** 表示された「Intel (R) Ethernet Connection I217-V」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 4** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックを入れて[OK]をクリックします。



5 をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定は完了です。



参考

WakeUp On LAN を設定している場合

UEFI の設定で、WakeUp On LAN (Power On By PCIE Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

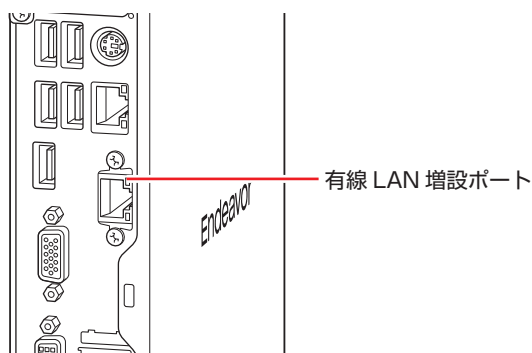
リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

有線LAN増設ポートを使う(オプション)

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面には有線 LAN 増設ポートが搭載されています。

使用方法は、標準搭載の LAN コネクタと同様です。



有線 LAN 増設ポートで Wakeup On LAN を行う

有線 LAN 増設ポートで Wakeup On LAN の設定を行う場合は、次の項目を設定します。

UEFI

「Power」メニュー画面 - 「APM Configuration」 - 「Power On By PCIE Devices」

ネットワークアダプター

Realtek PCIe GBE Family Controller

設定方法は、 p.67 「WakeUp On LAN」をご覧ください。

※ ネットワークアダプターの「電源の管理」タブの設定では、「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」にチェックを入れてください。

無線 LAN 機能（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本機には無線 LAN アダプターが内蔵されています。無線 LAN とは、電波を利用して通信を行うネットワークのことです。

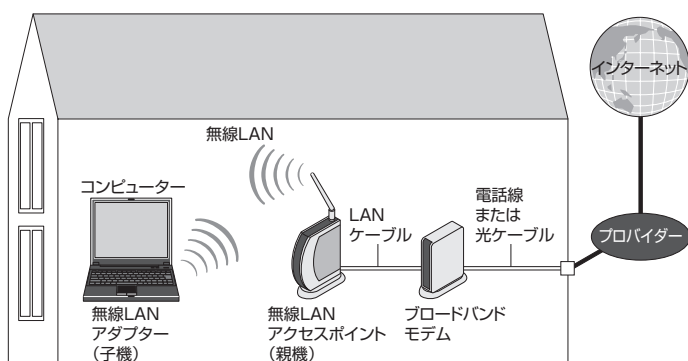
準拠規格

本機に内蔵されている無線 LAN アダプターは、次の規格に準拠しています。

- IEEE802.11ac/a (W52/W53/W56) /b/g/n
(ac は Intel Dual Band Wireless-AC 7260 + Bluetooth 「WiFi CERTIFIED」 モジュール選択時のみ)

無線 LAN の概要

無線 LAN の概要を図で表すと、次のようになります（図は一例です）。



無線 LAN の用語一覧

無線 LAN 機器のマニュアルにより、使用している用語が本書と異なる場合があります。下記の用語一覧を参考にしてください。

本書での表記	別名
無線 LAN	ワイヤレス LAN
無線 LAN アクセスポイント	親機、ワイヤレス LAN ステーション、アクセスポイント、各社の製品名称
無線 LAN アダプター	子機、ワイヤレスステーション、無線 LAN 端末、無線 LAN クライアント
SSID	ESS-ID、ESSID、ネットワーク名、サービスセット識別子
SSID 非通知	SSID の隠蔽、SSID を見せない設定、SSID マスクビーコン、SSID ステルス、ステルス AP、ステルス機能、ANY 接続拒否
MAC アドレスフィルタリング	MAC アドレスによる制限


無線LAN使用時の注意

無線 LAN を使用する際は、次の注意事項をよくお読みください。




- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 無線 LAN 機能が搭載されている場合、医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
 - ・手術室・集中治療室 (ICU)・冠状動脈疾患監視室 (CCU) には、本機を持ち込まない。
 - ・病棟内では、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切るか電波を停止する。
 - ・医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
 - ・本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、無線 LAN 機能を使用するときは、装着部と本機の間を 22cm 以上離してください。
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切るか電波を停止してください。
- 無線 LAN 機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、サーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.101 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いている状態で省電力状態に移行すると、通常の状態に復帰できない場合があります。
- 本機の無線 LAN 機能は、Wakeup On LAN とリモートブートには対応していません。

電波に関する注意

無線 LAN は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機には認証を取得した無線設備が内蔵されており、5GHz (802.11ac/a/n) または 2.4GHz (802.11b/g/n) の周波数帯を使用します。
- 本機の無線設備は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として技術基準適合証明を受けているため、本機を分解／改造しないでください。なお、日本国内でのみ使用できます。
- 5GHz (W52、W53、W56) の周波数帯は、電波法の規定により屋外では使用できません。
- 2.4GHz の周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と称す）が運用されています。
 - 1 本機の無線設備をご使用になる前に、近くで「他の無線局」が使用されていないことを確認してください。
 - 2 万一、本機の無線設備と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所または使用無線チャンネルを変えるか、運用（電波の発射）を停止してください。
 - 3 電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときには、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

無線LAN機能のオン/オフ方法

無線 LAN 機能のオン / オフ方法について説明します。



警告

無線 LAN 機能が搭載されている場合、航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切るか電波を停止してください。電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。また、本機に自動的に電源が入る設定をしている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。

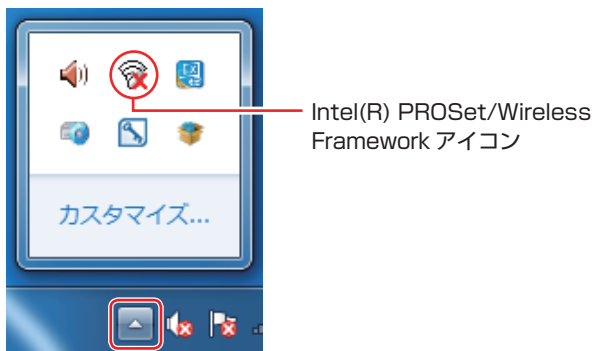


制限

- 有線 LAN を使用する場合は、無線 LAN 機能をオフにしてください。
- バッテリーのみで本機を使用している場合、無線 LAN 機能がオンになっていると、バッテリー駆動時間が短くなります。無線 LAN を使用しない場合は、無線 LAN 機能をオフにしてください。

無線 LAN 機能のオン / オフ方法は次のとおりです。

- 1 通知領域の [△] – 「Intel(R) PROSet/Wireless Framework」アイコンをクリックします。



- 2 表示された項目から「WiFi オン」または「WiFi オフ」を選択します。

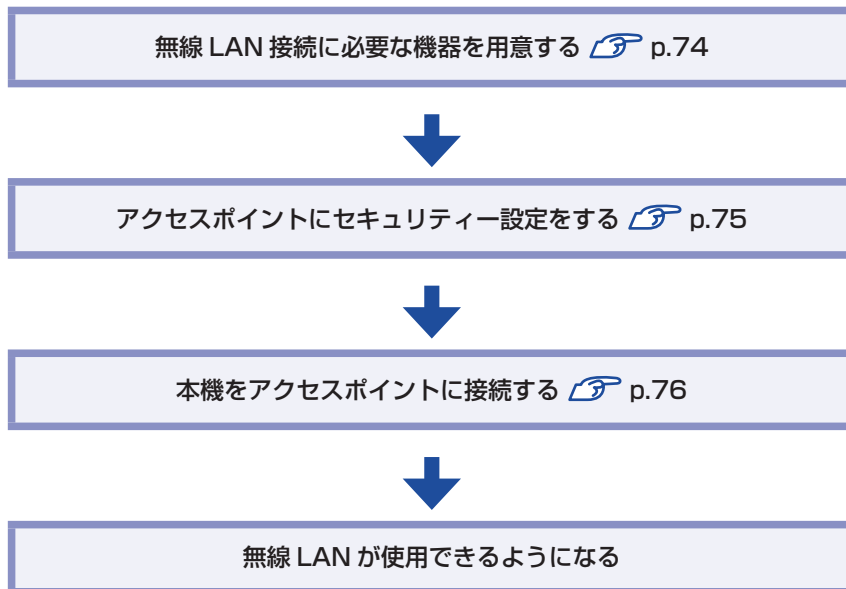


無線LAN接続の設定をする

ここでは無線 LAN アクセスポイント（以降、アクセスポイント）と本機を無線でつなげる方法（無線 LAN 接続方法）について説明します。

インターネットへの接続は、無線 LAN 接続完了後に、プロバイダーから提供されたマニュアルをご覧ください。

無線 LAN 接続の設定の流れは、次のとおりです。



参考

アクセスポイントのマニュアルに従って接続する

アクセスポイントによっては、アクセスポイントのマニュアルの記載に従って設定すると、簡単に無線 LAN 接続をすることができます。

まずは、アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

無線 LAN 接続に必要な機器を用意する

無線 LAN 接続に必要な機器を用意します。

●無線 LAN アクセスポイント

本機と無線で通信するための機器です。本機の対応規格に合ったものをご購入してください。アクセスポイントにはルーター付きとルーター無しがあります。接続するブロードバンドモデムにルーター機能がない場合は、ルーター付きを選択します。

●ブロードバンドモデム（ADSL 用や光ファイバー用の通信装置）

インターネットに接続する場合に必要です。多くの場合、プロバイダーと契約すると貸与されます。

●LAN ケーブル

ブロードバンドモデムとアクセスポイント、アクセスポイントと本機を接続するのに使います。

アクセスポイントにセキュリティー設定をする

無線 LAN は電波を使用して通信するため、第三者に侵入されたり、通信データを盗み見されたりする可能性があります。また、他人のアクセスポイントに誤って本機を接続してしまう可能性もあります。これらのことを防ぐため、セキュリティー設定を行います。
セキュリティー設定はアクセスポイントのマニュアルを参照して行います。

- 1** 本機とアクセスポイントを LAN ケーブルでつなぎます。
- 2** すでにインターネットに接続している場合は、ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを一旦抜いておきます。
次の手順でファイアウォールを無効にするため、セキュリティーが確保されなくなります。インターネット接続している場合は、必ず電話線や光ケーブルを抜いてください。
- 3** ファイアウォールを一旦無効に設定します。
ファイアウォールが有効になっていると、無線 LAN の設定が正常に行えないことがあります。設定方法は、使用されているセキュリティーソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 4** アクセスポイントの電源を入れます。
- 5** アクセスポイントのマニュアルを参照し、本機でアクセスポイントの設定画面を開きます。

無線LANアクセスポイント設定メニュー		
ステータス	X X X X	X X X X X X X
アドレス設定	X X X X	X X X X X X
高度な設定	X X X	X X X
	X X X	X X X
MACフィルター		
メンテナンス	X X X X	X X X X
	X X X	X X X X
パスワード	X X X	X X X
設定ウィザード	X X X	X X X

<イメージ>

- 6** アクセスポイントのマニュアルに従って、次のセキュリティー設定を行うことをおすすめします。

- SSID の変更

誤って他人のアクセスポイントに本機を接続しないように、自分のアクセスポイントの SSID（名前）を自分だけがわかる名前に変更します。SSID は他人にも見えていますので、個人名や会社名など、所有者が特定できるような名前は避けてください。



●暗号化

アクセスポイントと本機に同じ暗号化キーを設定すると、同じ暗号化キーを設定した機器同士のみが接続できるようになります。また、通信データが暗号化され、情報が傍受されにくくなります。

暗号化にはいくつかの方式があります。できるだけセキュリティーレベルの高い設定を行うことをおすすめします。

<おすすめの方式>

暗号化方式：WPA2-PSK（パーソナル）

暗号化の種類：AES



制限

IEEE802.11n は WEP と TKIP には対応していません。



参考

暗号化方式のセキュリティーレベル

暗号化方式のセキュリティーレベルは次の表を参考にしてください。

レベル	暗号化方式	
高 ↑ 低	WPA2	AES
	WPA	AES
		TKIP
	WEP	

7

設定内容を下記の表に記入します。

設定内容は本機側の設定時に使用します。

項目	設定内容
SSID（ワイヤレスネットワーク名）	
暗号化方式（セキュリティー設定）	
暗号化の種類	
暗号化キー （ワイヤレスセキュリティーパスワード）	
キーインデックス	

本機をアクセスポイントに接続する

アクセスポイント側に設定した暗号化キーを本機側にも入力し、本機をアクセスポイントに接続します。

この作業は初めて接続するときのほかに暗号化キーを変更したときや、Windows の再インストールをした場合にも行います。

1

本機の無線 LAN 機能をオンにします。

p.72 「無線 LAN 機能のオン / オフ方法」

2 アクセスポイントに接続します。

- 1 通知領域の [△] - 「Intel(R) PROSet/Wireless Framework」アイコンをダブルクリックします。



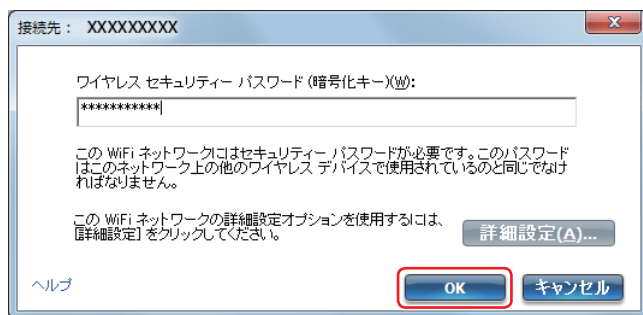
- 2 「インテル (R) PROSet/Wireless…」画面が表示されたら、接続するアクセスポイント（設定した SSID）を選択し、[接続] をクリックします。



<イメージ>



- ③ ワイヤレスセキュリティパスワード（暗号化キー）の入力ボックスが表示されたら、アクセスポイントに設定した暗号化キーを入力し、[OK] をクリックします。



「XXXX (SSID 名) に接続しています。」と表示されたら、画面を閉じます。

- ③ **ファイアウォールを有効に戻します。**
設定方法は、使用されているセキュリティソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- ④ **ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。**
- ⑤ **本機とアクセスポイントをつないでいる LAN ケーブルを外します。**
これで接続作業は完了です。

プロファイル

ここで設定した無線 LAN は、「プロファイル」として自動的に保存されます。プロファイルが作成されていると、次回からは設定を行わずに簡単に無線 LAN に接続することができます。

無線LANを使う

無線 LAN 接続の設定が完了すると、次回からは無線 LAN 機能をオンにするだけで自動的にアクセスポイントに無線 LAN 接続することができます。

インターネット接続の設定

インターネットに接続する場合は、プロバイダーから提供されたマニュアルをご覧ください。

強固なセキュリティー設定をする

無線 LAN のセキュリティー機能には、ほかにも次のようなものがあります。

- MAC アドレスフィルタリング
- SSID 非通知

セキュリティーをさらに強固にしたい場合は、必要に応じて設定を行ってください。アクセスポイントによっては上記の機能に対応していないものもあります。詳しくはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

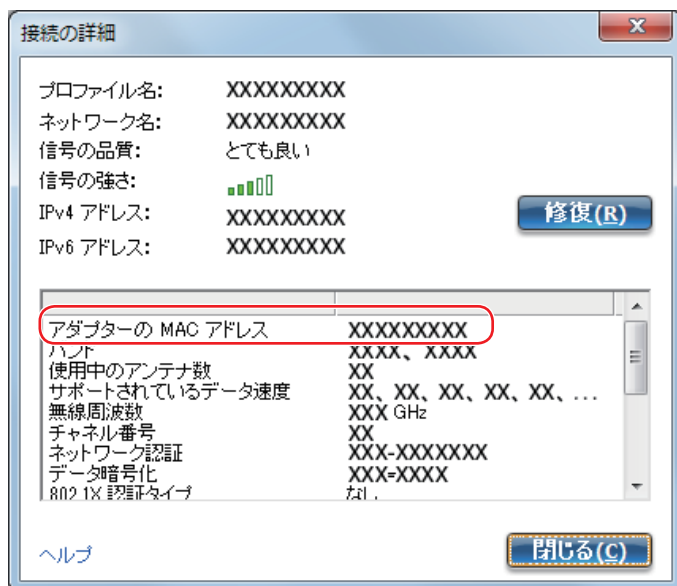
MAC アドレスフィルタリング

MAC アドレスとは、ネットワーク機器に割り当てられている固有の番号のことです。MAC アドレスフィルタリングをすると、接続を許可した MAC アドレスを持つコンピューター以外はアクセスポイントに接続できないようになります。

MAC アドレスフィルタリングの方法は、次のとおりです。

MAC アドレスの確認

本機の無線 LAN アダプターの MAC アドレス（物理アドレス）は、アクセスポイントに接続完了（p.76）している状態で、「インテル (R) PROSet/Wireless…」画面で「詳細」をクリックすると表示されます。



MAC アドレスは次の方法でも確認できます。

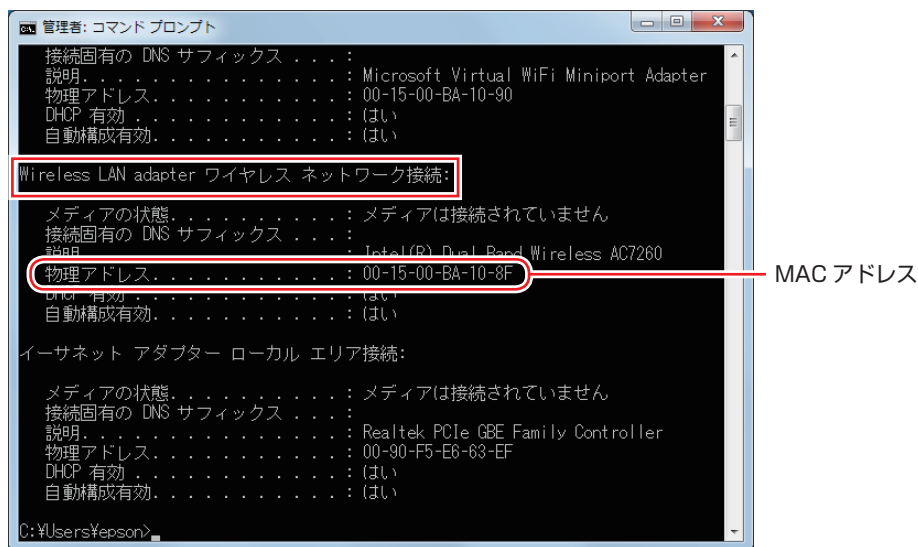
- 1 [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「コマンドプロンプト」を選択します。



- 2 コマンドプロンプトが表示されたら、「C: ¥ . . . >」のあとに次のとおり入力し、
[↵] を押します。

ipconfig □ /all (□はスペースを意味します)

- 3 「コマンドプロンプト」画面が表示されたら、画面をスクロールし、「Wireless LAN adapter ワイヤレス ネットワーク接続」項目の「物理アドレス」(MAC アドレス)を確認します。




<イメージ>

MAC アドレスの英数値を下記の表に記入しておきましょう。
MAC アドレスフィルタリングの設定時に使用します。

MAC アドレス	
----------	--

MAC アドレスフィルタリングの設定


アクセスポイントで MAC アドレスフィルタリングの設定をします。

- 1 アクセスポイントのマニュアルに従って、MAC アドレスフィルタリングの設定をします。
- 2  p.76 「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線 LAN 接続をすることができます。

SSID 非通知


SSID 非通知の設定を行うと、コンピューター側に SSID が表示されなくなります。他人にアクセスポイント (SSID) が見えなくなるため、無断接続を防ぐことができます。
SSID 非通知の設定方法は、次のとおりです。

- 1 アクセスポイントのマニュアルに従って、SSID 非通知の設定をします。

- 2**  p.76 「本機をアクセスポイントに接続する」で一度接続ができていれば、すぐに無線 LAN 接続をすることができます。

まだ接続ができていない場合は、次の手順で接続してください。

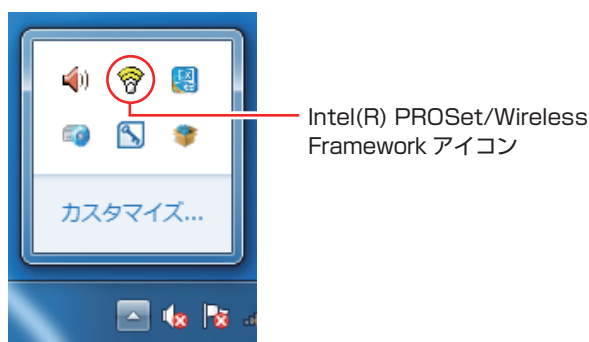
SSID 非通知の状態では本機をアクセスポイントに接続する

初めて本機をアクセスポイントに接続するときに SSID 非通知の設定がされていると、本機にアクセスポイント (SSID) が表示されないため、 p.76 「本機をアクセスポイントに接続する」の方法では接続ができません。次の方法で設定をすべて手動で入力して、プロファイルを作成してください。

- 1** 本機の無線 LAN 機能をオンにします。

 p.72 「無線 LAN 機能のオン / オフ方法」

- 2** 通知領域の [△] – 「Intel(R) PROSet/Wireless Framework」アイコンをダブルクリックします。



- 3** 「インテル (R) PROSet/Wireless…」画面が表示されたら、[プロファイル] をクリックします。

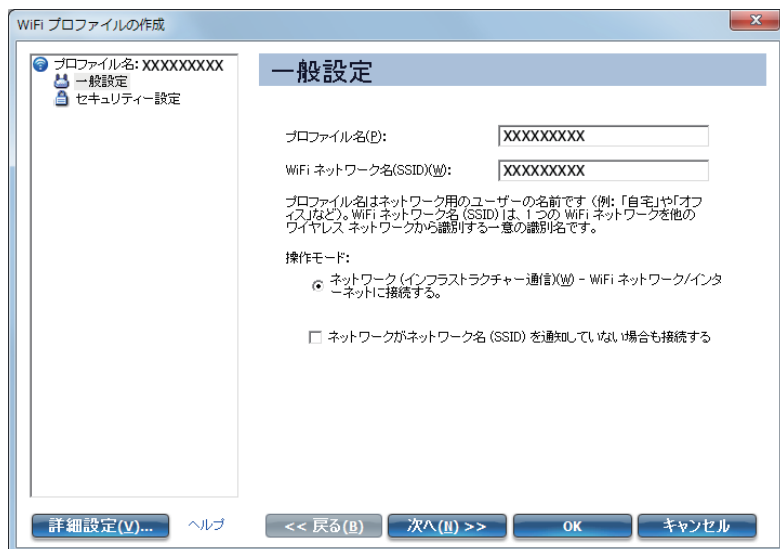


<イメージ>



4 「プロフィール」画面が表示されたら、[追加] をクリックします。

5 「WiFi プロファイルの作成」画面が表示されたら、次の情報を入力します。



<イメージ>

一般設定

- 1 「プロフィール名」に任意の名前を入力します。
- 2 「WiFi ネットワーク名」に SSID を入力します。
- 3 「ネットワークがネットワーク名 (SSID) を通知していない場合も接続する」にチェックを付けます。
- 4 [次へ] をクリックします。

セキュリティ設定

- 1 「パーソナルセキュリティ」が選択されていることを確認します。
- 2 「セキュリティ設定」でアクセスポイント側に設定した暗号化方式を選択します。
- 3 「ワイヤレスセキュリティパスワード (暗号化キー)」の入力ボックスに暗号化キーを入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

6 「プロフィール」画面で作成したプロフィールを選択し、[接続] をクリックします。「XXXX (SSID 名) に接続しています。」と表示されたら、画面を閉じます。


7 ファイアウォールを有効に戻します。

設定方法は、使用されているセキュリティソフトウェアのヘルプをご覧ください。

8 ブロードバンドモデムに接続されている電話線や光ケーブルを抜いていた場合は、元に戻します。




- 9** 本機とアクセスポイントをつないでいる LAN ケーブルを外します。
これで接続作業は完了です。

複数の無線LAN環境を登録する

複数の無線 LAN 環境（職場やホットスポットなど）の設定を事前に登録しておきたいときは、手動入力でプロファイルを作成します。
手動入力でプロファイルを作成する方法は、 p.81 「SSID 非通知の状態では本機をアクセスポイントに接続する」をご覧ください。

ドメインに接続するための設定

会社などでドメイン環境に接続する場合は、Windows ログオン前にアクセスポイントに接続する必要があります。次の設定を行ってください。作業は、ネットワーク管理者の指示に従って行ってください。

- 管理者ツールキットの追加  p.83
- 管理者ツールでの無線 LAN 接続設定  p.85
- Windows での設定  p.86



制限

設定は管理者アカウントでログオンして行ってください。

ドメイン環境に接続しない場合は、これらの設定を行う必要はありません。

管理者ツールキットの追加

ドメインに接続する場合は、管理者ツールキットを追加する必要があります。
管理者ツールキットの追加方法は次のとおりです。

- 1** 管理者ツールキットをインストールする前に、「インテル (R) PROSet/Wireless ソフトウェア」を一度アンインストールします。

※アンインストールを行わないと、管理者ツールが正常にインストールできません。必ずアンインストールを行ってください。

- 1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 2 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「インテル (R) PROSet/Wireless ソフトウェア」を選択して [アンインストール] をクリックします。
- 3 「インテル (R) PROSet/Wireless ソフトウェアのアンインストール」と表示されたら、「設定の破棄」をクリックします。
アンインストールが行われます。
- 4 「成功しました。」と表示されたら、[完了] をクリックします。



2 「インテル (R) PROSet/Wireless ソフトウェア」を再インストールします。同時に管理者ツールもインストールします。

- ① 「ドライバー DVD」を光ディスクドライブにセットします。
- ② 「自動再生」画面が表示されたら、「EDCInst.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、「スタート」－「コンピューター」－「EPSON_DVD」をダブルクリックします。
- ③ 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、「はい」をクリックします。
- ④ 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、「項目別インストール」をクリックします。
- ⑤ ドライバーの一覧が表示されたら、「Intel 無線 LAN ドライバー」を選択して「インストール」をクリックします。
- ⑥ 「Intel 無線 LAN ドライバー」と表示されたら、「インストール開始」をクリックします。
- ⑦ 「インストール確認」画面が表示されたら、「OK」をクリックします。
- ⑧ 「インテル (R)PROSet/Wireless ソフトウェア」画面が表示されたら、「エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) を確認し、同意します。」にチェックを付けて、「カスタマイズ」をクリックします。
- ⑨ インストールする項目一覧が表示されたら、「管理者ツールキット」にチェックを付け、すべての項目にチェックが付いていることを確認して、「インストール」をクリックします。
インストールが行われます。
- ⑩ 「成功しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。

これで管理者ツールキットの追加は完了です。

続いて、管理者ツールで接続設定を行います。



参考

Windows のログオン画面

この設定を行って機能を追加すると、Windows のログオン画面の表示が変わります。ログオン時は、ユーザー名とパスワードを入力して [OK] をクリックします。パスワードを設定していない場合は、パスワード欄は何も入力する必要はありません。

管理者ツールでの無線 LAN 接続設定

Windows にログオンしたときに無線 LAN に接続できるように管理者ツールで設定を行います。設定方法は次のとおりです。

- 1 通知領域の [△] – 「インテル (R) PROSet/Wireless Framework」アイコンをダブルクリックします。



- 2 「インテル (R) PROSet/Wireless…」画面が表示されたら、「ツール」メニューの「管理者ツール」をクリックします。
- 3 「パスワードの作成」画面が表示されたら、「パスワード」と「パスワードの確認」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。
「管理者ツール」を次に使用するときは、ここで設定したパスワードの入力が必要になります。
- 4 「管理者パッケージを開く」画面が表示されたら、「新しいパッケージを作成する」を選択して [OK] をクリックします。
- 5 「管理者ツールー新しいパッケージ」画面が表示されたら、「プロファイル」タブ内の「ログオン前/共通」タブをクリックします。
- 6 [追加] をクリックします。
- 7 「WiFi プロファイルの作成」画面が表示されたら、次の情報を入力します。

一般設定

- 1 「プロファイル名」に任意の名前を入力します。
- 2 「WiFi ネットワーク名」に SSID を入力します。
- 3 「ネットワークがネットワーク名 (SSID) を通知していない場合も接続する」にチェックを付けます。
- 4 [次へ] をクリックします。



セキュリティ設定

- 1 「パーソナルセキュリティ」が選択されていることを確認します。
 - 2 「セキュリティ設定」でアクセスポイント側に設定した暗号化方式を選択します。
 - 3 「ワイヤレスセキュリティパスワード(暗号化キー)」の入力ボックスに暗号化キーを入力します。
 - 4 [OK] をクリックします。
- 8 「管理者ツール-新しいパッケージ」画面の「ファイル」メニューから、「パッケージを保存する」を選択します。
 - 9 「名前をつけて保存」画面で、「保存する場所」を選択し、任意の「ファイル名」を入力して[保存] をクリックします。
 - 10 「保存されているパッケージ」画面が表示されたら、[終了] をクリックします。
 - 11 「パッケージが保存されました」画面が表示されたら、「このパッケージをコンピューターに適用します」にチェックを付けて [OK] をクリックします。

これで、管理者ツールの設定は完了です。

Windows での設定

ドメインに接続するには、続けて Windows の設定が必要です。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

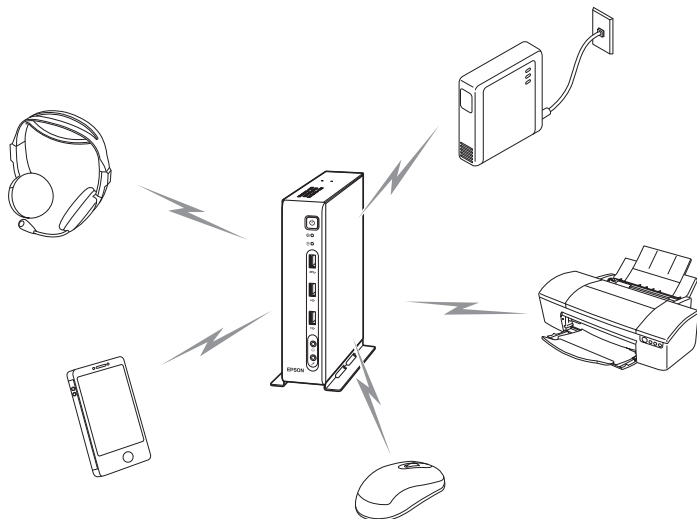
Bluetooth 機能（オプション）

購入時にオプション選択された場合、本機には Bluetooth 機能が搭載されています。Bluetooth とは、無線の通信方式の 1 つです。Bluetooth 機能を使用して、本機に Bluetooth に対応した周辺機器を接続することができます。

！ 制限

本機は購入時、電源を入れると自動的に無線機能（Bluetooth）がオンになり、電波が発生します。

航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を入れないでください。



仕様

本機に搭載されている Bluetooth 機能の仕様は、次のとおりです。

規格	周波数帯
Bluetooth 標準規格 Ver 4.0 + EDR、LE 対応	2.4GHz

Bluetooth機能をお使いの前に



- 航空機や病院など、電波の使用を禁止された区域に本機を持ち込むときは、本機の電源を切ってください。
電波が電子機器や医療用電気機器に影響を及ぼす場合があります。
また、自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切ってください。
- 医療機関の屋内で本機を使用するときは、次のことを守ってください。
 - ・ 手術室・集中治療室 (ICU)・冠状動脈疾患監視室 (CCU) には、本機を持ち込まない。
 - ・ 病棟内では、本機の電源を切る。
 - ・ 病棟以外の場所でも、付近に医療用電気機器がある場合は、本機の電源を切る。
 - ・ 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従う。
 - ・ 自動的に電源が入る機能が搭載されている場合は、設定を解除してから、本機の電源を切る。
- 植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している場合、Bluetooth機能を使用するときは、装着部と本機の間を22cm以上離してください。
電波が、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の作動に影響を及ぼす場合があります。
満員電車など、付近に心臓ペースメーカーを装着している人がいる可能性がある場所では、本機の電源を切ってください。
- Bluetooth機能は、自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しないでください。
電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

電波に関する注意

Bluetooth機能は、次の電波に関する注意事項を確認して正しくお使いください。

- 本機のBluetooth機能は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、技術基準適合証明を受けています。そのため、本機のBluetooth機能を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
- 本機のBluetooth機能は、技術基準適合証明を受けていますので、本機を分解・改造すると法律で罰せられることがあります。
- 2.4GHz 付近の電波を通信している無線装置などの近くで通信すると、双方の処理速度が落ちる場合があります。電子レンジ付近の磁場、静電気、電波障害が発生するところでは、使用しないでください（環境により電波が届かない場合があります）。
- 本機のBluetooth機能の使用する電波が、次の機器や無線局と電波干渉するおそれがあります。
 - ・ 産業・科学・医療用機器
 - ・ 工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の無線局
 - 1 構内無線局（免許を要する無線局）
 - 2 特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

万一、本機のBluetooth機能と他の無線局との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、電源を切ってください。

- Bluetooth と無線 LAN は同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、Bluetooth 機能、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。
- 本製品は電波を利用したワイヤレス機器です。本製品を使用する環境によっては通信速度の低下や、接続が一時的に切断されるなどの現象が発生する場合がありますが、故障ではありません。

通信可能な距離



制限

通信可能距離は通信機器間の障害物や電波状況、磁場、静電気、電波障害の発生する場所、使用するソフトウェア、OS、通信する機器の受信感度、アンテナ性能などによって、変化する可能性があります。通信できない場合は、通信する機器を本機の近くに設置してください。

通信時の確認事項

Bluetooth 機能を使用して通信する際は、次の事項を確認してください。

- 使用する機器が Bluetooth に対応していることを確認してください。
- 本機と使用する機器が通信可能な距離にあることを確認してください。
- 本機と使用する機器が接続可能な状態になっていることを確認してください。
- 本機と使用する機器の Bluetooth 機能が有効になっていることを確認してください。
- 本機と複数の Bluetooth 機器で通信する場合、通信速度が低下する場合があります。

Bluetooth対応の周辺機器を使用する

マウスやヘッドセットなど、Bluetooth 対応の周辺機器を使用する方法を説明します。

周辺機器の検出・追加

新規で周辺機器を使用する場合、周辺機器を検出して、追加をする必要があります。



参考

パスコード

周辺機器によっては、設定中に、パスコードの入力を促す画面が表示される場合があります。この場合は、周辺機器に添付のマニュアルを参照の上、パスコードを入力してください。

周辺機器を新規で検出・追加する方法は次のとおりです。

1

周辺機器を本機の近くに設置します。

2

周辺機器の Bluetooth 機能を「オン」にします。

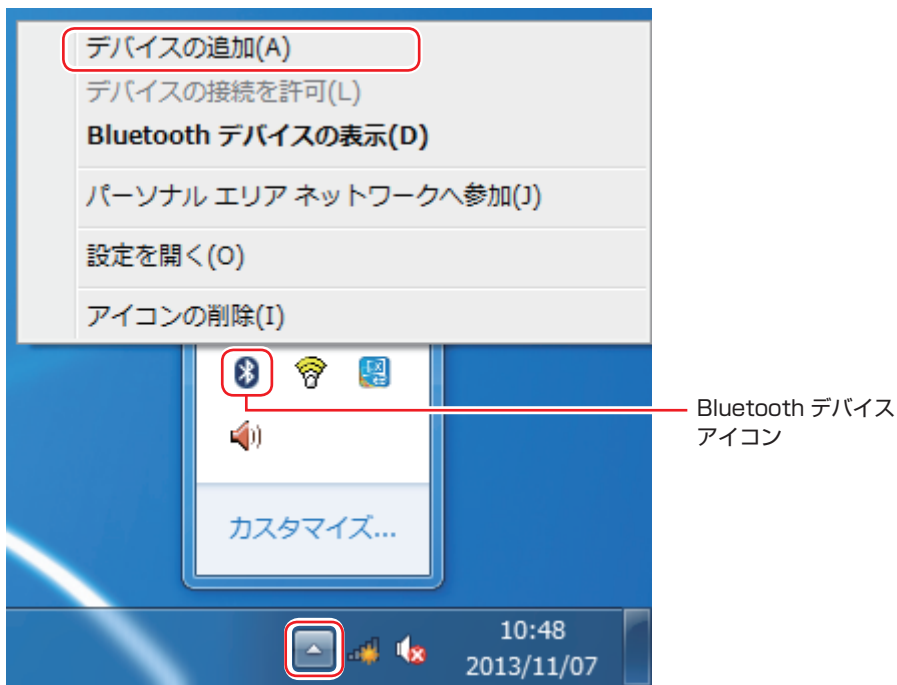
周辺機器の Bluetooth 機能をオンにする方法は、周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。



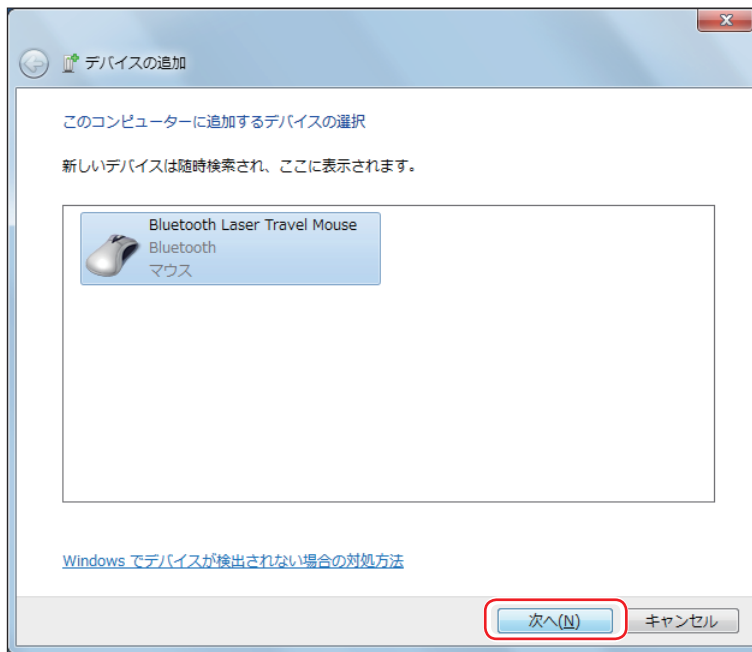
3 周辺機器を検出し、デバイスに追加します。

ここでは Bluetooth マウスを例に説明します。

- 1 通知領域の [△] – 「Bluetooth デバイス」アイコンをクリックし、「デバイスの追加」を選択します。



- 2 表示されたデバイス（マウス）を選択し、[次へ] をクリックします。



- 3 「ペアリングオプションの選択」と表示された場合は、デバイス（マウス）に添付のマニュアルをご覧になり、ペアリングの方法を選択します。

- 4 「このデバイスは、このコンピューターに正常に追加されました」と表示されたら、内容を確認し、[閉じる] をクリックします。



これで周辺機器の検出・追加は完了です。

周辺機器を使用する

追加が完了すると、周辺機器を使用できるようになります。
一度追加を行うと、次回以降は自動的に周辺機器に接続します。

接続を解除する場合

通知領域の [△] - 「Bluetooth デバイス」アイコンをクリックし、「Bluetooth デバイスの表示」を選択します。
表示された画面で、接続を解除するデバイスのアイコンを右クリックし、「デバイスの削除」を選択します。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

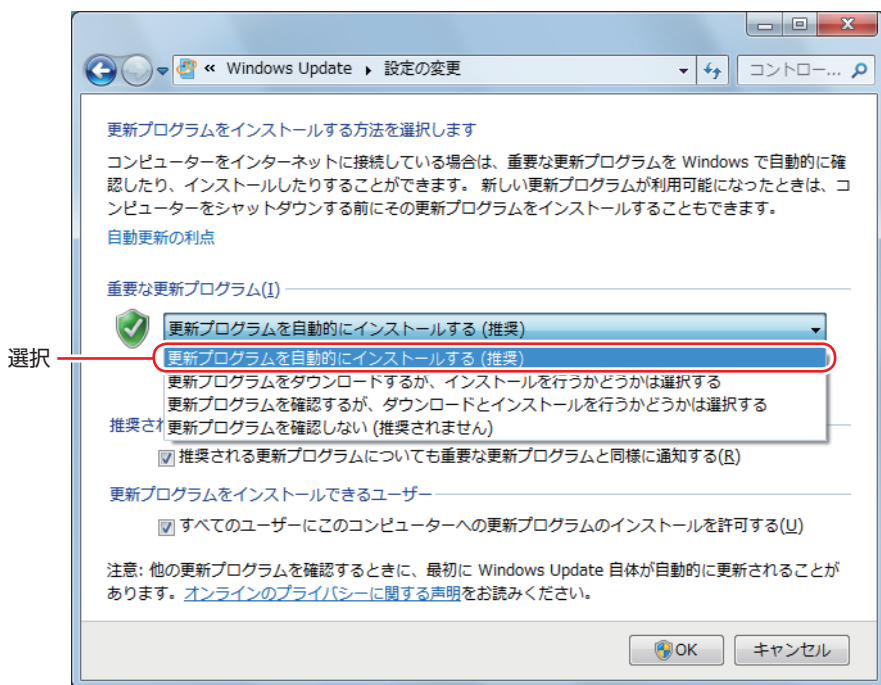
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Update」 - 「設定の変更」



セキュリティソフトウェア

インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」が添付されています。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版のインストール

購入時、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版はインストールされていません。Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。ツールは次の場所から起動することができます。


【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 p.153 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

市販のセキュリティソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競争を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をインストールしないでください。

マカフィー・PC セキュリティセンターのユーザー登録

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使用するには、ユーザー登録が必要です。インターネットに接続後、画面右下、通知領域の McAfee アイコン () をダブルクリックして、ユーザー登録を行ってください。

※ McAfee アイコンが表示されていない場合は、本機を再起動してください。



ユーザー登録を行わないと、製品の更新ができません。また、サポートセンターへの問い合わせにもユーザー登録が必要です。登録しないまま 2 週間以上経過すると、ソフトウェアの自動更新が停止し、最新のセキュリティで保護されなくなります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの使用方法

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



Windows のセキュリティー機能の設定

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には Windows のセキュリティー機能と同等の機能が備えられています。マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版がインストールされていると、次の Windows の機能は「無効」に設定されます。

- Windows ファイアウォール
- Windows Defender

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能によりコンピューターのセキュリティーは守られていますので、Windows の機能は「無効」のままお使いください。

マカフィー・PC セキュリティセンターを一時的に無効にするには

お使いのソフトウェアなどで、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を「無効」にするよう指示があった場合は、一時的にマカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能を「オフ」にします。手順は、「ヘルプ」で確認してください。機能を「オフ」にすると、セキュリティーが確保されなくなります。安全を十分に確認した上で設定し、作業が終わったら、必ず「オン」に戻してください。

マカフィー・PC セキュリティセンターのアンインストール

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合や、お使いのソフトウェアなどで指示があった場合には、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストールします。アンインストール方法は、次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「コントロールパネル」－「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 2** 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「マカフィーセキュリティセンター」を選択して【アンインストールと変更】をクリックします。
- 3** 「マカフィーソフトウェアを削除」と表示されたら、削除するプログラムを選択し、【削除】をクリックします。
- 4** 確認メッセージが表示されたら、内容を確認し、【削除】をクリックします。
- 5** 「ソフトウェアが削除されました。」と表示されたら、【今すぐ再起動】をクリックします。

コンピューターが再起動したら、アンインストールは完了です。

90 日期間限定版（無料体験版）が期限切れしたら


マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には、一定の有効期間（製品使用開始から 90 日間）が設定されています。

有効期限が切れた場合は、定義ファイルの更新やソフトウェアの自動バージョンアップが行われなくなるため、最新のウイルスやスパイウェアなどの脅威に対応することができなくなり、大変危険です。

90 日期間限定版の有効期限が切れた場合は、有効期限の継続手続きを行うことをおすすめします。更新は有償になります。

更新手続きを行うことにより、最新の脅威に対応できるようになります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの再インストール

Windows の再インストールをしたら、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をインストールします。インストール方法は、 p.153「ドライバー/ソフトウェアのインストール」をご覧ください。

マカフィー製品のサポート

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

● マカフィー・インフォメーションセンター

製品購入前のご相談、お問い合わせ

電話ナビダイヤル : 0570-010-220

IP 電話、光電話の場合: 03-5428-1899

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・カスタマーサービスセンター

お客様登録情報の確認、変更

製品の購入・返金に関するご相談

製品の有効期限のご確認

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

お問い合わせ Web フォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_email.asp

電話ナビダイヤル : 0570-030-088

IP 電話、光電話の場合: 03-5428-1792

受付時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日を除く)

● マカフィー・テクニカルサポートセンター

製品のインストール方法

製品の操作方法

製品ご利用後のトラブルに関する技術的なお問い合わせ

ウイルス駆除に関して

マカフィー・チャットサポート

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_chat.asp

お問い合わせ Web フォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/tspc_email.asp

電話ナビダイヤル : 0570-060-033


IP 電話、光電話の場合: 03-5428-2279

受付時間 9:00 ~ 21:00 (年中無休)

(FAX によるお問い合わせは受け付けておりません)

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティーセンター 90 日期間限定版をアンインストール (削除) してください。

 p.95 「マカフィー・PC セキュリティーセンターのアンインストール」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

購入時、i-フィルター 30 日版はインストールされていません。Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。ツールは次の場所から起動することができます。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

 p.153 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版の申し込み

i-フィルター 30 日版を使用するには、申し込みが必要です。申し込みはインターネットに接続した状態で行います。次の場所から i-フィルター 30 日版を起動し、表示された画面の指示に従って、申し込みを行ってください。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」 - 「i-フィルター 6.0」



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。

この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能



ここでは、本機の省電力状態について説明します。

省電力状態

本機を使用していない間、省電力状態にしておくと、電力の消費を抑えることができます。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・ 周辺機器を接続している
 - ・ ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.101 「時間経過で移行させない」
 - ・ 光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・ サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・ 外部接続記憶装置（USB HDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ ネットワーク機能を使っでの通信時：通信が切断される可能性
 - ・ 動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・ 省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・ 再起動する
 - ・ 省電力状態に移行しないように設定する
 p.101 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る

省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。

- スリープ

作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ（初期値）

スリープと休止状態を合わせた状態です。

作業中の内容はメモリーとHDDの両方に保存されます。

- スリープ

作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

- 休止状態


作業内容をHDDに保存し、コンピューターを低電力の状態にします。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。

休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。



休止状態を有効にすると、スリープの状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。

 p.99 「省電力状態の種類」

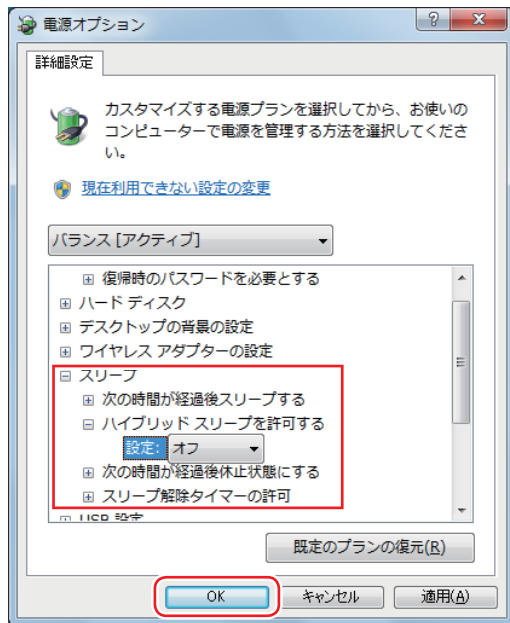
休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

1 [スタート] – [コントロールパネル] – [システムとセキュリティ] – [電源オプション] で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

2 「スリープ」 – 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。



3 [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

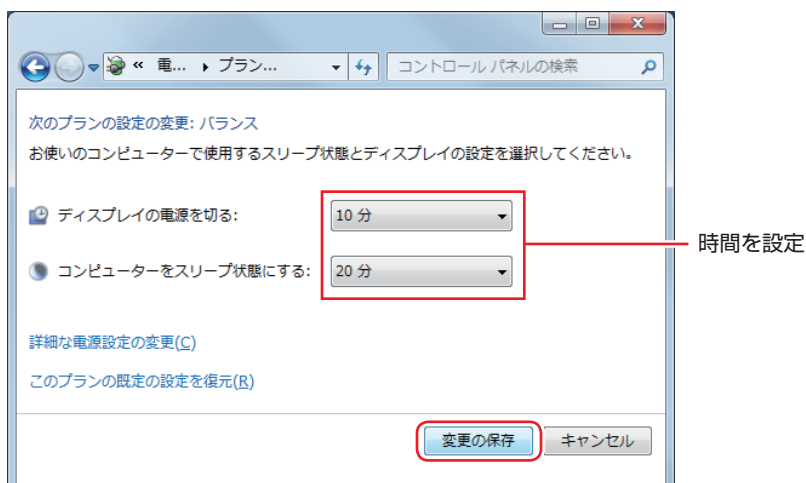
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

[スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」 - 各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアなどに書き込みを行う場合は、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
[スタート] - [▷] から項目を選択する	スリープ、休止状態*

* 購入時は表示されません。

電源ランプの表示


本機の電源の状態は、電源ランプ (④) で確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯 (緑色)
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)
スリープ	点灯 (オレンジ色)
休止状態	消灯
シャットダウン (電源切)	消灯

省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯 (緑色)	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点灯 (オレンジ色)	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの ⏻ キー*を押す
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの ⏻ キー*を押す

* 106 PS/2 コンパクトキーボード (ホットキー付) にのみ搭載されています。PS/2 キーボードの場合、設定を変更すると、**Ctrl** + **Esc** でも起動できます。設定方法は、 p.31「PS/2 キーボードからの起動」をご覧ください。



一度電源コードを抜いて接続しなおした場合、キーボード操作による起動ができなくなる場合があります。

Endeavor 電源プラン設定ツール

本機には節電設定を行うための「Endeavor 電源プラン設定ツール」が添付されています。Endeavor 電源プラン設定ツールでは、3つのおすすめ電源プランや、お客様ご自身で新規に作成するプランの中から、使い方に合った節電プランを設定することができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－画面下 [ユーザーサポート] － FAQ 番号：21091

インストール

Endeavor 電源プラン設定ツールを使用するには、インストールが必要です。購入時は、Windows セットアップ後に表示される「初期設定ツール」からインストールします。初期設定ツールは次の場所から起動することができます。

[スタート]－「すべてのプログラム」－「初期設定ツール」

Windows の再インストール時は、次の場所をご覧ください。

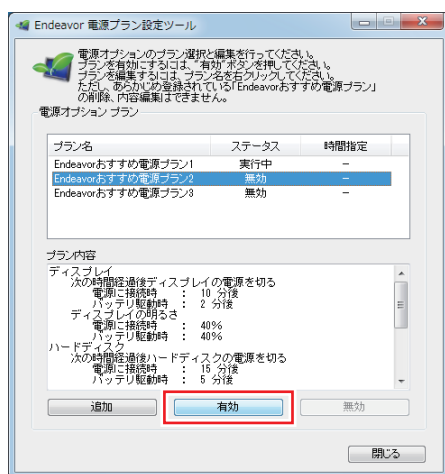
 p.153 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」

プランの変更方法

Endeavor 電源プラン設定ツールをインストールすると、「Endeavor おすすめ電源プラン1」が有効になります。必要に応じて、「Endeavor 電源プラン設定ツール」画面で設定を変更してください。

変更方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]－「すべてのプログラム」－「EPSON DIRECT」－「Endeavor 電源プラン設定ツール」をクリックします。
- 2 変更したいプランを選んで [有効] をクリックします。



おすすめプランの内容や新規プラン作成方法は、次の場所をご覧ください。




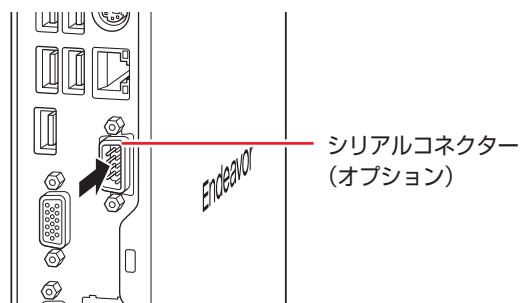
「PC お役立ちナビ」－画面下 [ユーザーサポート] － FAQ 番号：21091

そのほかの機能

ここでは、そのほかの機能について説明します。

シリアルコネクタ(オプション)

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面にはシリアルコネクタ（）が1個搭載されています。シリアルコネクタには、シリアルコネクタに対応した機器（マウスやターミナルアダプターなど）を接続します。



本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。

通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

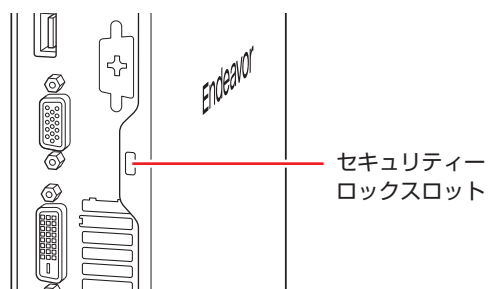
「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」－「Serial Port」

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティの操作」

 p.134 「Advanced メニュー画面」

セキュリティーロックスロット

本機背面には、セキュリティーロックスロットが搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>



2

装置の増設・交換

メモリーや HDD の増設・交換方法について説明します。

増設・交換できる装置	106
作業時の注意	107
メモリーの装着	108
HDD の交換	113

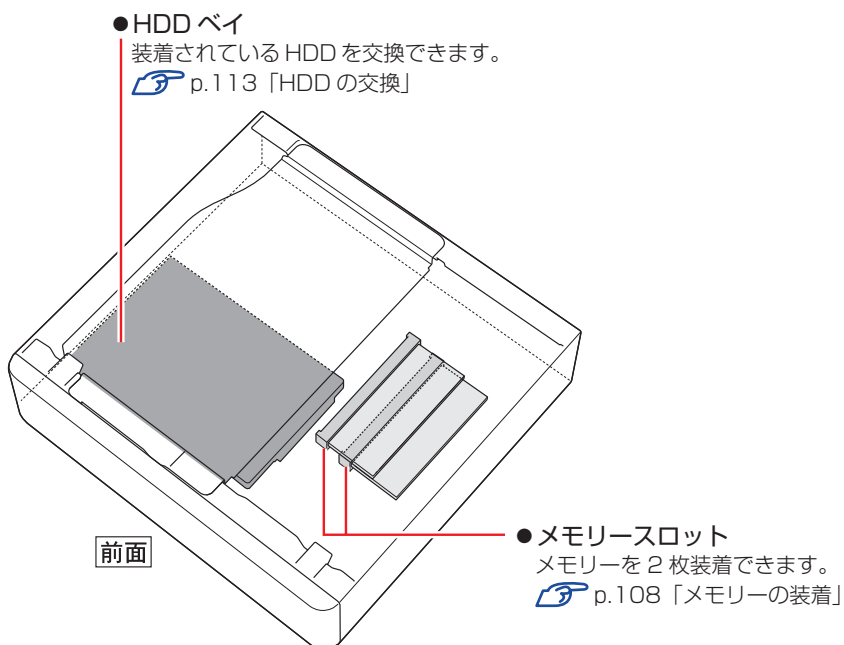
増設・交換できる装置

本機に装着できる装置について説明します。

購入時の選択によっては、すでにいくつかの装置が装着されているため、増設できる装置の数は異なります。



マニュアルで方法を記載していない装置の増設・交換は行わないでください。故障の原因となります。



アップグレードサービス

当社では、コンピューター本体をお預かりして装置の増設・交換を行うアップグレードサービスを有償で行っています。

アップグレードサービスが利用できる装置の最新情報は、次の場所でご確認ください。

<http://www.epsondirect.co.jp/support/afterservice/upgrade/index.asp>



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - 「アフターサービス」項目の「ハードウェアアップグレード」

作業時の注意

内部装置の取り付け・取り外しをする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 装置の増設・交換などで本機のカバーを開けるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
電源プラグを接続したまま作業すると、感電や火傷の原因となります。
- 本機の分解・改造や、マニュアルで指示されている以外の増設・交換はしないでください。
けが・感電・火災の原因となります。



- 装置の増設・交換は、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。
火傷のおそれがあります。
本機の電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから作業を行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。装置や本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- メモリーを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- メモリーの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

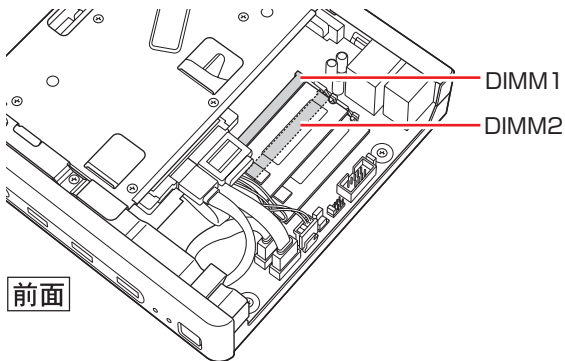
メモリーの装着

本機で使用可能なメモリーの仕様と、メモリーの取り付け・取り外し方法について説明します。
本機にはメモリースロットが2本あり、メモリーを増設・交換することができます。

Windows 7 32 bit 版：最大 4GB まで（システム上利用できるのは約 3GB まで）

Windows 7 64 bit 版：最大 16GB まで

マザーボード上のメモリースロットの位置は、次のとおりです。



メモリーの仕様

本機で使用可能なメモリーは、次のとおりです。

- PC3L-12800 SODIMM (DDR3L-1600 SDRAM 使用)
- メモリー容量 2GB、4GB、8GB
- Non ECC
- 204 ピン
- CL=11

最新メモリー情報

今後、新しいメモリーを取り扱う場合があります。本機で使用可能な最新のメモリーは、当社ホームページでご確認ください。ホームページのアドレスは、次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号：27539

メモリー装着の組み合わせ


本機はデュアルチャネルに対応しているため、同一容量のメモリーを2枚1組で装着すると、データ転送速度のパフォーマンスが最大になります。メモリー装着の組み合わせとメモリーの動作は、次のとおりです。

メモリー装着の組み合わせ	メモリーの動作
同一容量のメモリー2枚	デュアルチャネルで動作。転送速度最大。
メモリー1枚*	通常の転送速度で動作（シングルチャネル）。

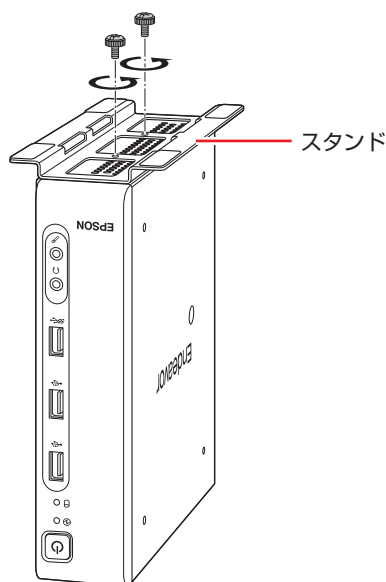
*メモリー1枚で使用する場合は、下側の DIMM2 スロットに装着してください。

メモリーの取り付け・取り外し

メモリーの取り付け・取り外し方法は、次のとおりです。

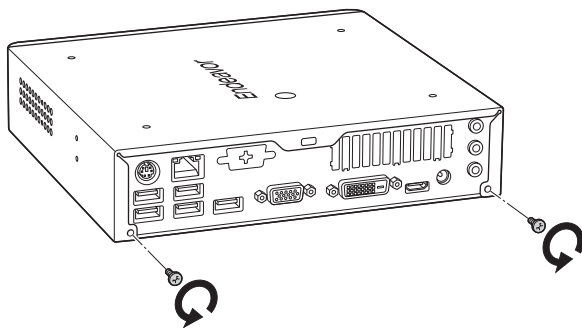
作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」を必ずお読みください。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 縦置きしていた場合は、スタンドを取り外します。

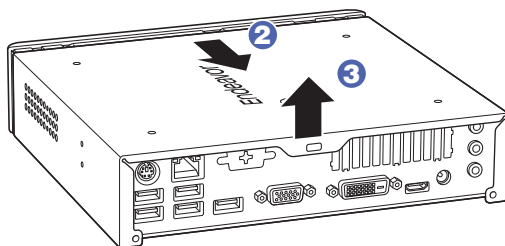


4 本体カバーを取り外します。

- 1 カバー面を上にした状態で横置きし、ネジ（2本）を外します。



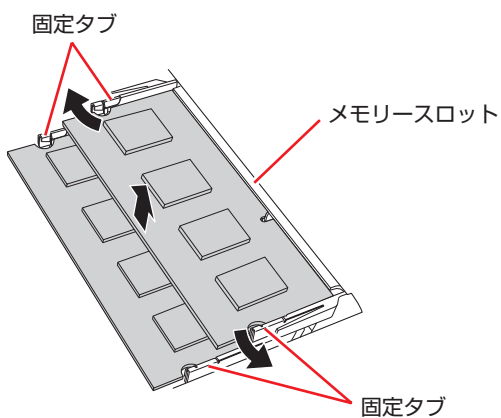
- 2 本体カバーを背面側にずらします。
- 3 本体カバーを上を持ち上げて外します。



5 装着されているメモリーを全て取り外します。

上下のロットとも、次の手順で取り外してください。

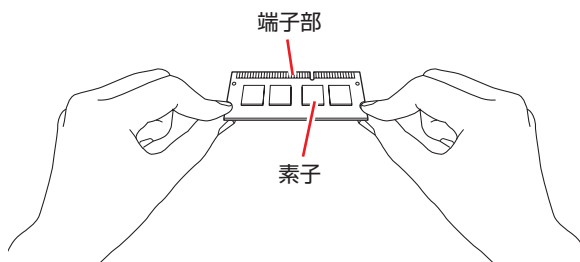
- 1 メモリスロットの両側にある固定タブを外側に広げるとメモリーが起き上がります。



- 2 起き上がったメモリーの両端を持って静かに引き抜きます。
取り外したメモリーは静電防止袋に入れて保管してください。

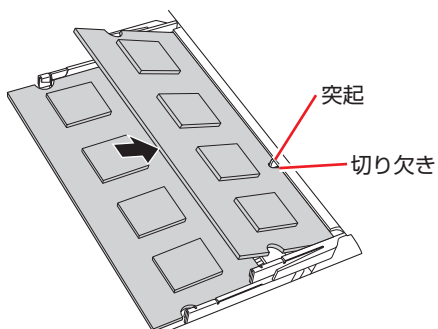
6 メモリーを取り付けます。

- 1 メモリーを静電防止袋から取り出します。
メモリーの端子部や素子に触れないように持ちます。

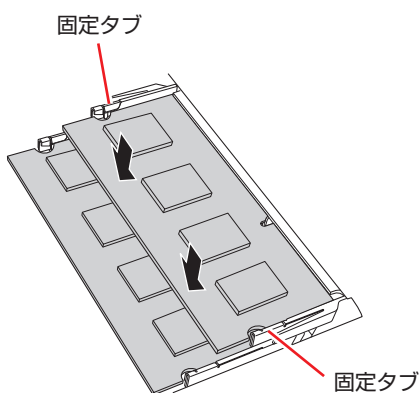


メモリー 1 枚で使用する場合は、下側の DIMM2 スロットに装着してください。2 枚装着する場合は、上下のスロットとも、次の手順で取り付けます。

- 2 メモリーを、メモリースロットに差し込みます。
切り欠きを突起にあわせ、メモリーを約 15 度の角度でメモリースロットに差し込みます。

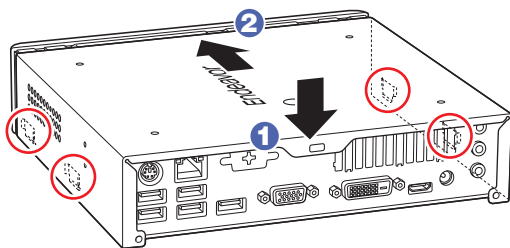


- 3 メモリーを静かに倒します。
正しく装着すると「カチッ」と音がして両側の固定タブに固定されます。

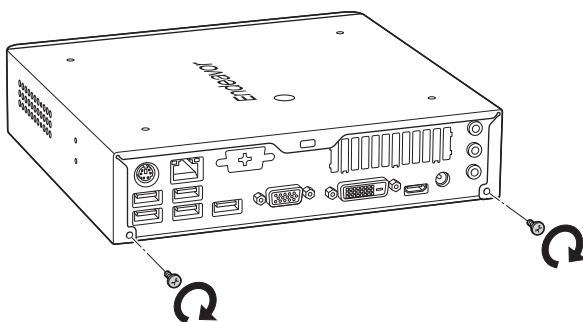


7 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体カバーを本体にかぶせます。
本体カバーのツメ（4カ所）を本体側の縁に差し込むようにかぶせてください。
- 2 本体カバーを前面に向かって押し込みます。



- 3 ネジ（2本）で固定します。



8 縦置きする場合は、スタンドを取り付けます。

9 2で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

10 本機の電源を入れて、メモリーの容量を確認します。

 p.112 「メモリー取り付け・取り外し後の作業」

メモリー取り付け・取り外し後の作業

メモリーの取り付け・取り外しをしたら、メモリーが正しく取り付けられているかどうか、必ずメモリー容量を確認します。

メモリー容量の確認方法は次のとおりです。

1 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。

2 「Main」メニュー画面－「System Information」－「Installed Memory」に表示されているメモリー容量を確認します。

3 **[F10]** を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。

2でメモリー容量が正しく表示されない場合は、メモリーが正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、メモリーを正しく取り付けなおしてください。

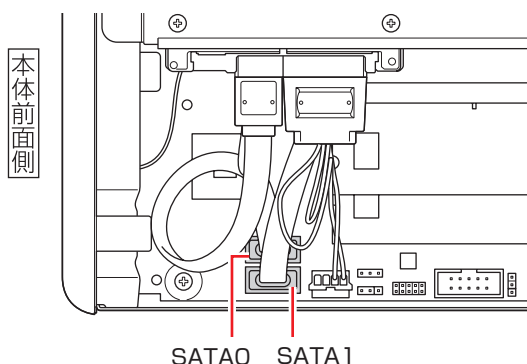
HDD の交換

HDD の交換方法について説明します。
RAID で破損した HDD を交換する場合などにご覧ください。


HDD の接続位置

HDD はマザーボード上の次のコネクタに接続されています。



HDD	コネクタ
1 台目	SATA0
2 台目 (オプション)	SATA1



HDDの交換方法

HDD の交換方法は次のとおりです。
作業を始める前に  p.107 「作業時の注意」 を必ずお読みください。

！ 制限

- HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を交換してください。
 p.130 「HDD アクセス制限」
- RAID を構成している HDD を取り外す場合は、RAID を削除してから行ってください。
ただし、RAID 使用時に破損した HDD を交換する場合は、RAID の削除は不要です。
 p.37 「RAID を削除する」

1

本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。

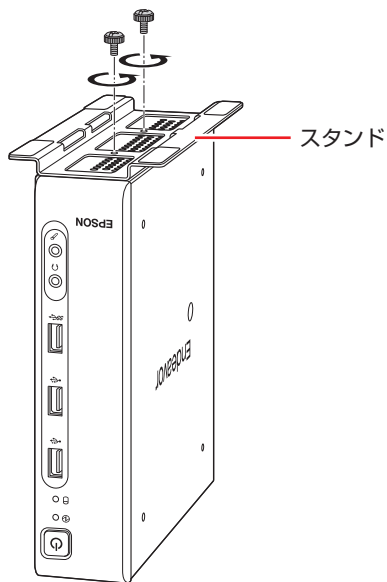
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。

2

本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。



- 3** 縦置きしていた場合は、スタンドを取り外します。

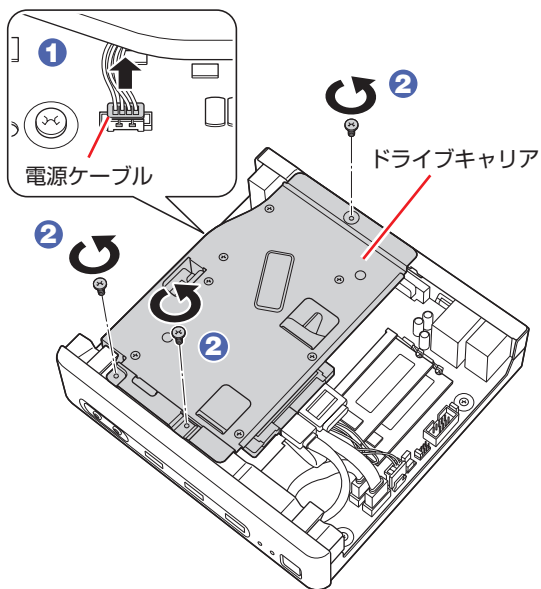


- 4** 本体カバーを取り外します。

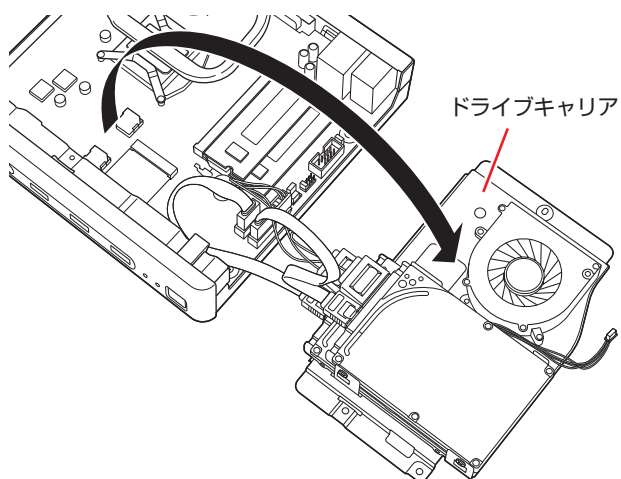
 p.109 「メモリーの取り付け・取り外し」 **3** ~ **4**

- 5** ドライブキャリアを外します。

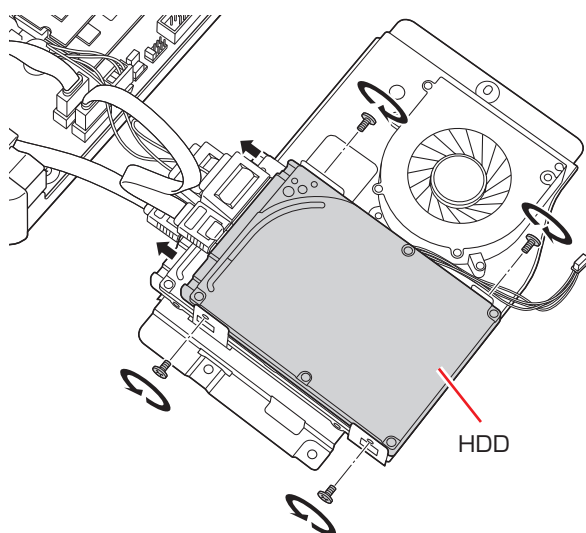
- 1** CPU ファンの電源ケーブルを抜きます。
- 2** ドライブキャリアを固定しているネジ（3本）を外します。



- ③ ドライブキャリアは裏返して置いておきます。



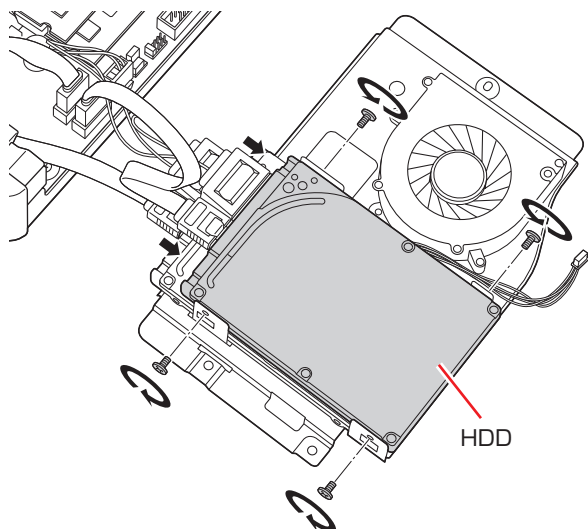
- ⑥ HDD に接続されているケーブル類と HDD を固定しているネジ (4 本) を外します。



下側の HDD を交換する場合は、上側の HDD を一旦外してから取り外してください。



- 7** HDD を交換し、ネジ（4 本）で固定して、ケーブル類を接続します。



- 8** ドライブキャリアを取り付け、CPU ファンの電源ケーブルを接続します。

- 9** 本体カバーを取り付けます。

 p.112 「メモリーの取り付け・取り外し」 **7** ~ **8**

- 10** 縦置きする場合は、スタンドを取り付けます。



- 11** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、 p.117 「HDD 交換後の作業」を行います。



HDD交換後の作業

HDD を交換したら、次の作業を行ってください。

RAID で使用する場合

- RAID で破損した HDD を交換した場合
RAID の再構成または RAID の修復を行ってください。
 p.40 「RAID を修復 / 再構成する」
- 新しく RAID を構成する場合
新しく RAID を構成してください。
 p.38 「RAID を構成する」

RAID で使用しない場合

- 1 台目の HDD を交換した場合
Windows をインストールしてください。
 p.149 「Windows 7 のインストール」
- 2 台目の HDD を交換した場合
ドライブの作成を行ってください。
 p.157 「ドライブを作成する」



3

UEFI の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「UEFI」の設定を変更する方法について記載しています。

UEFI の設定を始める前に.....	120
UEFI Setup ユーティリティーの操作.....	121
UEFI Setup ユーティリティーの設定項目.....	133

UEFI の設定を始める前に



当社製以外の UEFI を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対に行わないでください。

UEFI は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

UEFI の設定は「UEFI Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。UEFI の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

UEFI の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

UEFI Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



リチウム電池の寿命

UEFI Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約 3 年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

 p.171 「リチウム電池の脱着（CMOS RAM の初期化）」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、設定値を戻すことができます。

 p.126 「Load Setup Defaults（UEFI の初期値に戻す）」

 p.126 「Discard Changes（前回保存した設定値に戻す）」

 p.127 「Load Setup User Define（ユーザーの初期設定値に戻す）」

UEFI Setup ユーティリティの操作

ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザー設定値を保存する
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

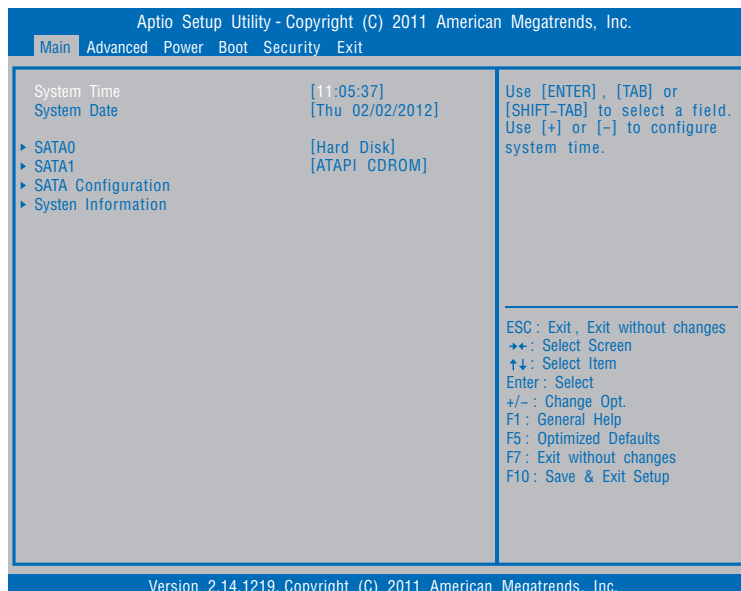
UEFI Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **Delete** の位置を確認してください。**1** では、すばやく **Delete** を押す必要があります。

1 本機の電源を入れ、すぐに **Delete** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。

Windows が起動してしまった場合は、再起動して **1** をもう一度実行してください。

2 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



< UEFI Setup ユーティリティ画面 (イメージ) >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。


CMOS Checksum Bad
Press F1 to Run SETUP
Press F2 to load default values and continue

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して UEFI Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して UEFI Setup ユーティリティを終了します。

 p.125 「UEFI Setup ユーティリティの終了」

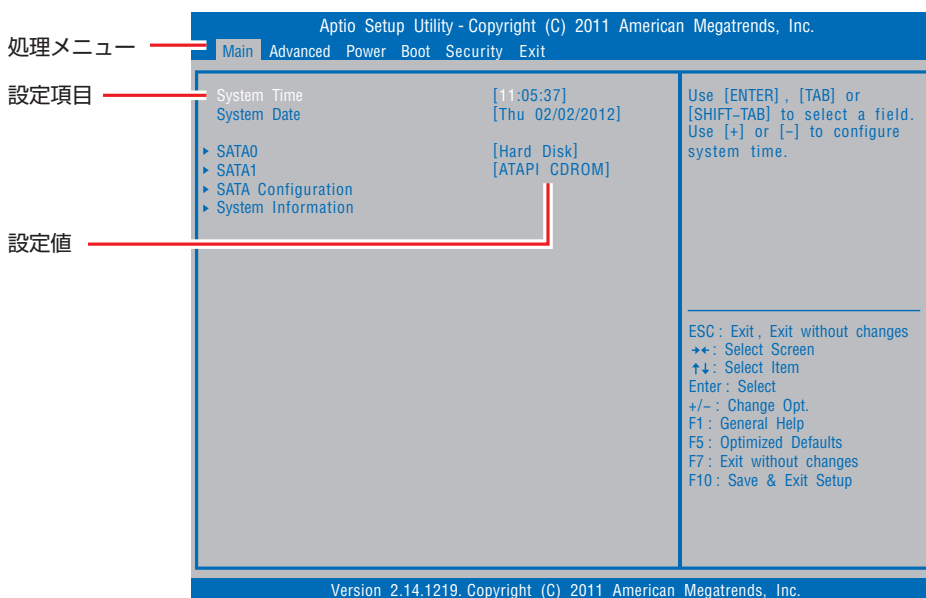
UEFI Setupユーティリティの操作

「UEFI Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.133 「UEFI Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

UEFI Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

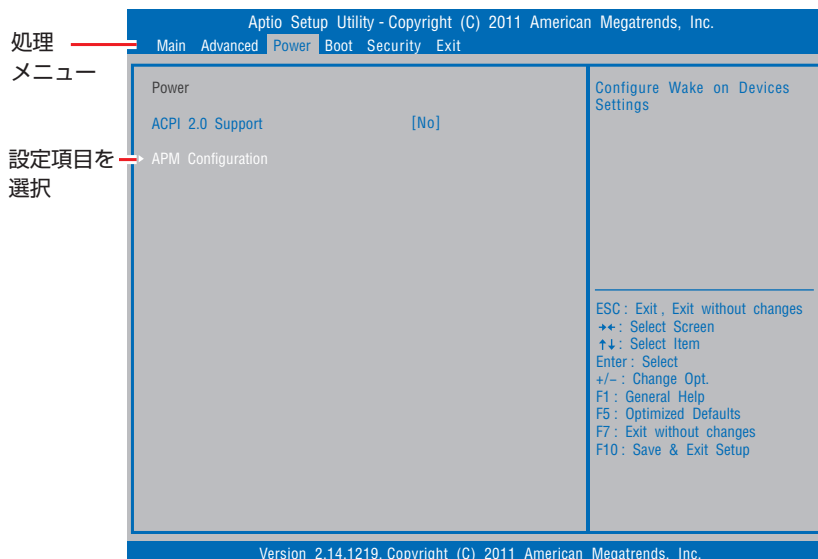
操作方法

UEFI Setup ユーティリティの操作方法是次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

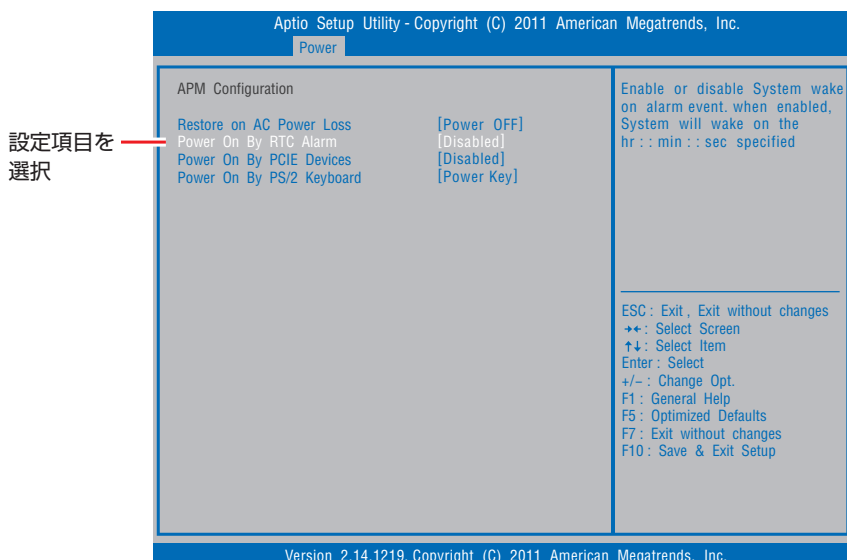
↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、← を押すとサブメニュー画面が表示されます。↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



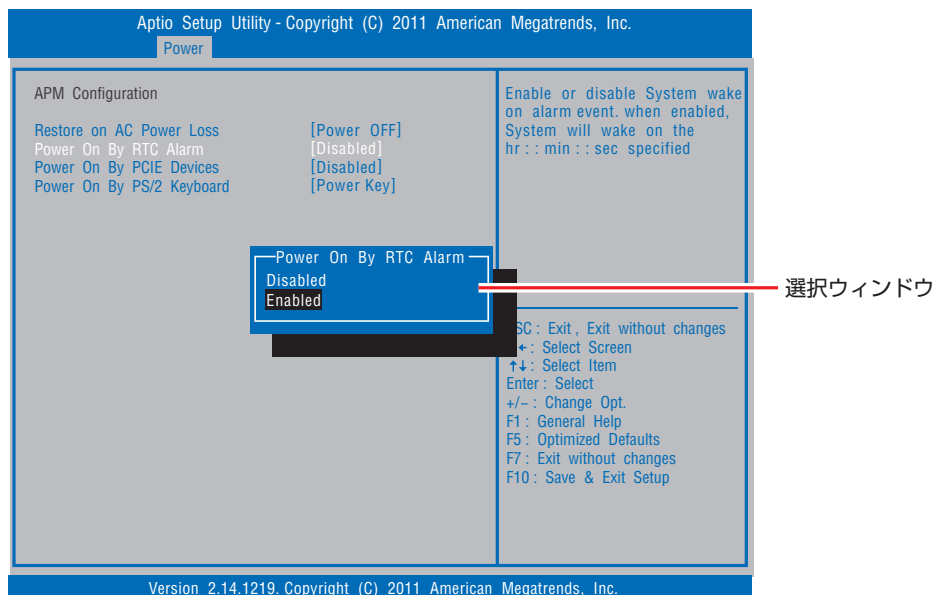
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには Esc を押します。



2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ↵ で決定します。



キー操作

UEFI の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、UEFI の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

UEFI Setupユーティリティの終了

「UEFI Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup?	
[OK]	[Cancel]

- 2 **[OK]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes and exit Setup?	
[OK]	[Cancel]

- 2 **[OK]** を選択し、**[↵]** を押します。
「UEFI Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値をUEFIの初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (UEFIの初期値に戻す)

設定値をUEFIの初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※ 次の項目の設定値をUEFIの初期値に戻すことはできません。

- 「Main」メニュー画面－「SATA Configuration」－「Configure SATA As」
- 「Security」メニュー画面

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup Defaults?	
[OK]	[Cancel]

- 2 **OK** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が「UEFIの初期値」に戻ります。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard Changes ?	
[OK]	[Cancel]

- 2 **OK** を選択し、**↵** を押します。
これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

ユーザー設定値を保存する

「UEFI Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておく、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「UEFIの初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。

Save User Define (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 UEFI Setup ユーティリティの設定値を変更します。
- 2 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save User Define?	
[OK]	[Cancel]

- 3 [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が保存されます。

Load Setup User Define (ユーザーの初期設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。

※ 「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup User Define?	
[OK]	[Cancel]

- 2 [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する

「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、UEFI や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。

パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類


パスワードには次の 2 種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)

コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで UEFI にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。

- User Password (ユーザーパスワード)

一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで UEFI にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。

 p.129 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。




設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、UEFI の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードや HDD アクセス制限などが設定できるようになります。


- 1** 「Security」メニュー画面－「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password


- 2** パスワードを入力し、 を押します。

「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3** 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password

同じパスワードを入力しないと、「Invalid Password」というメッセージが表示されます。[OK] が選択された状態で  を押すと、UEFI のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。


- 4** 次のメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。

Password Installed
[Ok]


これでパスワードの設定は完了です。
「Supervisor Password」項目の値が「Installed」に変わります。

パスワード入力タイミングの設定

UEFI Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.138 「Security メニュー画面」 - 「Password Check」

ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードは、 p.128 「管理者パスワードの設定」 - **1** で「Change User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで UEFI にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。


 p.138 「Security メニュー画面」 - 「User Access Level」

パスワードの削除方法

パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで UEFI にログオンしてください。

※ HDD アクセス制限やユーザーパスワードを設定している場合、管理者パスワードを削除すると、自動的に HDD アクセス制限やユーザーパスワードも削除（解除）されます。

- 1** 「Security」メニュー画面 - 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

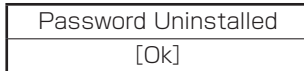
- 2** 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

WARNING	
Clear Old Password. Continue?	
[Ok]	[Cancel]

- 3** [Ok] が選択された状態で  を押します。



- 4** 次のメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。



「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードや HDD アクセス制限を設定している場合は、「User Password」項目の表示が「Not Installed」に変わり、再起動後に「Hard Disk Protection」項目は [Disabled] になります。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- UEFI や Windows 起動時、休止状態からの復帰時にパスワードを要求される
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されなくなる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法


HDD アクセス制限の設定 / 解除方法を説明します。



パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 管理者パスワードを設定します。
 p.128 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.138 「Security メニュー画面」
- 5** UEFI Setup ユーティリティを終了します。
- 6** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に解除できません。
必ずシャットダウンしてから解除を行ってください。
- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。
 p.138 「Security メニュー画面」
- 4** UEFI Setup ユーティリティを終了します。
- 5** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。


起動(Boot)デバイスの順番を変更する

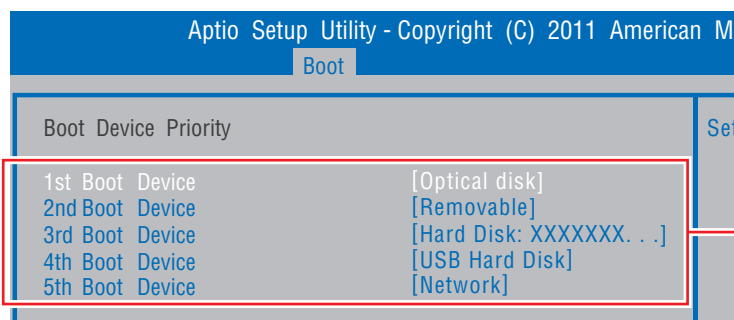
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置（USB フラッシュメモリーや USB HDD など）を接続していると、Windows が起動しないことがあります。
このような場合、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定されている起動（Boot）デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動（Boot）デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム（OS）から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面－「Boot Device Priority」で行います。

 p.137 「Boot メニュー画面」



この順番にデバイスを検出して起動します。








<イメージ>

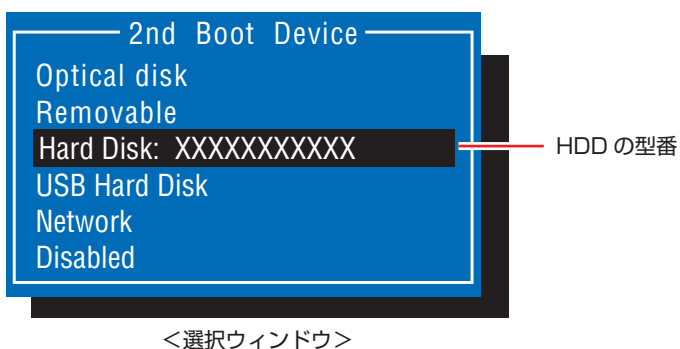
順番の初期値は次のとおりです。


- 1 番目：Optical disk（光ディスクドライブ）
- 2 番目：Removable（USB 記憶装置）
- 3 番目：Hard Disk（HDD）
- 4 番目：USB Hard Disk（USB HDD）
- 5 番目：Network（ネットワーク）

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法

起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

- 1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。
- 2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。
- 3 HDD の順番を 2 番目に設定します。
 - 1   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。
 - 2 選択ウィンドウが表示されたら、  で HDD の型番を選択し、 を押します。
HDD の順番が 2 番目になります。



- 4  を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。
 p.125 「UEFI Setup ユーティリティの終了」
これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOSモードとUEFIモード

本機は、Windows 7 が動作するよう、BIOS モードに設定されています。

- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」: [Disabled]
- 「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI Boot」: [Disabled]

Windows 8.1 などの OS は、UEFI モードで使用します。

- 「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」: [Enabled]

※ Windows 8.1 などの OS を BIOS モードで使用した場合は、使用できない機能があります。

<使用できない機能例>

- Secure Boot
- Seamless Boot

UEFI Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「UEFI Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法について説明します。
UEFI Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日時やドライブの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムの起動 (Boot) に関する設定を行います。
- Security メニュー画面
セキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日時やドライブの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

System Time	時刻を設定します。(時間：分：秒)
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年)
SATA0	本機に搭載されているドライブの設定をします。
SATA1	※表示される詳細項目は、ドライブにより異なります。
* Device	ドライブの種類
* Model Name	ドライブの型番
* Size	HDD の容量
* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) のサポート状態
* PIO Mode	ドライブの PIO 転送モード
* DMA Mode	HDD の DMA 転送モード
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態
Type	ドライブを使用するかどうかを設定します。 Auto : 使用します。 Not Installed : 使用しません。
LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Block Mode	Block 転送モードを使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。

SATA Configuration	シリアル ATA HDD のモードを設定します。
Configure SATA As	シリアル ATA HDD の動作モードを設定します。 購入時の選択によって、設定値が異なります。 ※設定した値は、UEFI の初期化や CMOS RAM の初期化をしても保持されます。 Standard IDE：設定すると、HDD がスタンダードモードで動作します。 RAID：RAID モデルの場合の設定値です。 AHCI：RAID モデル以外の場合の設定値です。
System Information	本機のシステム情報が表示されます。
AMI UEFI	UEFI の情報が表示されます。
* Version	UEFI のバージョン
* Build Date	UEFI の制定日
* VBIOS Version	ビデオファームウェアのバージョン
* ME FW Version	Management Engine ファームウェアのバージョン
Memory Information	本機に搭載されているメモリーの情報が表示されます。
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPU やマザーボード上のデバイスの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ




CPU Configuration	本機に搭載されている CPU の設定をします。
* Vender	CPU のメーカー
* CPU の型番	
* Frequency	CPU の周波数
* Cache L1	CPU の L1 キャッシュ容量
* Cache L2	CPU の L2 キャッシュ容量
* Cache L3	CPU の L3 キャッシュ容量
* Ratio Status	CPU クロック値
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率
Hyper Threading Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ハイパースレッディング機能の有効 / 無効を設定します。 Enabled：有効にします。 Disabled：無効にします。
Virtualization Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	Intel Virtualization Technology 機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。
Turbo Boost Technology ※機能を持つ CPU 搭載時のみ表示されます。	ターボブースト機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled：無効にします。 Enabled：有効にします。

Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスの設定をします。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Enabled: 使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Enabled: 使用します。
2nd LAN card ※有線 LAN 増設ポート搭載時のみ表示されます。	有線 LAN 増設ポートのネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Enabled: 使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled: 無効にします。 Enabled: 有効にします。 [Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面 - 「Boot Device Priority」に「4th Boot」として表示されます。
Serial Port	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled: シリアルポートを使用しません。 Auto, IO=3F8h; IRQ=4, IO=2F8h; IRQ=3, IO=3E8h; IRQ=4, IO=2E8h; IRQ=3
USB Configuration	USB コントローラーの設定をします。
USB Function	マザーボード上の USB 機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled: 使用しません。 Enabled: 使用します。
Legacy USB Support	初期値 [Enabled] のままで使用します。
Connect ODD BOX	光ディスクドライブ接続用 USB コネクタの設定です。 購入時の選択によって、設定値が異なります。 ※設定した値は、UEFI の初期化や CMOS RAM の初期化をしても保持されます。 Disabled: 光ディスクドライブ非搭載時の設定値です。 Enabled: 光ディスクドライブ搭載時の設定値です。


Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

ACPI 2.0 Support	初期値 [No] のままで使用します。
APM Configuration	本機の起動に関する設定をします。
Restore On AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power OFF：電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power ON：電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State：コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
Power On by RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
RTC Alarm Date/Hour/Minute/Second ※ 「Power On by RTC Alarm」を [Enabled] に設定すると表示されます。	起動する日時を設定します。
Power On By PCIE Devices	電源切断時、マザーボード上のネットワーク (PCI Express 接続) から起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled：設定しません。 Enabled：設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Ctrl + ESC：  +  を使用します。 Power Key：106 PS/2 コンパクトキーボード (ホットキー付) の場合、Power キー () を使用します。 Disabled：設定しません。
Fan Control	ファンの制御をします。
Fan Temperature	CPU の温度
CPU Fan Speed	CPU ファンの回転数
Fan Control	CPU ファンの回転を制御するかどうかを設定します。 Disabled：CPU ファンがフル回転します。 Enabled：CPU ファンの回転を制御します。


Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。
 Boot 順番の変更方法については、 p.131「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

は初期値
 *は項目表示のみ


Boot Device Priority	ドライブの起動順番を設定します。
1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Optical disk
2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Removable
3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Hard Disk
4th Boot Device	4 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：USB Hard Disk
5th Boot Device	5 番目に起動するドライブを設定します。 初期値：Network
Hard Disk Drive	HDD の起動順番が表示されます。
1st Boot Device	HDD の起動順番
...	
NETWORK Drive	ネットワークの起動順番が表示されます。
※ リモートブート機能を有効にすると表示されます。	
1st Boot Device	ネットワークの起動順番
...	
Boot Settings Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
Bootup Num-Lock	DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。 Off：NumLock が押されていない状態にします。 On：NumLock が押された状態にします。
UEFI boot	Windows 7 の場合は [Disabled] で使用します。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、セキュリティーに関する設定を行います。
 パスワードの設定方法は、 p.127 「パスワードを設定する」をご覧ください。
 設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

*は項目表示のみ

Security Settings	セキュリティーに関する設定をします。
Supervisor Password/ User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかが表示されます。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。
User Access Level ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「UEFI Setup ユーティリティー」にアクセスするときのアクセス制限レベルを設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティー」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「UEFI Setup ユーティリティー」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「UEFI Setup ユーティリティー」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「UEFI Setup ユーティリティー」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。
Password Check ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「UEFI Setup ユーティリティー」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「UEFI Setup ユーティリティー」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
TPM Function	セキュリティーチップ (TPM) の設定をします。
TPM LPC Decode	セキュリティーチップ (TPM) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Trusted Platform Module	セキュリティーチップ (TPM) のセキュリティー機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Clear Trusted Platform Module ※「Trusted Platform Module」を [Enabled] に設定すると表示されま す。	セキュリティーチップに保存されている情報を初期化します。 ※初期化を行うと、それまでに暗号化されたデータを使用できなくなります。セキュリティーチップの初期化を行う場合は、お客様の責任において十分に注意して行ってください。 初期化する場合は、  を押し、確認画面が表示されたら [OK] を選択します。変更を保存して再起動すると、「Trusted Platform Module」は [Disabled] に設定されます。

Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定すると設定可能になります。	HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、UEFI、システムへのアクセスが制限され、UEFI 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDD へのアクセスを制限しません。 Enabled : HDD へのアクセスを制限します。 ※ HDD アクセス制限を設定 / 解除する場合は、必ず本機を一度シャットダウンしてから行ってください。また、設定 / 解除後にも本機をシャットダウンしてください。
Secure Boot	セキュアブートの設定をします。
*System Mode State	システムモードの状態が表示されます。
Secure Boot	Windows 7 の場合は [Disabled] で使用します。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、UEFI Setup ユーティリティを終了したり、UEFI の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容 (設定値) を保存してから、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容 (設定値) を保存せずに、UEFI Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	UEFI Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	UEFI Setup ユーティリティの設定値を、UEFI の初期値に戻します。 ※次の項目の設定値を UEFI の初期値に戻すことはできません。 <ul style="list-style-type: none"> • 「Main」メニュー画面 - 「SATA Configuration」 - 「Configure SATA As」 • 「Security」メニュー画面
Save User Define	UEFI の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Define ※ 「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。	設定値をユーザー設定値に戻します。

UEFIの設定値

UEFI Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくことと便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。  p.127 「ユーザー設定値を保存する」

Main メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
SATAO SATA1	Type	Auto	Not Installed	Auto	Not Installed
	LBA/Large LBA	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	Block Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
SATA Configuration	Configure SATA As	Standard IDE	RAID AHCI	Standard IDE	RAID AHCI

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Hyper Threading Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Turbo Boost Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	2nd LAN card	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port	Disabled	IO=3F8h;IRQ=4 IO=2F8h;IRQ=3 IO=3E8h;IRQ=4 IO=2E8h;IRQ=3 Auto	Disabled	IO=3F8h;IRQ=4 IO=2F8h;IRQ=3 IO=3E8h;IRQ=4 IO=2E8h;IRQ=3 Auto
USB Configuration	USB Function	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Connect ODD BOX	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Restore On AC Power Loss	Power OFF	Power ON Last State	Power OFF	Power ON Last State
	Power On by RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIe Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Ctrl + ESC Power Key	Disabled	Ctrl + ESC Power Key
Fan Control	Fan Control	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	5th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On

Security メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Security Settings	Supervisor password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	User password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
	Password Check	Setup	Always	Setup	Always
	TPM LPC Decode	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Trusted Platform Module	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled



4

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

再インストールの前に	144
Windows のインストール	147
ドライバー / ソフトウェアのインストール	153
再インストール後の作業	156

再インストールの前に

ここでは、ソフトウェアの再インストールを行う前に必要な情報を記載しています。

再インストールとは

本書では、HDD をフォーマットして、Windows や本体ドライバーなどをインストールしなおす作業のことを、「再インストール」と記載します。

再インストールは「リカバリー」とも言います。

再インストールが必要な場合

再インストールは、なんらかの原因で Windows が起動しなくなり、修復しても問題が解決できない場合に行います。通常は必要ありません。



参考

HDD 領域の変更

HDD 領域の変更は、再インストールをしなくても、Windows の「ディスクの管理」で行うことができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。

 p.182 「HDD 領域の変更」

Windows を修復する

なんらかの原因で Windows が起動しなくなった場合は、再インストールを行う前に「Windows 回復環境」で Windows の修復を行ってみてください。再インストールをしなくても、問題が解決する場合があります。

 p.174 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」

システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windows やソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※ 再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行ってください。システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 「お役立ち」 – 「カテゴリから選ぶ」 – 「Windows の操作」 – 「バックアップ」 – 「システムイメージの作成」のデータを復元する方法」

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

当社製以外の UEFI へのアップデート禁止

当社製以外の UEFI へのアップデートは絶対にしないでください。当社製以外の UEFI にアップデートすると、再インストールができなくなります。

最新の情報

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認して、紙類が添付されている場合は、その手順に従って作業を進めてください。

必要なメディア

再インストールには、次のメディアが必要です。


- Windows 7 リカバリー DVD
Windows が収録されています。
- ドライバー DVD
本体ドライバーやソフトウェアが収録されています。
- WinDVD CD-ROM（光ディスクドライブ搭載時）
DVD VIDEO 再生ソフト「WinDVD」が収録されています。
- Nero 12 Essentials CD-ROM（書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時）
ライティングソフト「Nero 12 Essentials」が収録されています。

光ディスクドライブを装着していないモデルをお使いの場合

光ディスクドライブを装着していないモデルでソフトウェアを再インストールするには、外付けの光ディスクドライブが必要です。

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

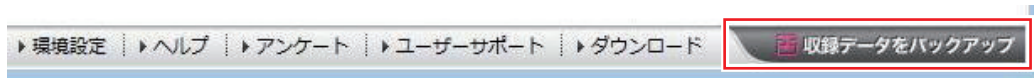
- **管理者 (Administrator) のアカウントでログオン**
インストール作業は、管理者 (Administrator) のアカウントでログオンして行ってください。
- **システム構成**
本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、UEFI の設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。
- **ドライブ名**
本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
実際の光ディスクドライブのドライブ名は、HDD 領域の数などによって異なります。
C ドライブ : HDD
D ドライブ : 光ディスクドライブ
- **各種設定やデータのバックアップ**
再インストールを行うと、設定した事項が元に戻ってしまったり、データが消去されたりします。再インストールを行う前に必要に応じて設定を書き写したり、データのバックアップを行っておいてください。
 p.148 「バックアップを取る」
- **初期設定ツール**
初期設定ツールは、Windows を再インストールすると消去されます。初期設定ツールでインストールしたソフトウェアは、以降で説明する手順に従ってインストールを行ってください。

マニュアルデータをバックアップする

サポートツール「PC お役立ちナビ」に収録されているマニュアルは、再インストールをすると消えてしまいます。再インストールの前に、必ずバックアップをとってください。

バックアップ方法

空の光ディスクメディアや USB 記憶装置を本機にセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の「収録データをバックアップ」をクリックします。以降は画面の指示に従ってバックアップを行ってください。



バックアップの詳細手順は、次の場所をご覧ください。



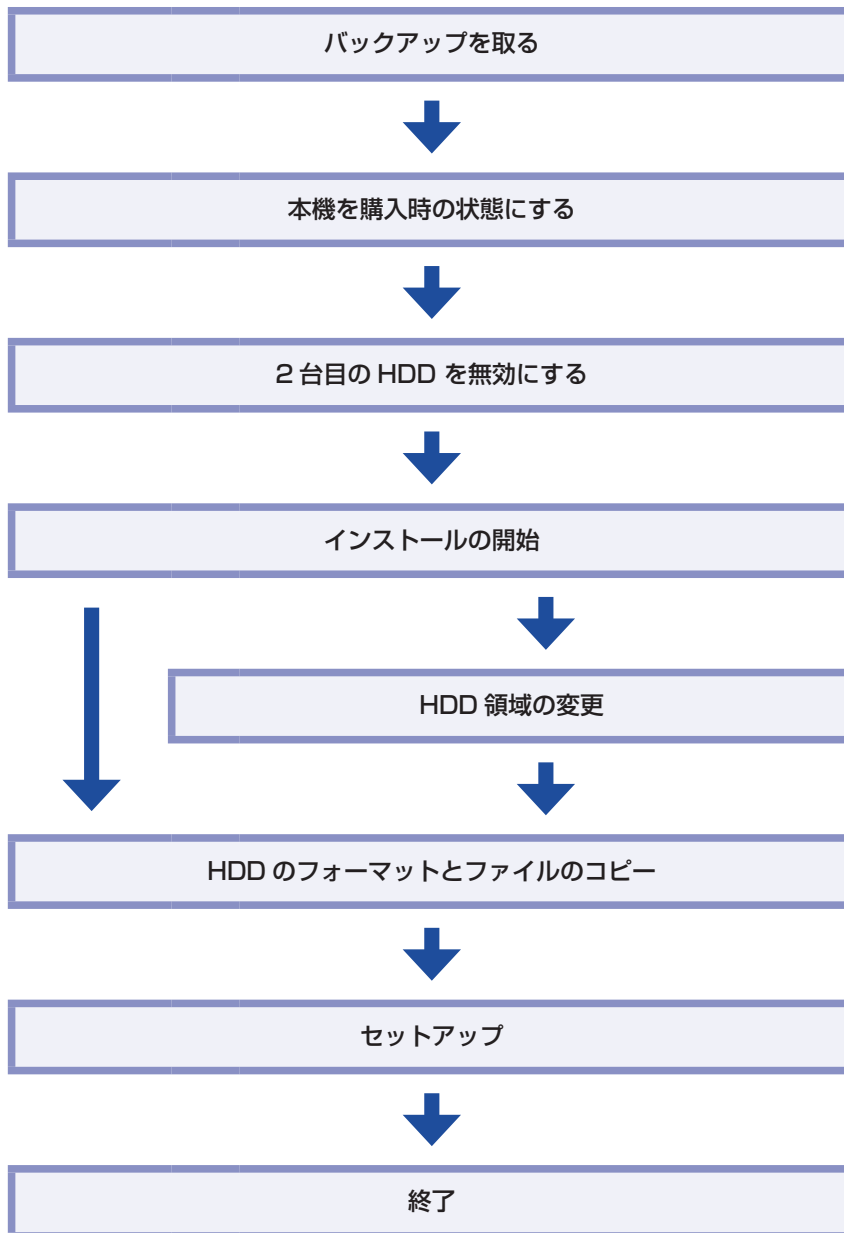
「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 28299

Windows のインストール

Windows のインストールについて説明します。

インストールの流れ

Windows のインストールの流れは次のとおりです。



バックアップを取る

Cドライブの設定やデータは、Windowsの再インストールを行うと消えてしまいます。再インストールの前に、次の設定やデータのバックアップを行ってください。*

- ネットワークの設定

接続に関する設定を書き写しておいてください。

- Internet Explorerの「お気に入り」・Windows Liveメールの「アドレス帳」やメールアドレス



「PC お役立ちナビ」－「お役立ち」－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」－「Windows 転送ツールを使う」

このほかの Web 閲覧ソフトやメールソフトをお使いの場合は、ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

- セキュリティーチップユーティリティの設定

セキュリティーチップユーティリティを使用している場合は、設定のバックアップを行ってください。



「PC お役立ちナビ」－「マニュアルびゅう」－「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」－「Windows を再インストールする前に」

- そのほか重要なデータ

* 再インストール中に HDD 領域の変更を行うと、C ドライブ以外のドライブ (D や E など) のデータも消えてしまいますので、バックアップを行ってください。

HDD 領域の変更を行わない場合でも、念のためバックアップを取ることをおすすめします。

本機を購入時の状態にする

周辺機器が接続されていたり、UEFI の設定値が変更されていたりすると、正常にインストールが行われない可能性があります。本機を購入時の状態に戻してから再インストールを行ってください。

2台目のHDDを無効にする

HDD を 2 台装着している場合は、再インストール中に HDD の順番が異なって表示されることによるデータの誤消去を防ぐため、2 台目の HDD を一旦無効にします。

※ RAID 構成時、この作業は不要です。そのまま再インストールを行ってください。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **Delete** を「トン、トン、トン…」と連続的に押して「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
- 2** 「Main」メニュー画面－「SATA1」(2 台目の HDD) を選択します。
- 3** 「SATA1」の「Device」が「Hard Disk」になっていることを確認し、「Type」を「Not Installed」に設定します。

- 4** **F10** を押して「UEFI Setup ユーティリティ」を終了します。

本機が再起動します。

Windows、ドライバー、ソフトウェアの再インストールが完了したら、HDD を有効に戻してください。

Windows 7のインストール

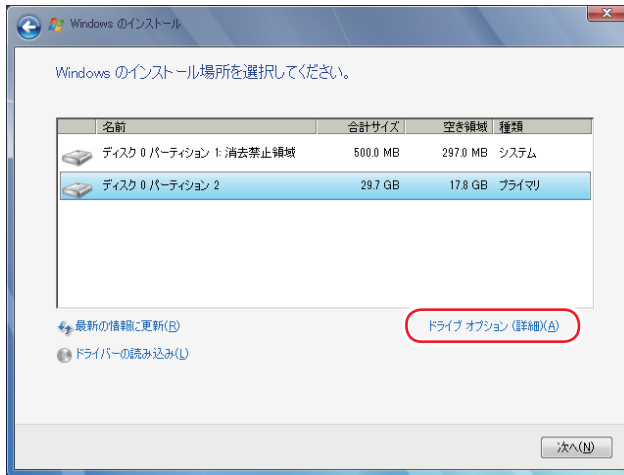
Windows 7のインストール方法は、次のとおりです。

Windows 7 Professional の場合、Windows XP Mode も同時にインストールされます。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **Delete** を「トン、トン、トン…」と連続的に押し、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
Windows が起動してしまった場合は、もう一度実行してください。
- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動したら、光ディスクドライブに「Windows 7 リカバリー DVD」をセットして、**F10** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。
一定時間内にキーを押さないと、HDD 内の Windows が起動してしまいます。Windows が起動してしまった場合は、**2** へ戻ります。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 5** オペレーティングシステムの一覧画面が表示されたら、「Windows の起動に伴う…」を選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「Windows の再インストール」をクリックします。
- 7** 「インストールを開始しますか？」と表示されたら、**[はい]** をクリックします。
- 8** 「インストールするオペレーティングシステムを選択してください」と表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 9** 「ライセンス条項をお読みください。」と表示されたら、内容を確認し、「同意します」にチェックを付けて、**[次へ]** をクリックします。



- 10** 「Windows のインストール場所を選択してください。」と表示されたら、「ドライブ オプション (詳細)」をクリックします。



<イメージ>

場合によって、次のとおり作業を続けます。

領域変更を行わない場合 (通常)

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「フォーマット」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
フォーマットが開始されます。
- 3 フォーマットが終了すると、[次へ] がクリックできる状態になります。
「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で [次へ] をクリックします。

Windows のインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは 20 分～40 分かかります。

11 の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

領域変更を行う場合

- 1 「ディスク 0 パーティション 2」(C ドライブ) が選択された状態で「削除」をクリックします。
- 2 「パーティションには…」と表示されたら、[OK] をクリックします。
削除したパーティション (C ドライブ) が「未割り当て領域」となります。
- 3 次のとおり作業を続けます。

Cドライブを分割したい場合

(1)「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

4に進みます。

Cドライブの容量を増やしたい場合

すでにHDDが分割されている場合は、Cドライブ以外のドライブを削除して未割り当ての領域を増やします。ただし、削除したドライブのデータは消えてしまいます。

(1) 消去禁止領域以外の、そのほかのパーティションをCドライブと同様に削除し、「ディスク 0 未割り当て領域」を増やします。

(2)「ディスク 0 未割り当て領域」を選択し、「新規」をクリックします。

4に進みます。

4 Cドライブのサイズを決めます。サイズを入力し、「適用」をクリックします。

※ Cドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

5 「ディスク 0 パーティション 2」(Cドライブ)が選択された状態で、「次へ」をクリックします。

Windowsのインストールが開始されます。システム構成にもよりますが、インストールは20分～40分かかります。

11の画面が表示されるまでキーボードやタッチパッドは操作しないでください。

11 「新しいアカウントのユーザー名と…」と表示されたら、ユーザー名、コンピューター名を入力し、「次へ」をクリックします。

※ユーザー名、コンピューター名は半角英数字を入力してください。

12 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されたら、パスワード(任意)を入力し、「次へ」をクリックします。

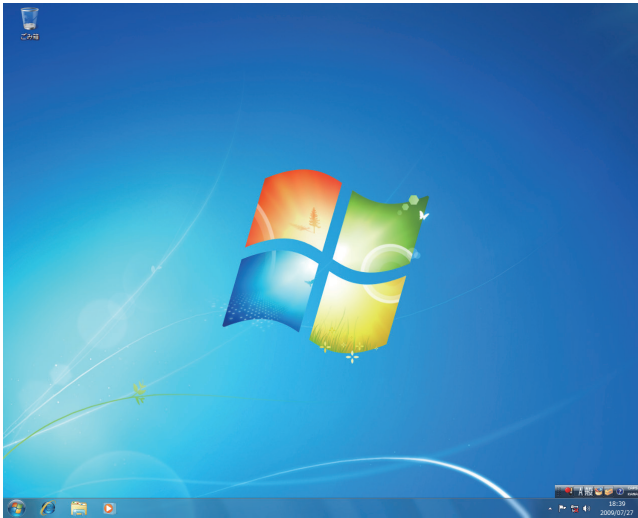
13 「コンピューターの保護と…」と表示されたら、更新の設定をクリックして選択します。「推奨設定を使用します」を選択することをおすすめします。


14 「日付と時刻の設定を確認します」と表示されたら、「タイムゾーン」が「大阪、札幌、東京」になっていることを確認し、「日付」、「時刻」を設定し、「次へ」をクリックします。

15 ネットワークに接続している場合、「お使いのコンピューターの現在の場所を選択してください」と表示されます。場所をクリックして選択します。



- 16** Windows のデスクトップ（下記の画面）が表示されたら、「Windows 7 リカバリー DVD」を光ディスクドライブから取り出します。



これで Windows 7 のインストールは完了です。
続いて、本体ドライバーやソフトウェアをインストールします。
 p.153 「ドライバー/ソフトウェアのインストール」




領域変更を行ったら

Windows のインストール中に領域変更を行った場合は、すべてのインストール作業が終わった後で、「未割り当て領域」をドライブにします。

 p.157 「ドライブを作成する」

ドライバー / ソフトウェアのインストール

Windows をインストールしたら、ドライバーやソフトウェアをインストールします。
購入時のインストール状態は、 p.21 「添付されているソフトウェア」で確認してください。

ドライバーDVDからインストールする

次のドライバーやソフトウェアは、ドライバー DVD を使用してインストールします。

- 本体ドライバー
- PC お役立ちナビ
- Adobe Reader
- Endeavor 電源プラン設定ツール
- Internet Explorer 11
- Windows Essentials
- Skype
- マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版
- i-フィルター 30 日版
- インテル WiDi ソフトウェア（無線機能搭載時）
- セキュリティーチップユーティリティ *

* セキュリティーチップユーティリティは、セキュリティーチップ（TPM）のセキュリティー機能を使用していた場合にのみ、インストールします。詳しくは、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能（TPM）設定ガイド」 - 「Windows の再インストール後の作業」

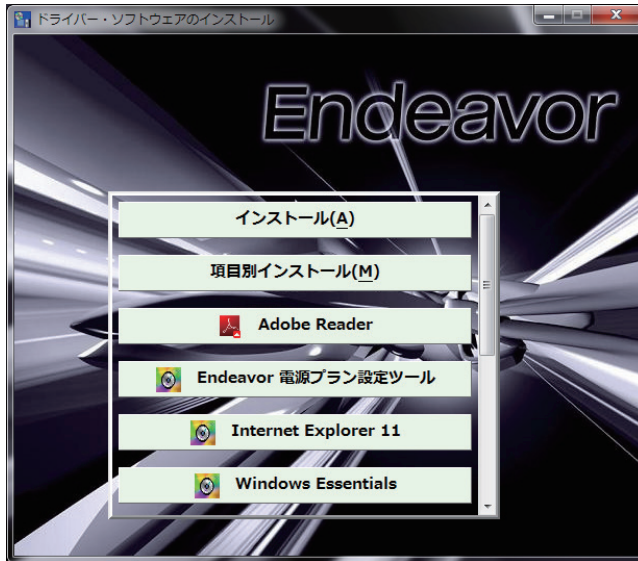
ドライバー DVD の使い方は、次のとおりです。

- 1** 「ドライバー DVD」を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「EDCInst.exe の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「EPSON DVD」をダブルクリックします。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。



4 「ドライバー・ソフトウェアのインストール」画面が表示されたら、インストールするソフトウェア名をクリックします。

※ 最初は必ず[インストール]をクリックして「本体ドライバー」をインストールしてください。



<イメージ>

5 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

本体ドライバーの場合

インストールが完了したら、[PC 再起動] をクリックして、コンピューターを再起動してください。

再起動後に「これらの変更を適用するには…」と表示された場合は、[今すぐ再起動する] をクリックします。

Windows Essentials の場合

「インストールするプログラムの選択」と表示されたら、「インストールする製品の選択」をクリックしてください。

製品の一覧が表示されたら、そのまま [インストール] をクリックすると、購入時と同じ製品がインストールされます。



参考

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版のインストール

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版は、マカフィー社の登録ユーザー向けサービス「マイアカウント」から最新版をインストールすることをおすすめします。

<https://jp.mcafee.com/root/login.asp>

※サービスを利用するには、事前にユーザー登録が必要です。

ユーザー登録をされていない場合は、ドライバー DVD からインストールしてください。

その他のメディアからインストールする

お使いのシステム構成によって、必要なドライバーやユーティリティー、ソフトウェアをインストールします。インストールは、機器やソフトウェアのメディアを使用して行ってください。

- DVD VIDEO 再生ソフト (WinDVD または PowerDVD)
- ライティングソフト (Nero 12 Essentials)
- キーボードユーティリティー
- マウスユーティリティー
- プリンターのドライバー
- デジタルカメラのソフトウェア

など



ATOK のインストール

ATOK 無償試用版 (30 日間) は、下記のページからダウンロードしてください。

<http://www.atok.com/try/>

再インストール後の作業

再インストールが完了したら、必要に応じて次の作業を行ってください。

2台目のHDDを有効にする

再インストールの前に、2台目のHDDを無効にした場合は、有効に戻してください。

 p.148 「2台目のHDDを無効にする」



参考

ドライブレターの変更

再インストールでHDDのドライブレターが変わってしまった場合は、設定しなおすことができます。ドライブレターの変更方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 【お役立ち】 - 「便利な使い方」 - 「Windows システムの操作」 - 「ドライブレターを変更する」

マニュアルデータを復元する

再インストールの前にバックアップした、マニュアルデータを復元します。

復元方法

バックアップしたデータの入った光ディスクメディアやUSB記憶装置を本機にセットしてから、PC お役立ちナビ画面右下の [バックアップ情報を復元] をクリックし、画面の指示に従って復元を行ってください。



復元の詳細手順は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 28299

マニュアルデータのバックアップをし忘れたときは

マニュアルデータのバックアップを取らずに再インストールをしてしまった場合は、Web のユーザーサポートページから、マニュアルをダウンロードします。



制限

ダウンロードしたマニュアル類（ユーザーズマニュアル以外）は、PC お役立ちナビには復元できません。マニュアルごとにファイル（PDF）を開いてご覧ください。

- 1 **ダウンロード** PC お役立ちナビでマニュアルを表示する際、画面に「マニュアルデータが存在しません」と表示されたら、メッセージ内のリンクからユーザーサポートページにアクセスし、マニュアルをダウンロードします。
- 2 **復元** ダウンロードしたユーザーズマニュアルのファイル内に記載されている復元方法に従って、データを復元します。
- 3 **検索情報の再構築** ユーザーズマニュアルを復元したら、検索情報の再構築を行います。画面下 [環境設定] 内の [検索情報の再構築] をクリックしてください。

「ダウンロード」～「復元」～「検索情報の再構築」の詳細手順は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－画面下 [ユーザーサポート]－FAQ 番号：28390

バックアップしたデータの復元

再インストールを行う前にバックアップしたデータを復元します。

- Internet Explorer、Windows Live メールの設定



「PC お役立ちナビ」－ [お役立ち]－ [カテゴリから選ぶ]－ [Windows の操作]－ [バックアップ]－ [Windows 転送ツールを使う]

- そのほか重要なデータ

バックアップ先のメディアなどから元に戻します。

ドライブを作成する

Windows のインストール中に HDD 領域を変更した場合、「未割り当て領域」はそのままでは使用できません。Windows の「ディスクの管理」でドライブを作成すると、使用できるようになります。ドライブの作成方法は、次の場所をご覧ください。

 p.185 「HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）」－ 「ドライブを作成する場合」

ネットワークの設定

再インストールを行う前に書き写しておいた設定を元に、ネットワークの設定を行います。

Windows やソフトウェアをアップデートする

再インストールをすると、今までに行った Windows やソフトウェアの更新が元の状態に戻ってしまいます。最新の状態になるよう、アップデートを行ってください。

※ アップデートをするにはインターネットへの接続が必要です。

- Windows

自動更新の設定がされていると、更新プログラムが自動的にダウンロード、インストールされ、最新の状態になります。



p.92 「インターネットを使用する際のセキュリティ対策」

- ソフトウェア

アップデート方法は、ソフトウェアのヘルプやマニュアルをご覧ください。

最新のドライバーを入手する

当社ユーザーサポートページでは、本機の最新ドライバーを提供しています。必要に応じ、ダウンロードしてご利用ください。



「PC お役立ちナビ」－ 画面右下 [ダウンロード]



5

困ったときは

困ったときの確認事項や対処方法などについて説明します。

トラブルが発生したら	160
起動・画面表示できないときは	162
トラブル時に効果的な対処方法	167

トラブルが発生したら

困ったとき、トラブルが発生したときは、次のように対処方法を探してください。

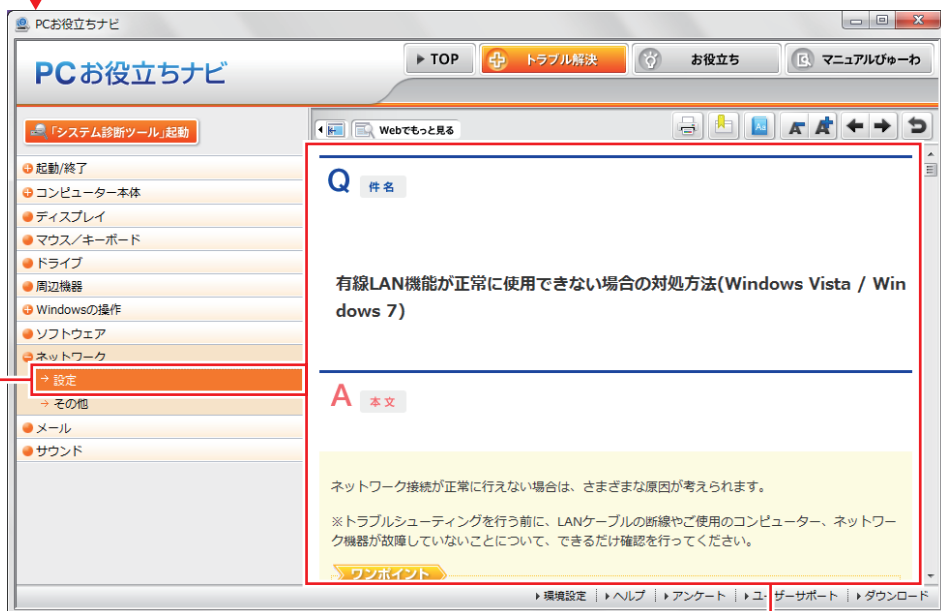
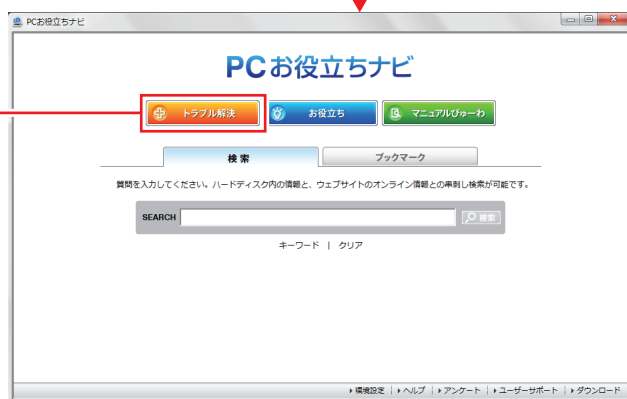
起動・画面表示できる場合…PCお役立ちナビで調べる

コンピューターを起動、画面表示できる場合は、「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」で対処方法を探してください。



<PC お役立ちナビアイコン>

ダブルクリック



トラブルの種類を選択します

候補の中から見たい項目を選択すると、内容が表示されます

システム診断ツール

「PC お役立ちナビ」の「トラブル解決」には、システム診断ツールが搭載されています。

 p.176 「システム診断ツールを使う」



Windows のトラブルシューティングツール


Windows 7にはトラブルシューティングツールを集めたコーナーが用意されています。

「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「コンピューターの一般的な問題のトラブルシューティング」



トラブルシューティングツールの一覧が表示されたら、トラブルに応じたツールをクリックして、トラブルシューティングを行ってみてください。


起動・画面表示できない場合

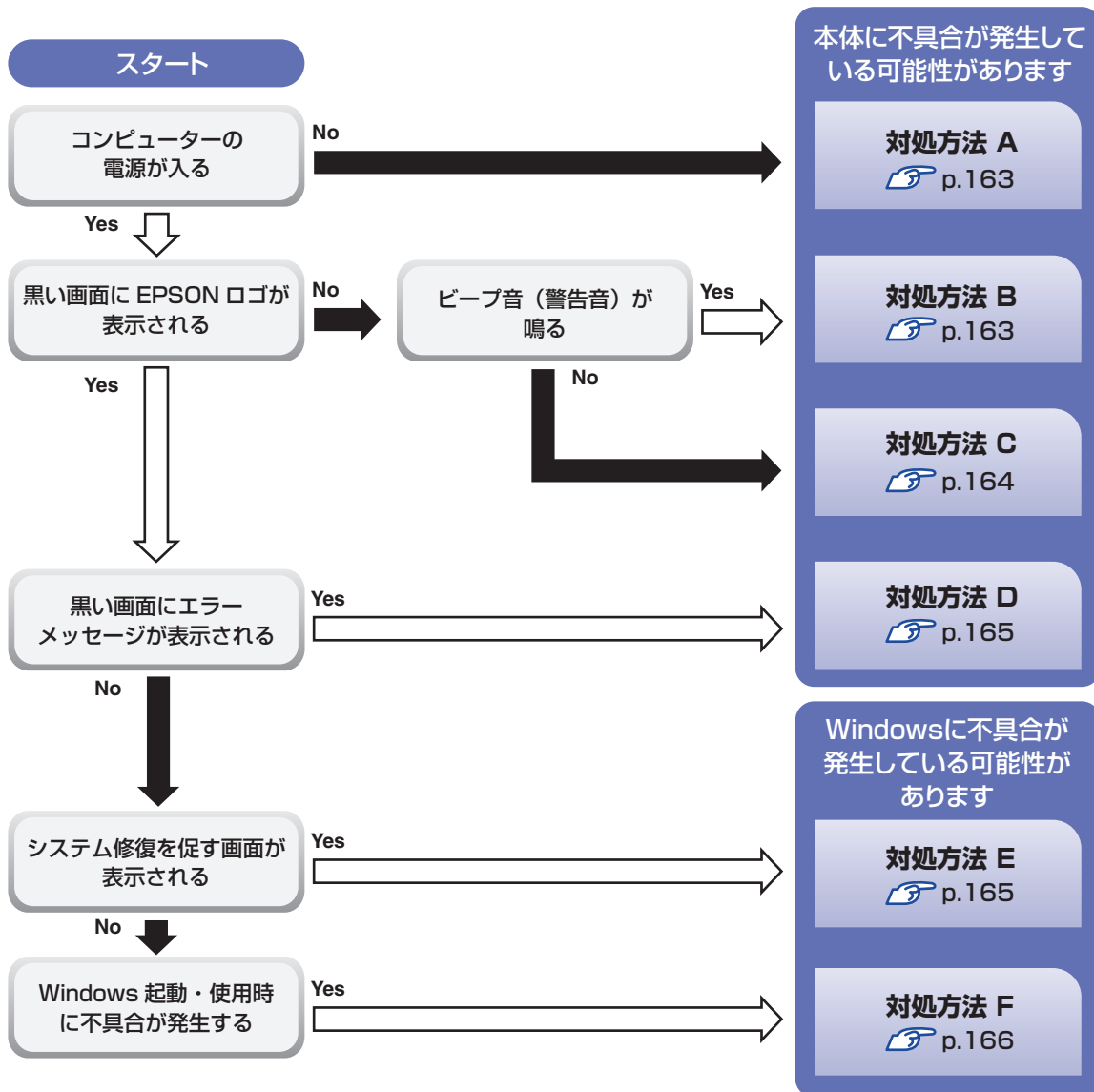
コンピューターを起動、画面表示できない場合は、 p.162 「起動・画面表示できないときは」をご覧ください。

起動・画面表示できないときは

コンピューターを起動、画面表示できない場合は、診断を行い、各診断結果に応じた対処を行ってください。

診断をする

次の診断を行ってください。対処方法が決まったら、 p.163「対処をする」へ進んでください。



対処をする

コンピューターを起動、画面表示できないときの対処方法は、次のとおりです。
対処を行っても不具合が解消しない場合は、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
サポート窓口までお問い合わせください。

対処方法 A

次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源を入れなおす**
電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。
- 2 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 3 壁のコンセントに直接接続する**
電源タップなどにコンピューターの電源コードを接続している場合は、電源タップなどを使用せず、壁にあるコンセントに直接コンピューターの電源コードを接続して、電源を入れてみてください。
- 4 消費電力の大きい機器を停止する**
大画面テレビやエアコンなど、消費電力の大きい機器を使用している場合、それらの機器の電源を切ってから、コンピューターの電源を入れてみてください。
- 5 周辺機器や増設した装置を取り外す**
本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。
- 6 CMOS RAM の初期化を行う**
CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。
 p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 B


次の対処を順番に行ってみてください。

- 1 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす**
電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。



2 メモリーを差しなおす

メモリーに不具合が発生している可能性があります。メモリーを抜き差しし、問題が解決されるかどうか確認してください。本機内部にホコリがたまっている場合は、除去してください。

 p.109 「メモリーの取り付け・取り外し」

3 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 C

次の対処を順番に行ってみてください。

1 ディスプレイの電源ランプを確認する

ディスプレイの取扱説明書をご覧になり、ディスプレイの電源ランプが通常動作時の状態になっているかどうか確認してください。

2 ディスプレイケーブルを接続しなおす

コンピューター本体とディスプレイの接続に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、ディスプレイケーブルを接続しなおし、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決するかどうか確認してください。

3 ディスプレイの表示を切り替える

ディスプレイ側に表示の切り替え機能がある場合は、表示を切り替えてみてください。

4 別のディスプレイを接続する

ディスプレイとコンピューター、どちらの問題かを切り分けるため、別のディスプレイをお持ちの場合は、コンピューターを接続し、画面が表示されるか確認してください。

5 コンピューター本体の電源コードを接続しなおす

電源に問題がある可能性があります。コンピューター本体とディスプレイの電源を切ってから、コンピューター本体の電源コードを外して 1 分程放置し、ディスプレイ、コンピューター本体の順に電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

6 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。






7 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

対処方法 D

まず、次の表をご覧くださいになり、エラーメッセージに応じた対処をしてください。

メッセージ	内容および対処法
Reboot and Select proper Boot device or Insert Boot Media in selected Boot device and press a key	HDD が検出できません。本機の電源を切り、Windows がインストールされている HDD にケーブルが接続されているか確認してください。 RAID 構成時は  p.40 「RAID を修復 / 再構成する」をご覧ください。 UEFI Setup ユーティリティで次の項目が [Disabled] に設定されていることを確認してください。 ・「Security」メニュー画面 - 「Secure Boot」 ・「Boot」メニュー画面 - 「Boot Settings Configuration」 - 「UEFI Boot」
CPU Fan Error!	CPU ファンが正常に動作していません。本機の電源を切り、20 秒以上待ってから電源を入れてください。また、CPU ファンのケーブルが CPU ファンコネクタに接続されているか確認してください。
CMOS Checksum Bad CMOS Date/Time Not Set Press F1 to Run SETUP Press F2 to load default values and continue	 を押すと、UEFI Setup ユーティリティが起動します。通常は、  を押して UEFI を初期化し、時間と日付を修正後、  を押して UEFI Setup ユーティリティを終了すると、Windows が起動します。起動の度にメッセージが表示される場合は、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してみてください。  p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

あてはまるメッセージがない場合は、次のとおり対処してみてください。

1 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

2 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」


対処方法 E

次の対処を行ってみてください。

1 表示された画面の指示に従ってシステムを修復する

2 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.143 「ソフトウェアの再インストール」

対処方法 F

次の対処を順番に行ってみてください。

1 コンピューター本体の電源を入れなおす


電源を入れなおす場合は、20 秒程度の間隔を空けてから電源を入れてください。20 秒以内に電源を入れなおすと、電源が異常と判断され、システムが正常に起動しなくなる場合があります。

2 周辺機器や増設した装置を取り外す

本機をご購入後に、プリンターやスキャナーなどの周辺機器、メモリーなど、お客様ご自身で増設された装置がある場合は、装置を取り外した状態で電源を入れ、問題が解決されるかどうか確認してください。

3 セーフモードで起動し、常駐ソフトを停止したり、システムの復元を行う

必要最低限の状態であるセーフモードで起動してみてください。

 p.169 「セーフモードでの起動」

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。


 p.169 「常駐ソフトの停止」

常駐ソフトが原因ではなかった場合は、「システムの復元」を行ってみてください。以前のコンピューターの状態に戻すことで、問題が解決できる可能性があります。

 p.170 「システムの復元」

4 前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

 p.170 「前回正常起動時の構成で起動する」

5 UEFI の設定を初期値に戻す

UEFI の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。UEFI の設定を初期値に戻し、問題が解決されるか確認してください。初期値に戻す前に UEFI の設定をメモしておいてください。

 p.126 「Load Setup Defaults (UEFI の初期値に戻す)」

6 CMOS RAM の初期化を行う

CMOS RAM の不整合が原因で問題が発生している可能性があります。CMOS RAM の初期化を行って問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.171 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」


7 Windows RE を使う

「Windows 回復環境 (Windows RE)」の回復ツールを使用して、Windows を修復してみてください。

 p.174 「Windows 回復環境 (Windows RE) を使う」














8 Windows を再インストールする

HDD 内に記録されている、起動部分のプログラムが破損している可能性があります。Windows の再インストールを行って、問題が解決されるかどうか確認してください。

 p.143 「ソフトウェアの再インストール」

トラブル時に効果的な対処方法

トラブル時に効果的な対処方法を紹介します。

機能	こんなときに
再起動  p.168 本機を再起動します。	<ul style="list-style-type: none">・使用しているソフトウェアで指示があった場合・ソフトウェアや Windows の動作が不安定になったとき
ソフトウェアの強制終了  p.168 ソフトウェアを強制終了します。	<ul style="list-style-type: none">・ソフトウェアや Windows が、キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなったとき
セーフモードで起動  p.169 必要最低限の状態での Windows を起動します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
常駐ソフトの停止  p.169 不具合のある常駐ソフトを停止します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
システムの復元  p.170 Windows を以前に作成した復元ポイントの状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードで起動できたとき）
前回正常起動時の構成で起動  p.170 Windows を前回正常起動できた状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（セーフモードでも起動できないとき）
UEFI の初期化  p.126 UEFI の設定を初期値に戻します。	<ul style="list-style-type: none">・UEFI の設定を誤って本機が起動しなくなったとき、動作が不安定になったとき
CMOS RAM の初期化  p.171 CMOS RAM の保存データを初期化します。	<ul style="list-style-type: none">・UEFI の設定を誤って本機が起動しなくなったとき・UEFI のパスワードを忘れてしまったとき
リチウム電池の交換  p.171 リチウム電池を交換します。	<ul style="list-style-type: none">・日時や時間がおかしくなる・UEFI で設定した値が変わってしまう
Windows 回復環境 (Windows RE)  p.174 Windows を修復します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき
ソフトウェアの再インストール  p.143 本機を購入時の状態に戻します。	<ul style="list-style-type: none">・Windows が正常に起動できないとき、動作が不安定になったとき（上記項目の対処をしても起動できないとき）
システム診断ツール  p.176 ハードウェアに不具合があるかどうかを診断します。	<ul style="list-style-type: none">・不具合の原因がハードウェアにあるかどうかを調べたいとき
RAID の修復 / 再構成  p.40 RAID を修復 / 再構成します。	<ul style="list-style-type: none">・インテル (R) ラピッド・ストレージ・テクノロジーの警告メッセージが表示されたとき・Windows が起動せず、エラーメッセージが表示されたとき

再起動

電源が入っている状態で、本機を起動しなおすことを「再起動」と言います。
次のような場合には、本機を再起動する必要があります。

- 使用しているソフトウェアで指示があった場合
- Windows の動作が不安定になった場合

本機の再起動方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックします。

再起動しても状態が改善されない場合は、本機の電源を切り、しばらくしてから電源を入れてください。

ソフトウェアの強制終了

ソフトウェアや Windows がキーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態を「ハングアップ」と言います。

ハングアップした場合は、ソフトウェアの強制終了を行います。

ソフトウェアの強制終了方法は、次のとおりです。

- 1** **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押します。
- 2** 表示された項目から「タスクマネージャーの起動」をクリックします。
「Windows タスクマネージャー」が起動します。
- 3** 「アプリケーション」タブからハングアップしているソフトウェアを選択して「タスクの終了」をクリックします。
ソフトウェアが終了します。

強制的に電源を切る

Ctrl + **Alt** + **Delete** を押しても反応がない場合は、強制的に本機の電源を切ります。

強制的に本機の電源を切る方法は、次のとおりです。

- 1** 電源スイッチ (⏻) を 5 秒以上押し続けます。
本機の電源が切れます。

セーフモードでの起動

本機を正常に起動できない場合は、セーフモードで起動してみてください。
セーフモードで起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置してから電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 2** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して「セーフモード」を選択し、**↵** を押します。
セーフモードで起動できた場合は、不具合に対する対処を行ってください。

常駐ソフトの停止

セーフモードで起動できた場合は、常駐ソフト（システム稼動中、常に稼動しているソフト）を一時的に停止させることで問題が解決するかを確認してください。
常駐ソフトを停止する手順は次のとおりです。

- 1** 「スタート」－「検索ボックス」に「msconfig」と入力して、**↵** を押します。
- 2** 「スタートアップ」タブをクリックし、一覧から問題の原因となっている可能性のある項目（常駐ソフト）のチェックを外し、[OK] をクリックします。
- 3** 「再起動が必要な場合があります」というメッセージが表示されたら、[再起動] をクリックします。
常駐ソフトが原因ではなかった場合、外したチェックは元に戻してください。

システムの復元

本機の動作が不安定になった場合、「システムの復元」を行って Windows を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻すことで、問題が解決できることがあります。

復元ポイントは通常、ソフトウェアのインストールなどを行った際に自動的に作成されます。システムを復元ポイントの状態に戻す方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「システムツール」 - 「システムの復元」を選択します。
- 2** 「システムの復元」画面に「推奨される復元」か「別の復元ポイントを選択する」の選択肢が表示された場合は、「推奨される復元」を選択します。
復元ポイントを自分で指定したい場合は、「別の復元ポイントを選択する」を選択します。
- 3** [次へ] をクリックします。
- 4** 復元ポイントの一覧が表示された場合は、復元ポイントを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5** 「復元ポイントの確認」と表示されたら、内容を確認し、[完了] をクリックします。
- 6** 「いったんシステムの復元を開始したら…」と表示されたら、[はい] をクリックします。
コンピューターが再起動します。
- 7** 再起動後、「システムの復元は正常に完了しました。…」と表示されたら、[閉じる] をクリックします。
これでシステムの復元は完了です。

前回正常起動時の構成で起動する

セーフモードで起動できない場合は、前回正常起動時の構成で起動できるかどうかを確認します。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **F8** を「トン、トン、トン…」と連続的に押します。
- 2** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、**↑** または **↓** を押して、「前回正常起動時の構成（詳細）」を選択し、**↵** を押します。

リチウム電池の脱着(CMOS RAMの初期化)

「UEFI Setup ユーティリティ」で設定した情報は、マザーボード上の CMOS RAM に保存され、リチウム電池により保持されています。

リチウム電池は消耗品です。コンピューターの使用状況により異なりますが、寿命は約 3 年です。日時や時間がおかしくなったり、UEFI で設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。このような場合は、リチウム電池を交換してください。

UEFI のパスワードを忘れてたり、項目設定を誤ったりして本機が起動しなくなった場合には、リチウム電池を装着しなおすことで、CMOS RAM が初期化され、問題が解決できる場合があります。お試しください。

本機で利用できるリチウム電池は、次のとおりです。

- CR2032 (または同等品)



- 小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
- 作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや、感電・火災の原因となります。






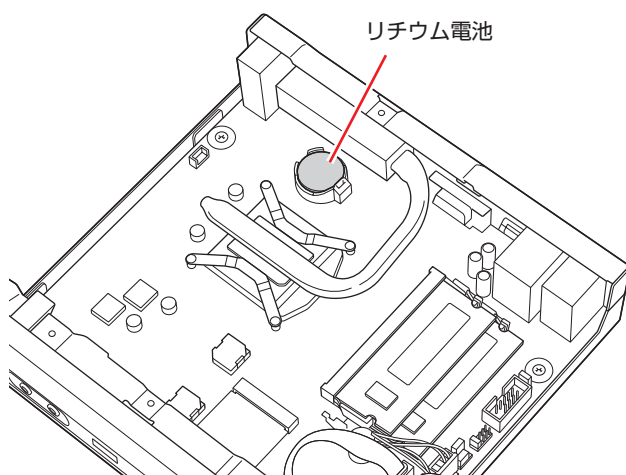
- リチウム電池の取り外しは、本機の内部が高温になっている際には行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って 10 分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所 (ぐらついた机の上や傾いた所など) で、作業をしないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



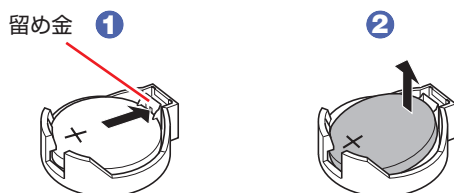
- リチウム電池を取り外すと、現在の UEFI の設定情報は初期値に戻ります。リチウム電池を取り外す前に、UEFI の設定値を記録しておくことをおすすめします。ユーザーの設定値は、「Save User Define」で保存しておくこともできます。詳しくは [p.127](#) 「ユーザー設定値を保存する」をご覧ください。
- UEFI でパスワードを設定し、HDD のアクセスを制限していた場合、リチウム電池を取り外しても、HDD へのアクセス制限を解除することはできません。HDD へのアクセス制限を設定した HDD は、パスワードを忘れると使用できなくなります。
- CMOS RAM の初期化をしても、次の項目の設定値は変更されません。
「Main」メニュー画面 - 「SATA Configuration」 - 「Configure SATA As」
「Advanced」メニュー画面 - 「USB Configuration」 - 「Connect ODD BOX」

リチウム電池の脱着方法は、次のとおりです。

- 1** 本機および接続している周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続しているケーブル類（電源コードなど）を、すべて外します。
- 3** 縦置きしていた場合は、スタンドを取り外します。
 p.109
- 4** 本体カバーを取り外します。
 p.110
- 5** ドライブキャリアを取り外します。
 p.114
- 6** リチウム電池の位置を確認します。
リチウム電池は、マザーボード上の次の位置にあります。



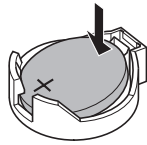
- 7** リチウム電池を取り外します。
 - 1** 電池ホルダーの留め金を押します。
 - 2** リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。



- 8** 約 1 分間放置します。

9 リチウム電池を取り付けます。

交換する場合は、新しいリチウム電池を取り付けてください。
刻印面(+側)が表側になるようにして取り付けます。取り付けると「カチッ」と音が鳴ります。



10 ドライブキャリアを元どおりに取り付けます。

11 本体カバーを取り付けます。

 p.116

12 縦置きする場合は、スタンドを取り付けます。

13 2 で外したケーブル類(電源コードなど)を接続します。

14 本機の電源を入れます。


15 「EPSON」と表示後、黒い画面に「CMOS Checksum Bad」と表示されたら、 を押します。

UEFI Setup ユーティリティが起動します。

16 を押して、UEFI を初期値に戻します。

17 日付、時刻やそのほか変更の必要のある項目の再設定を行います。

ユーザーの設定値を保存しておいた場合は、「Load Setup User Define」で戻すことができます。詳しくは、次の場所をご覧ください。

 p.127 「ユーザー設定値を保存する」

18 を押して UEFI Setup ユーティリティを終了します。

使用済みリチウムコイン電池の取り扱い

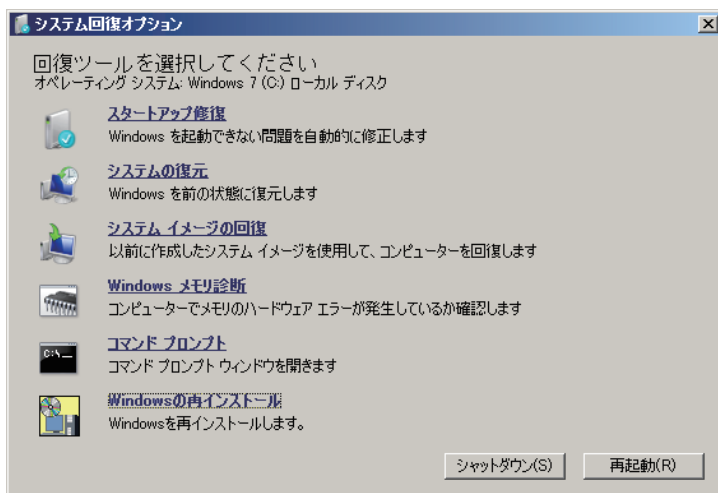
- リチウムコイン電池は、ショートしないようにテープを貼って絶縁してください。絶縁しないと、破裂、発熱の原因となります。
- リチウムコイン電池は、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混ぜて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。自治体の指示に従って廃棄してください。

Windows回復環境(Windows RE)を使う

本機のHDD内と「Windows 7リカバリーDVD」には、「Windows回復環境(Windows RE)」が設定されています。Windows REを使用して、修復を行っててください。

Windows REの項目

Windows REには、次の項目があります。



<イメージ>

● スタートアップ修復

Windowsを起動できない問題を自動的に修正します。Windowsが起動できないときは、まずスタートアップ修復を行っててください。問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行っててください。

※ USBキーボード / マウスご使用時は、修復の終了後にUSBキーボード / マウスが反応しない場合があります。その場合は、本機の電源スイッチを5秒以上押し続けて電源を切り、再度電源を入れてください。

● システムの復元

コンピューターの状態を以前の状態（復元ポイントを作成した時点の状態）に戻します。Windowsの動作が不安定な場合に行っててください。

 p.170 「システムの復元」

問題が解決しない場合は、「システムイメージの回復」を行っててください。

● システムイメージの回復

事前にシステムイメージを保存しておいた場合は、Windowsやソフトウェアを、システムイメージ保存時の状態まで一度にリカバリーすることができます。

※ 再インストールと同様、保存されているデータは消去されます。事前にバックアップを行っててください。

システムイメージの回復については、次の場所をご覧ください。




「PCお役立ちナビ」 - 「お役立ち」 - 「カテゴリから選ぶ」 - 「Windowsの操作」
- 「バックアップ」 - 「システムイメージの作成」のデータを復元する方法

- Windows メモリ診断
メモリーにハードウェアエラーが発生しているかどうかを確認します。
- コマンドプロンプト
コマンドプロンプトウィンドウを開きます。

HDD 内の Windows RE を起動する

HDD 内の Windows RE を起動する方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切り、20 秒程放置してから、電源を入れます。
※ USB キーボード / マウス使用時は、次の手順を追加してください。
 - ① 電源を入れてすぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押し、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
 - ② 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動したら、**[F10]** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。
- 2** 再起動後すぐに **[F8]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
- 3** 「詳細ブートオプション」画面が表示されたら、「コンピューターの修復」を選択し、**[↵]** を押します。
- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。
- 5** 「回復オプションにアクセスするには…」と表示されたら、「ユーザー名」を選択し、パスワードを設定していた場合には、「パスワード」にパスワードを入力して、**[OK]** をクリックします。
- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。
 p.174 「Windows RE の項目」

DVD の Windows RE を起動する

Windows RE は、「Windows 7 リカバリー DVD」にも収録されています。HDD 内に設定されている Windows RE を消去してしまった場合などに使用してください。
DVD に収録されている Windows RE の起動方法は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押し、「UEFI Setup ユーティリティ」を起動します。
Windows が起動してしまった場合は、もう一度実行してください。



- 2** 「UEFI Setup ユーティリティ」が起動したら、光ディスクドライブに「Windows 7 リカバリー DVD」をセットして、**F10** を押し、表示された画面で **[OK]** を選択して **[↵]** を押します。

Windows が起動してしまった場合は、**1** へ戻ります。

- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Press any key to boot from CD or DVD.」と表示されたら、どれかキーを押します。

- 4** 「システム回復オプション」画面が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

- 5** オペレーティングシステムの一覧が表示されたら、**[次へ]** をクリックします。

- 6** 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、実行したい項目をクリックします。以降は、画面の指示に従って作業を行ってください。

 p.174 「Windows RE の項目」

システム診断ツールを使う

システム診断ツールを使うと、ハードウェアに不具合が発生しているかどうかを診断することができます。

システム診断ツールの種類

システム診断ツールには、次の2種類があります。

- PC お役立ちナビから起動するシステム診断ツール

PC お役立ちナビからシステム診断を行うことができます。Windows を起動できる場合に使用します。

- DVD から起動するシステム診断ツール

Windows が起動できない場合に、「ドライバー DVD」からツールを起動してシステム診断を行います。

システム診断を実行する

Windows を起動できる場合とできない場合で、システム診断の実行方法は異なります。


Windows を起動できる場合

PC お役立ちナビからシステム診断を行います。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 デスクトップ上の「PC お役立ちナビ」アイコンをダブルクリックします。




< PC お役立ちナビアイコン >

- 2 PC お役立ちナビが起動したら、[トラブル解決] - [システム診断ツール起動] をクリックします。
- 3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、[はい] をクリックします。
- 4 システム診断ツールが起動したら、診断したい項目をクリックします。
該当項目の診断が開始されます。
- 5 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。

Windows を起動できない場合

「ドライバー DVD」からシステム診断ツールを起動します。
実行方法は、次のとおりです。

- 1 ドライバー DVD を光ディスクドライブにセットして、本機を再起動します。
- 2 黒い画面の中央に「EPSON」と表示され、消えた後、「Kernel Loading・・・ Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 3 診断が終了したら、診断結果を確認します。
「Passed」と表示された場合、ハードウェアは正常に動作しています。
「Failed」と表示された場合は、該当項目に不具合がある可能性があります。
 別冊『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。
- 4 光ディスクドライブからドライバー DVD を取り出し、電源を切ります。
これでシステム診断は完了です。





付録

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載しています。

お手入れ	180
セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化...	181
HDD 領域の変更	182
コンピューターを廃棄するときは	186
機能仕様一覧	189

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。

通風孔

通風孔にホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。
定期的に乾いた柔らかい布で取り除いてください。

内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。
水分や化学物質により故障の原因となります。

セキュリティーチップ (TPM) によるデータの暗号化

本機に搭載されているセキュリティーチップ (TPM) を使用すると、本機に保存されているデータを高度に暗号化することができます。

TPM のセキュリティー機能の使用方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」



制限

TPM のセキュリティー機能で設定したパスワードは絶対に忘れないでください。
忘れた場合、それまでに暗号化したデータの復元ができなくなります。

使用上の注意

これは管理者向けの機能です。TPM のセキュリティー機能を使用する場合は、内容を十分に理解し、お客様の責任において暗号化を行ってください。

TPM のセキュリティー機能使用前の準備

TPM のセキュリティー機能を使用するには、UEFI の設定と「セキュリティーチップユーティリティー」のインストールが必要です。

UEFI の設定

UEFI の設定は、「UEFI Setup ユーティリティー」で行い、場合により作業が異なります。

 p.122 「UEFI Setup ユーティリティーの操作」

 p.138 「Security メニュー画面」

初めて TPM を使用する場合

- 1 TPM の情報を初期化します。
「Security」メニュー画面 - 「Clear Trusted Platform Module」の実行
実行すると、「Trusted Platform Module」の設定が [Disabled] (無効) になります。
- 2 TPM 機能を有効 [Enabled] に設定します。
「Security」メニュー画面 - 「Trusted Platform Module」: [Enabled] (有効)

Windows を再インストールした場合

TPM 機能が有効 [Enabled] に設定されていることを確認します。

「Security」メニュー画面 - 「Trusted Platform Module」: [Enabled] (有効)

セキュリティーチップユーティリティーのインストール

購入時、本機に「セキュリティーチップユーティリティー」はインストールされていません。TPM のセキュリティー機能を使用するには、セキュリティーチップユーティリティーのインストールを行う必要があります。

インストール方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「セキュリティー機能 (TPM) 設定ガイド」

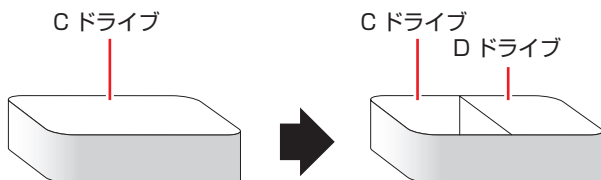
HDD 領域の変更

ここでは、HDD 領域の変更方法について説明します。

HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域は、いくつかに分割して使用することができます。

分割したひとつひとつの領域を「パーティション」と言います。また、Windows で使えるように作成した領域を「ドライブ」と言います。



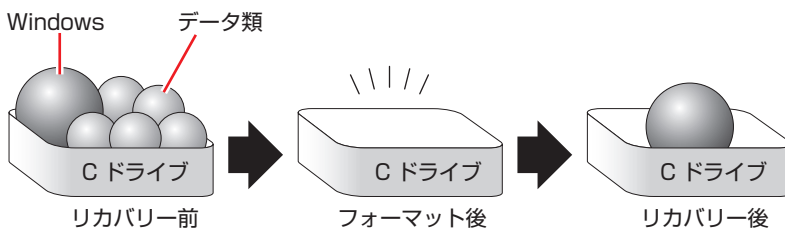
HDD 領域分割のメリットとデメリット

HDD 領域を分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。
HDD 領域を分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

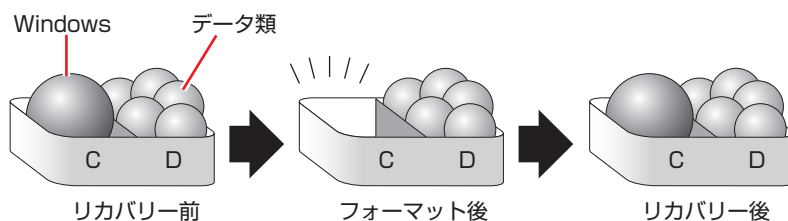
HDD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、Windows の再インストール（リカバリー）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD 領域が 1 の場合



リカバリーを行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD 領域を分割した場合



たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリーを行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

リカバリーを行うときは、万が一に備え、C ドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしておくことをおすすめします。

デメリット

- HDD 領域変更の際、ドライブを削除すると、ドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

HDD 領域の変更(拡張/縮小/削除/作成)

HDD 領域の変更は、Windows の「ディスクの管理」で行います。

C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) の領域変更も、「ディスクの管理」で行うことができます。



参考

Windows の再インストール中に領域変更する

HDD 領域の変更は、Windows の再インストール中に行うこともできます。

 p.149 「Windows 7 のインストール」

ドライブの作成は、「ディスクの管理」で行ってください。



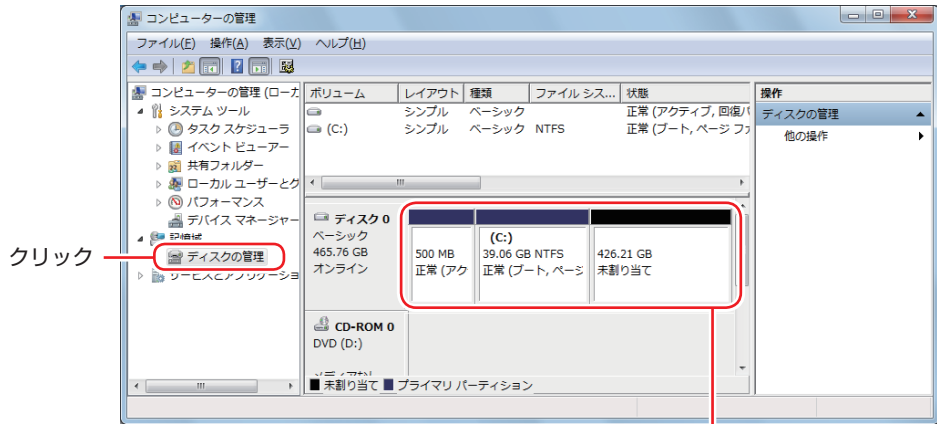
制限

- 作業の前に、重要なデータは外付け HDD などにバックアップしてください。
- 拡張はドライブのすぐ後ろ (右隣) に「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。
- 縮小できるサイズには限界があります。
- C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) は削除できません。
- ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。
- 作成は、「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。

HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）方法は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」 – 「ディスクの管理」を開きます。

新しいHDD を装着した場合は、「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



<イメージ> HDD 領域の状態

2 HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）を行います。

ドライブを拡張する場合

- 1 拡張するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの拡張」をクリックします。
- 2 「ボリュームの拡張ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ディスクの選択」と表示されたら、「ディスク領域 (MB) を選択」で拡張する容量を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 「ボリュームの拡張ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
ドライブが拡張され、ドライブの容量が増えます。

ドライブを縮小する場合

- 1 縮小するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの縮小」をクリックします。
- 2 「(ドライブ文字) の縮小」画面が表示されたら、「縮小する領域のサイズ」を入力し、[縮小] をクリックします。
ドライブが縮小され、「未割り当て」領域が増えます。
※ C ドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

ドライブを削除する場合

- 1 削除するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 2 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
ドライブが削除され、「未割り当て」領域が増えます。

ドライブを作成する場合

- 1 「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 2 「新しいシンプルボリュームウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、ドライブが使用できるようになります。

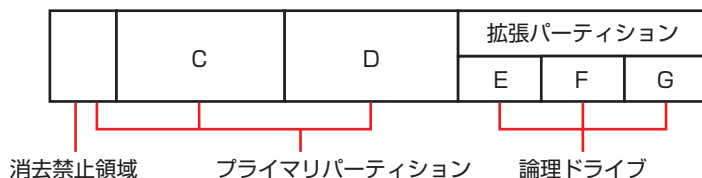


参考

パーティションの種類

- パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1 つの HDD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。
- 「消去禁止領域」もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要です。

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。ドライバー DVD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。消去を開始すると、HDD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。



データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ

HDD を 2 台搭載している場合

この機能で消去できるデータは、SATAO コネクタに接続されている HDD のデータのみです。そのほかの HDD のデータを消去したいときは、HDD を SATAO コネクタに接続してからデータの消去を行ってください。








 p.113 「HDD の接続位置」

RAID を構成している場合

RAID を構成しているすべての HDD のデータが消去されます。

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。


- 1** 本機の電源を入れ、ドライバー DVD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [▷] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading・・・Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。



7 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。

「!!WARNING!!」画面が表示されます。

消去が始まると、途中で止めることはできません。

消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。

8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は HDD の容量によって異なります（40GB の HDD の場合で約 30 分）。

9 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、ドライバー DVD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

機能仕様一覧

型番	ST170E		
CPU	プロセッサ	購入時の選択による	
	ソケット	Socket G3	
チップセット	モバイル インテル HM87 Express		
UEFI	AMI UEFI		
メインメモリー*1	メモリー	PC3L-12800 (DDR3L-1600 SDRAM)	
	搭載可能容量 (最大)	Windows 7 32bit 版	4GB (システム上利用できるのは約 3GB まで)
		Windows 7 64bit 版	16GB
スロット	SODIMM スロット (204 ピン) × 2 (同容量 2 枚 1 組で使用の場合、デュアルチャンネルで動作)		
ビデオ機能 (CPU 内蔵)	コントローラー	CPU による	
	メモリー (メインメモリーと共用)	Windows 7 32bit 版	メインメモリー 2GB 時最大 776MB メインメモリー 4GB 時最大 1560MB
		Windows 7 64bit 版	メインメモリー 2GB 時最大 783MB メインメモリー 4GB 以上時最大 1696MB
表示解像度 (最大)*2	1600 × 1200、1920 × 1200 (ワイドディスプレイ接続時のみ) True Color 32 ビット (約 1,677 万色)		
HDD	シリアル ATA300 または 600MB/s 対応 2.5 型 HDD (容量、台数は購入時の選択による)		
光ディスクドライブ (オプション)	シリアル ATA 対応 スリム光ディスクドライブ (種類は購入時の選択による)		
サウンド機能	インテル ハイ・デフィニション・オーディオ対応 Realtek 製 ALC662 コントローラー		
ネットワーク機能	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 インテル製 I217V コントローラー		
有線 LAN 増設ポート (オプション)	1000Base-T/100Base-TX/10Base-T 対応 Realtek 製 RTL8111G コントローラー		
無線 LAN / Bluetooth (オプション)	Intel Dual Band Wireless-AC 7260 + Bluetooth [WiFi CERTIFIED] モジュール Intel Dual Band Wireless-AC 7260 [WiFi CERTIFIED] モジュール		
マウス / キーボード	購入時の選択による		
インタフェース	USB2.0	5 (前面 × 2、背面 × 3)	
	USB3.0	3 (前面 × 1、背面 × 2)	
	LAN	1 または 2 : RJ-45	
	サウンド	前面 : ヘッドホン出力 × 1、マイク入力 × 1 背面 : ライン入力 × 1、ライン出力 × 1、マイク入力 × 1	
	ディスプレイ	3 : ミニ HDMI × 1、DVI-D (24 ピン) × 1、VGA (ミニ D-SUB 15 ピン) × 1	
	キーボード	1 : PS/2 互換 ミニ DIN 6 ピン	
	シリアル (オプション)	1 : D-SUB 9 ピン	
ドライブベイ	2.5 型 HDD 用	2	
セキュリティーチップ (TPM)	TPM1.2 対応 Infineon SLB9655TT1.2 コントローラー		
外形寸法 (幅 × 奥行 × 高さ)	45 x 185 x 195 mm 75 x 185 x 203 mm (スタンド装着時)		
質量 (基本構成時)	約 1.2kg (スタンド装着時 : 約 1.3kg)		
電源	AC アダプター*3 (ADP-90CD CB)	入力 : AC100 ~ 240V ± 10% (50/60Hz)、1.5A 出力 : DC19V、4.74A、90W 質量 : 約 452g (電源コード含む)	
消費電力 (最大定格出力時)	105.9W (理論値)		
動作環境	動作温度 : 10 ~ 35℃、動作湿度 : 20 ~ 80% (ただし、結露しないこと)		

*1 今後、使用可能なメモリーが追加される場合があります。また、それにともない、最大搭載可能容量が変更になることがあります。メモリーの最新情報は、当社ホームページでご確認ください。

*2 本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度であり、接続するディスプレイの仕様によっては表示できない場合があります。

*3 本機に搭載されている電源コードは AC100V 用 (日本仕様) です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

本書に記載している仕様は製品発売時の情報です。最新情報は次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下 [ユーザーサポート] - FAQ 番号 : 27539

無線機能(オプション)

本機の無線機能について記載します。

< Intel Dual Band Wireless-AC 7260 + Bluetooth [WiFi CERTIFIED] モジュール選択時 >

Bluetooth

Bluetooth* の仕様は次のとおりです。

準拠規格	Bluetooth 標準規格 V4.0+EDR、LE 対応
転送速度(規格値)	3Mbps

*本製品には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。

認証製品名：7260HMMW

認証番号：003-130044

無線 LAN

無線 LAN*¹ の仕様は次のとおりです。

準拠規格	IEEE802.11ac/a/n 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T71 IEEE802.11b/g/n 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T66
データ転送速度 (規格値)* ²	IEEE802.11a/g：54Mbps、IEEE802.11b：11Mbps、 IEEE802.11n：300Mbps(2x) / 450Mbps(3x) / 600Mbps(4x) IEEE802.11ac：867Mbps(2x)
変調方式	DS-SS 方式、OFDM 方式
伝送距離 (理論値)* ³	IEEE802.11ac/a (54Mbps)：12m、IEEE802.11b (11Mbps)：40m、 IEEE802.11g (54Mbps)：25m
セキュリティ* ⁴	IEEE802.11ac/a/b/g：128/64bit WEP、WPA、WPA2、IEEE802.1x 認証に対応 IEEE802.11n：WPA、WPA2 (AESのみ)、IEEE802.1x 認証に対応
使用無線 チャンネル	IEEE802.11ac/a/n：36/40/44/48ch (W52)、52/56/60/64ch (W53)、100/104/ 108/112/116/120/124/128/132/136/140ch (W56) IEEE802.11b/g/n：1～13ch

*¹ 本機には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。

認証製品名：7260HMMW

認証番号：003-130044

*² 無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

*³ 屋内におけるアクセスポイントとの通信距離です。実際の距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windows などの使用条件によって短くなります。

*⁴ IEEE802.1x について、Windows Server 2012 との IEEE802.1x Radius Server (EAP-TLS 対応認証サーバー) + WPA (TKIP) の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

無線 LAN

無線 LAN*1 の仕様は次のとおりです。

準拠規格	IEEE802.11a/n 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T71 IEEE802.11b/g/n 無線 LAN 標準プロトコル、ARIB STD-T66
データ転送速度 (規格値) *2	IEEE802.11a/g : 54Mbps、IEEE802.11b : 11Mbps、 IEEE802.11n : 300Mbps(2x) / 450Mbps(3x) / 600Mbps(4x)
変調方式	DS-SS 方式、OFDM 方式
伝送距離 (理論値) *3	IEEE802.11a (54Mbps) : 12m、IEEE802.11b (11Mbps) : 40m、 IEEE802.11g (54Mbps) : 25m
セキュリティ *4	IEEE802.11a/b/g : 128/64bit WEP、WPA、WPA2、IEEE802.1x 認証に対応 IEEE802.11n : WPA、WPA2 (AES のみ)、IEEE802.1x 認証に対応
使用無線 チャンネル	IEEE802.11a/n : 36/40/44/48ch (W52)、52/56/60/64ch (W53)、100/104/ 108/112/116/120/124/128/132/136/140ch (W56) IEEE802.11b/g/n : 1 ~ 13ch

*1 本機には、電波法の規定により、工事設計認証を取得した無線設備を内蔵しています。

認証製品名 : 7260HMW

認証番号 : 003-130044


*2 無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

*3 屋内におけるアクセスポイントとの通信距離です。実際の距離は、電波環境、障害物、設置環境などの周囲条件や、アプリケーション、Windows などの使用条件によって短くなります。

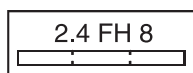
*4 IEEE802.1x について、Windows Server 2012 との IEEE802.1x Radius Server (EAP-TLS 対応認証サーバー) + WPA (TKIP) の組み合わせによる認証において動作を確認しています。すべての環境下での動作を保証するものではありません。

電波に関するご注意

無線機能選択時、本機には認証を取得した無線設備が内蔵されており、5GHz (802.11ac/a/n) または 2.4GHz (802.11b/g/n) の周波数帯を使用します。

- 本機の無線設備は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局として技術基準適合証明を受けているため、本機を分解／改造しないでください。なお、日本国内でのみ使用できます。
- 5GHz (W52、W53、W56) の周波数帯は、電波法の規定により屋外では使用できません。
- 2.4GHz の周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と称す）が運用されています。
 - (1) 本機の無線設備をご使用になる前に、近くで「他の無線局」が使用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本機の無線設備と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所または使用無線チャンネルを変えるか、運用（電波の発射）を停止してください。
 - (3) 電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことがおきたときには、『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。テクニカルセンターまでお問い合わせください。

<Bluetooth>



変調方式として GFSK 方式を採用しており、与干渉距離は 80m です。
使用無線チャンネルは変更できません。

<無線LAN>



変調方式として DS-SS および OFDM 方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。

エプソンダイレクト ユーザーサポートページ

www.epsondirect.co.jp/support/